<操作>下線部をクリックすると該当ページにジャンプします。「Tab」キーを押すと目次に戻ります。

目　　次

頁

Ⅰ　はじめに（学類長のことば）…… 1

Ⅱ　行事計画等について

1．学習案内を読む前に（重要）…… 2

2．教務関係日程表…… 2

Ⅲ　学類・専攻の紹介

1．共生システム理工学類における教育の特色…… 3

2．共生システム理工学類の構成…… 3

3．グループ制度について…… 4

4．専攻所属と研究室配属について…… 5

5．転学類について…… 6

Ⅳ　カリキュラムの特色と構造…… 7

Ⅴ　履修基準表…… 9

Ⅵ　各領域の履修について

1．自己デザイン領域の履修について…… 12

2．共通領域の履修について…… 19

3．専門領域の履修について…… 38

4．自由選択領域の履修について…… 50

Ⅶ　他学類の専門領域科目の履修について…… 52

Ⅷ　履修に関する基本的事項

1．授業時間及びセメスター…… 53

2．履修科目の登録手続きについて…… 53

3．試験及び成績（ＧＰＡ制度）について…… 54

4．成績発表・不服申立について…… 56

5．履修登録の上限（Ｃａｐ制度）について…… 56

6．履修登録撤回制度について…… 56

7．未完了について…… 57

8．再修得制度について…… 57

9．シラバスについて…… 58

10．オフィス・アワーについて…… 58

11．履修に関する注意事項…… 58

Ⅸ　特修プログラム「ふくしま未来学」…… 59

Ⅹ　グレードアップ特修プログラム

1．情報特修プログラム…… 63

2．英語特修プログラム…… 65

Ⅺ　放射線対策科学専修プログラム…… 66

Ⅻ　他大学等及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について…… 69

XIII　教育職員免許状の取得について…… 71

XIV　大学間交流協定に基づく学生派遣について…… 79

XV　諸手続きについて…… 83

XVI　関係規程等…… 85

XVII　ディプロマポリシー，カリキュラムポリシー，カリキュラムマップ…… 107

XVIII　開放科目一覧…… 113

XIX　教員電話番号表，施設配置図…… 119

平成30年度　教務関係日程表（4月～9月）

4月				5月				6月				7月				8月				9月			
1	日	春季休業		1	火	授業	みなし月曜日	1	金	授業		1	日	授業		1	水	正規試験・補講期間		1	土	夏季休業（集中講義・各種実習等）	
2	月		「ライブキャンパス」で各自が履修科目の登録をします。	2	水		みなし金曜日	2	土			2	月			2	木			2	日		
3	火			3	木		憲法記念日	3	日			3	火			3	金			3	月		
4	水		入学式	4	金		みどりの日	4	月			4	水			4	土			4	火		
5	木		新入生ガイダンス(4/4-6)（新入生の履修登録は4/7-16）	5	土		こどもの日	5	火			5	木			5	日			5	水		
6	金			6	日		・みなし月曜日は月曜日の授業を実施（火曜日の授業は行いません。） ・みなし金曜日は金曜日の授業を実施（水曜日の授業は行いません。）	6	水			6	金			6	月			6	木		
7	土	授業		7	月			7	木			7	土			7	火	夏季休業（集中講義・各種実習等）	追試験申請締切	7	金		
8	日			8	火			8	金			8	日			8	水			8	土		「ライブキャンパス」で忘れずに確認しよう！
9	月		受付/広域選択・総合科目及び学群共通科目1次受付（4/9－4/10）	9	水			9	土			9	月			9	木			9	日		
10	火			10	木		履修登録撤回期間 10日～11日	10	日			10	火			10	金			10	月		成績発表（全学生）10日 9:00～
11	水		4/11午後　サークルオリエンテーション	11	金			11	月			11	水			11	土		山の日	11	火		不服申立期間（全学生）10日～11日正午まで
12	木		広域選択・総合科目／学群共通科目受付結果発表	12	土			12	火			12	木			12	日		共通講義棟には入れません！	12	水		
13	金		広域選択・総合科目／学群共通科目2次受付	13	日			13	水			13	金		正規試験科目発表	13	月		大学一斉休業期間 13日～15日（全施設閉鎖）	13	木		
14	土			14	月			14	木			14	土			14	火			14	金		
15	日			15	火			15	金			15	日			15	水			15	土		
16	月		広域選択・総合科目／学群共通科目2次受付	16	水			16	土			16	月		海の日	16	木		追試期間（16日～17日）	16	日		
17	火	履修登録修正期間	「ライブキャンパス」で登録内容をしっかり確認しよう！	17	木			17	日			17	火			17	金			17	月		敬老の日
18	水			18	金			18	月			18	水			18	土			18	火		
19	木			19	土			19	火			19	木			19	日			19	水		
20	金		4月20日～22日 新歓行事（スポーツ大会）<昼間:20日3～5休講><夜間:21日休講>	20	日			20	水			20	金		正規試験日程発表	20	月			20	木		
21	土			21	月			21	木			21	土			21	火			21	金		
22	日			22	火			22	金			22	日			22	水			22	土		
23	月			23	水			23	土			23	月			23	木			23	日		秋分の日
24	火			24	木			24	日			24	火			24	金			24	月		振替休日
25	水			25	金			25	月			25	水			25	土			25	火		
26	木			26	土			26	火			26	木		未完了手続き締切	26	日			26	水		
27	金			27	日			27	水			27	金	正規試験・補講期間	正規試験・補講期間　開始	27	月			27	木		
28	土			28	月			28	木			28	土			28	火			28	金		学位記授与式(9月卒業者)
29	日		昭和の日	29	火			29	金			29	日			29	水		卒論提出時は学生証を忘れずに！	29	土		
30	月		振替休日	30	水			30	土			30	月			30	木			30	日		
				31	木							31	火			31	金		卒業論文提出締切（9月卒業予定者）				

平成30年度　教務関係日程表（10月～31.3月）

10月				11月				12月				1月				2月				3月			
1	月	授業	履修登録期間 受付/広域選択・総合科目及び学群共通科目1次受付（10/1－2）	1	木	授業		1	土	授業		1	火	冬季休業	大学一斉休業期間 12月29日～1月3日 （全施設閉鎖）	1	金	授業	未完了手続き締切	1	金	春季休業	
2	火		「ライブキャンパス」で各自が履修科目の登録をします。	2	金			2	日			2	水			2	土			2	土		「ライブキャンパス」で忘れずに確認しよう！
3	水			3	土		文化の日	3	月			3	木			3	日			3	日		
4	木		広域選択・総合科目／学群共通科目受付結果発表	4	日			4	火			4	金			4	月	正規試験・補講期間	正規試験・補講期間　開始	4	月		成績発表（全学生） 4日 9:00～
5	金			5	月		6・7時限に土曜日の授業を実施（水曜日の授業は行いません。）	5	水			5	土			5	火			5	火		不服申立期間（全学生） 4日～5日正午まで
6	土		月曜日の授業を実施（火曜日の授業は行いません。）	6	火			6	木			6	日			6	水			6	水		
7	日			7	水		みなし土曜日	7	金			7	月	授業		7	木			7	木		
8	月		体育の日	8	木		履修登録撤回 8日～9日	8	土			8	火			8	金			8	金		
9	火		みなし月曜日	9	金			9	日			9	水			9	土			9	土		共通講義棟には入れません！
10	水		広域選択・総合科目／学群共通科目2次受付	10	土			10	月			10	木			10	日			10	日		
11	木			11	日			11	火			11	金			11	月		建国記念の日	11	月		入　試　準　備
12	金			12	月			12	水			12	土			12	火			12	火		後期日程入試
13	土			13	火			13	木			13	日			13	水			13	水		
14	日			14	水			14	金			14	月		成人の日	14	木	春季休業	追試験申請締切	14	木		
15	月			15	木			15	土			15	火		1/18～1/20終日 大学構内への入構禁止！	15	金			15	金		
16	火		「ライブキャンパス」で登録内容をしっかり確認しよう！	16	金			16	日			16	水			16	土			16	土		
17	水	履修登録修正期間		17	土			17	月			17	木			17	日			17	日		
18	木			18	日			18	火			18	金		センター試験準備のため休講	18	月			18	月		
19	金			19	月		金曜日の授業を実施（木曜日の授業は行いません。）	19	水			19	土		センター試験 （19日休講）	19	火		追試期間 19日～20日	19	火		
20	土			20	火			20	木			20	日			20	水		共通講義棟には入れません！	20	水		
21	日			21	水			21	金			21	月		正規試験科目発表	21	木			21	木		春分の日
22	月			22	木		みなし金曜日	22	土			22	火			22	金		入　試　準　備	22	金		
23	火			23	金		勤労感謝の日	23	日	冬季休業	天皇誕生日	23	水			23	土			23	土		
24	水		スポーツフェスティバル <昼間：10月24日～26日>休講 <夜間：10月26日>休講	24	土			24	月		振替休日	24	木			24	日			24	日		
25	木			25	日			25	火			25	金			25	月		前期日程入試 （25日～26日）	25	月		学位記授与式
26	金			26	月			26	水			26	土			26	火			26	火		
27	土		福大祭（27日は休講、一般公開10/27-28）	27	火			27	木			27	日			27	水			27	水		
28	日			28	水			28	金			28	月		正規試験日程発表	28	木			28	木		
29	月			29	木			29	土		大学一斉休業期間 12月29日～1月3日 （全施設閉鎖）	29	火							29	金		
30	火			30	金			30	日			30	水		学生証を忘れずに！					30	土		
31	水							31	月			31	木		卒業論文提出締切日					31	日		

Ⅰ　はじめに（学類長のことば）

共生システム理工学類長　　二見亮弘

新入生の皆さん，ご入学おめでとうございます。入学直後は友達づくりや新しい生活環境への対応などで気持ちに余裕がないと思いますので，このページは後日，機会があるごとに読み返してください。大学で学ぶことの意義を感じてもらえれば幸いです。

福島大学の共生システム理工学類は，「人・産業・環境の共生をめざす科学と技術」の創生・発展を目指して設立され，平成17年4月から学生を受け入れ，文理融合型カリキュラムや実践的研究能力の育成に寄与する事業などを通して，特色ある教育・研究を進めてきました。既に多くの学類卒業生・大学院修了生が社会で活躍しています。

この学類名には，人・産業・環境などをシステムとして理解して，人間社会が抱える問題を解決し，安全・安心な共生社会を創造したいという願いが込められています。共生とは，結びつきをもって共に生きることです。システムとは，構成要素，要素間の関係（相互作用），および目的（機能）を内包する集合体のことで，大学も企業も社会も生物も環境も，自動車も机もシステムです。宇宙や原子核の世界さえも，目的や摂理が人知を越えていますがシステムと考えることができます。

さて，人間は社会を作って共生してきた生き物ですが，人々は現代科学技術による恩恵の限界に気づき始め，現代人に求められる意識も変わってきています。こんな中，社会において大局的に考え，主体的に活躍するために必要なのは，スペシャリストではなくジェネラリストとしての素養ではないでしょうか。本学類は，どこかの専門分野にきちんと根っ子をもつ元気なジェネラリストを育成したいと考えています。

そして卒業研究は，主体的に考えて行動し新しい知を生み出す力や，さまざまな社会人力を養成するための必修科目です。そのための準備としての専門科目や基礎科目もカリキュラムに設定されています。また，人として将来学び続けるために必要な教養科目も用意されています。これらは大学というシステムの目的を達成するための重要な構成要素です。

学生諸君には，大学や大学院を卒業/修了し，社会に貢献し，よりよい人生を送るために，今何ができるか考えて行動してほしいと思います。ときには，自分の心（精神活動）をシステムとして分析してみるといいでしょう。すると，論理が通用しない直観的な好き嫌いの要素や，「他者から見た自分」という虚像，楽天的な自分と悲観的な自分，優越感や劣等感の存在，それらの関係性などに気づくと思います。これらも心のシステムに含めて，できるだけ客観的に認識してしまえばいいのです。

大学での学習や研究についてのもっと現実的な話としては，「自分は何が分かっていて何が分かっていないのか」という境界を自覚して努力することが重要です。またこのとき，「分かっているつもり」で次に進んでしまうことの蓄積が最大の問題なので，友人や教員と積極的にコミュニケーションをとって確認し，他人の力も上手に借りるという行動が極めて重要です。もちろん他人に力を貸すことは自分の成長にもつながります。

現代において，充足感をもって生きていくために最良と思える方法は，人や社会から必要とされる人間になり，少しづつでも学び続けることをやめず，時々は達成感も得ることです。その結果として何か大成功を収めてしまう場合もあるでしょう。我々は皆さんが，職業人として人に喜びを与えられる創造力と真面目さを身につけ，社会で生き生きと活躍してほしいと願っています。そして皆さんが，自分にどんな適性や可能性があるのか，どんな専門力を目指してどの科目を履修するのがベストなのか．．．，　考えるのは今です。

なお，できるだけ楽をして卒業したいという方針だけで進んでいくと，卒業が近くなった頃には，就職試験の面接などで有効な自己ＰＲができない（売りがない）中途半端な自分に気づくことになってしまいます。どんな研究を行っていて，どんな知識と経験と自信を得たのか，はっきり言えるようになることを目指すべきです。専攻配属，研究室配属，卒業，（大学院入学，修了，）就職という関門の突破に向けて，この学習案内を隅から隅までよく読み，悔いのない充実した学生生活を送られることを貴方に期待します。

Ⅱ　行事計画等について

１．学習案内を読む前に（重要）

この学習案内は，共生システム理工学類とその各専攻の紹介から始まり，福島大学のカリキュラム（教育課程）の構造，カリキュラムの４つの領域ごとの科目とその履修方法などの説明，履修に関する基本的な事項の説明，グレードアップ特修プログラムの修得，そして教育職員免許状の取得などに関する説明，諸手続きに関する事項や関係規程などから成っています。履修にあたっては，別紙の「時間割表」，別冊子の「学生便覧」も併せて読んでください。

みなさんは，２年次前期に専攻所属となり，各専攻の履修基準に基づき学んでいくようになりますが，自分の所属する（あるいは所属しようとする）専攻に関する部分だけでなく，とにかくまず全部に目を通して，重要事項は何なのか，必要なのかを把握してください。

この学習案内は，４年間の履修計画を立てられるようになっていますので，卒業まで大切に扱ってください。できれば通学の際に常時携行してください。また，基本的な事項・情報を提供していますが，なお詳細な事項は掲示やガイダンスなどで周知・説明が行われますので，そちらを見落としたり欠席しないように十分注意をする必要があります。**学習案内の記載事項や掲示の見落としなどにより，卒業や資格取得ができなくなったとしても，それはみなさんの自己責任となります。**

２．教務関係日程表

平成３０年度の各種行事，手続き等の日程は前ページに示していますが，それ以外の手続き等についても，それぞれ期日を指定し掲示しますので，定められた期日を厳守してください。**指定期間以外は受付を一切行いませんのでご注意ください。**

また，日程は変更することもあり得るので，掲示に注意し，指定された期間内に必ず手続きを終えるようにしてください。

本学習案内に記載した日程はすべて平成３０年度の日程となっています。次年度以降は日付が異なります。時間割表については毎年度配付されます。その他各種行事の日程は掲示等で周知します。

詳しくは，LiveCampus 上にＵＰしている日程表(年度毎に更新)を参照してください。
以下のＵＲＬよりダウンロードできます。

URL:http://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/

Ⅲ　学類・専攻の紹介

１．共生システム理工学類における教育の特色

共生システム理工学類では，（１）基礎・基本を重視し，自ら問題を設定し，問題解決のできる教育の重視，（２）視野の広い人材を育成するための文理融合型教育の重視，（３）国際貢献できる国際性を身につけた教育の重視，（４）実践力を身につける実践型教育の重視，の４つを教育の柱としています。これらの具体化のために，「専門領域」を，「基礎科目」，「専攻専門科目（講義科目＋文理融合科目＋実践科目）」，「自由選択科目」，「演習」，「卒業研究」の５領域に区分し，それぞれに基礎単位を必修化すると同時に，選択科目を可能な限り拡大し，きめ細かな修学指導を行うことによって，学生の多様な学習ニーズに対応しています。

２．共生システム理工学類の構成

２１世紀の課題を見据え，その解決に貢献できる人材を育成することが本学類の目標です。そのために，本学類は「人理解」を中心に「人技術」の研究・教育を主体とする「人間支援システム専攻」，省資源，最適生産，持続循環型産業システムの研究・教育を主体とする「産業システム工学専攻」，自然資源の質的・量的な確保や保全を目的とし，保全・浄化・管理計画の研究・教育を主体とする「環境システムマネジメント専攻」の３専攻から構成されています。すべての専攻の「専門領域」で，理工系の基礎・基本科目と，経営マインド，環境マインドを理解する文理融合科目を配置しています。その上で理工系の専門科目を配置し，少人数によるきめ細かい教育支援体制とＧＰＡ等による達成度評価により，学生の基礎学力を保証します。以下に，それぞれの専攻のカリキュラムの特徴等を説明します。

（1）人間支援システム専攻

① 人間支援システム専攻がめざすもの

世界的な少子・高齢化社会の到来のなかで，すべての人がより快適に，安心・安全に生活できる社会を実現するためには，深い人間理解に基づく技術開発が不可欠です。

人間支援システム専攻では，生理学や心理学，人間工学など人間を理解するための科学と理学・工学を融合し，研究・教育を展開します。深い人間理解に基づいて人間を支援するためのソフトウェアやロボット等の研究・開発を行える人材の育成を目標としています。

② 教育の特色

1）情報工学や機械・電気・電子工学など人間支援システムの開発に必要な広範な基盤科目を効率的に学びます。

2）生理学，心理学，人間工学などの人間理解のための科目を含むカリキュラム体系を用意します。

3）「創造工房ゼミ」や「卒業研究」を通して，学生の自発的な課題探究心を高めることを重視します。

（2）産業システム工学専攻

① 産業システム工学専攻がめざすもの

新たな高付加価値の産業社会を創出するには，省資源，循環型社会対応産業の構築や最適生産システムの構築が必要になっています。また，こうした新たな生産システムの構築が産業と環境の共生にも重要になっています。産業システム工学専攻では，エネルギーや材料を中心としたものづくりを通して，システム分析・設計能力，統計解析能力，経営的センスを有する21世紀型産業システム作りを担う人材を育成します。

② 教育の特色

1）化学・材料・生物工学，エネルギー工学，経営工学など産業システムの開発に必要な広範な基盤科学を効率的に学びます。

2）環境マインドと経営的センスを兼ね備えた技術者を育てます。

3）国内外の産業システムを実践的に学ぶインターンシップ，海外演習など国際性に富んだキャリア形成を重視します。

（3）環境システムマネジメント専攻

① 環境システムマネジメント専攻がめざすもの

私たちの地球では，人口増加と人間活動の拡大によって，地球温暖化をはじめ，さまざまな環境問題が発生しています。こうした問題を解決するためには，地圏，水圏，気圏と生態システムの理解および人間活動による影響把握が不可欠です。そのためにはこれまでの学問分野を超えた理学―工学―社会科学を融合した新しい共生システム科学とそれに基づくマネジメント科学の創造が必要になっています。環境システムマネジメント専攻では，こうした素養を身に付けた新たな人材を育成します。

② 教育の特色

1）理学・工学・社会科学を含めて自然資源の循環に沿ったカリキュラム体系を用意しています。

2）自然資源の豊かな福島で，実践的なフィールドワークをふまえた自然資源の実態把握と保全・浄化・管理計画を学びます。

3）国内外の環境調査をはじめとするインターンシップ，海外演習など国際性に富んだキャリア形成を重視します。

3．グループ制度について

大学での学び方等の導入教育や大学生活に関する様々なガイダンスを効率よく行うために，また，教員と学生の双方に良き緊張関係を醸成し，密度の高い授業を行うために，本学類では３段階のグループ制度を設けています。また，これらのグループのうち，課題学習グループには，学生生活や修学に関する相談に乗ったり，アドバイスをしたりする「グループ・アドバイザー」が置かれています。

（1）３段階のグループの内容

① 課題学習グループ

入学時に１グループ約２０名からなる少人数クラスである「課題学習グループ」が編成されます。このグループは「教養演習」という授業を受講する単位となり，この授業の中では，大学での学び方の導入教育，様々なガイダンスなどが行われます。各グループには一人ずつの教員が「グループ・アドバイザー」として置かれます。

② 課題探求グループ

専攻所属後の第３セメスターから第５セメスターにかけて，所属専攻の研究分野に関係する学習課題を自主的に設定し，主体的に学ぶ活動を行う「課題探求グループ」を編成することを奨励します。このグループの活動を自己デザイン領域の「自己学習プログラム」として登録し，単位を取得することができます。

③ 課題追求グループ

同じ研究室に配属された学生によって「課題追求グループ」が編成されます。このグループでは卒業研究にかかわる各専攻の「演習」や「卒業研究」という授業を受講する単位となるとともに，日常的に研究や進路に関するディスカッションを相互に行います。

（2）グループ・アドバイザー制度

グループ・アドバイザーは入学時に編成される「課題学習グループ」に置かれ，学生が研究室に配属するまでの間（第１セメスターから第５セメスター），学生の生活と修学の指導を継続して行います。グループ・アドバイザーは学生個人やクラスにおいて生じる問題の相談に応じ，アドバイスを行いますが，学生の生活を規制したり，監督したりするものではありません。所属する研究室が第６セメスターで決定すると，グループ・アドバイザーが行っていた学生の生活と修学の指導は，基本的には所属研究室の指導教員に引き継がれます。

４．専攻所属と研究室配属について

（1）専攻所属

専攻所属は第３セメスターからで，**総単位数２４単位以上を修得した者が許可されます。**専攻の決定は，春季休業中に行われます。学生が専攻の希望（第１希望から第３希望まで）を提出した後に，第１～２セメスターで履修した全科目の総ＧＰ（同点の場合はＧＰＡ）を基に，その上位の者から順に専攻が決定されます。

各専攻の定員は，人間支援システム専攻６０名，産業システム工学専攻７０名，環境システムマネジメント専攻５０名を基本とします。

なお，過年度生など，専攻未所属の学生が専攻所属を希望する場合は，配属決定時までのセメスターの中でＧＰ数が高い順から２つのセメスターの総ＧＰ（同点の場合はＧＰＡ）を基に，当該年度に対象となるすべての学生を含めた形で専攻を決定することになります。

（2）転専攻

一度は専攻に所属したものの，学習を進める過程で興味の対象や将来希望する進路が変わり，他の専攻で学習を進めたいという学生のために「転専攻」制度があります。

転専攻は，学類内の全専攻に所属する学生が対象となり，研究室に配属済みの学生も対象となります。転専攻を希望する学生は，定められた期日までに教務課に届けを出さなければなりません。また，出願時には８０単位以上を取得していなければなりません。

転専攻の定員は各専攻ともに若干名で，選考は専攻ごとに夏季休業中に行い，以下の点から総合的に判断して決定されます。

① 提出された文書による転専攻の理由の確認

② 面接による，転専攻の理由，勉学意欲の有無，成績などの確認

転専攻した学生がどのセメスターに位置づけられるかは，その学生の取得した科目，単位数に

したがって判断されます。したがって，転専攻した学生の４年間での卒業は保証されません。

（3）研究室配属

研究室配属は第６セメスターからで，**以下の２つの条件すべてを満たした者が許可されます。**

① 学群共通科目及び学類基礎科目の卒業要件単位を修得していること。

② 総取得単位数が９０単位以上であること。

学生が配属先として選択できる研究室は，教員が他専攻の学生の受け入れを認めている場合を除き，その学生が所属する専攻の教員の研究室です。他専攻の学生の受入れを認めている教員の研究室に配属になった場合でも，学生の専攻は変更されません。この場合，必修科目である演習科目（演習Ⅰ，演習Ⅱ）は配属になった研究室の教員の所属する専攻の演習科目（演習Ⅰ，演習Ⅱ）で代替することが可能です。学生の研究室配属については，学生の希望と第１～５セメスター（過年度生の場合は第１～研究室配属直前のセメスターまで）で取得した通算ＧＰＡ（Ｐ.55に記載した【ＧＰＡ計算対象外科目】を除いて計算）などによって決定されます。研究室配属決定の手順については第５セメスターに実施されるガイダンスで詳しく説明しますので，ガイダンス開催の掲示に注意してください。

研究室に配属になった者は，その研究室の教員が開講する「演習Ⅰ」，「演習Ⅱ」，「卒業研究Ⅰ」，「卒業研究Ⅱ」を修得しなければなりません。

５．転学類について

共生システム理工学類に入学したものの，学習を進める過程で興味の対象や将来希望する進路が変わり，人文社会学群の学類で学習を進めたいという学生のために，各学類に「転学類」制度があります。それぞれの学類ごとに「転学類」制度が異なりますので，詳細は教務担当窓口に問い合わせてください。

なお，安易な申請理由によるものは認められず，４年間での卒業や教育職員免許状の取得について保証されるものではありませんので注意してください。

Ⅳ　カリキュラムの特色と構造

福島大学は，平成１６年１０月に，「広い教養と豊かな創造力を有する専門的職業人の育成」を教育目標として掲げ，従来の組織を再編成して大きく生まれ変わりました。福島大学のカリキュラムは，この教育目標を実現するために編成されています。

一般に大学のカリキュラムは，主として教養教育を目的とした一般教育科目と，それぞれの学部の教育目標を達成するための専門教育科目とによって構成されています。しかし，教養教育と専門教育とを個別に扱う従来のやり方では，福島大学が掲げる教育目標を実現するには無理があります。もちろん，教養教育と専門教育は大学教育の主要な柱であることにかわりはありません。そのことを前提としつつも，福島大学はカリキュラム全体の構造を，「自己デザイン領域」「共通領域」「専門領域」「自由選択領域」の４領域に再編成することにより，広い教養と豊かな創造力を有する専門的職業人を育成しようと考えました。

専門的力量を備えた職業人になるためには，当然その領域に関する高度な専門的知識や技能を獲得することが要求されます。このため，専門領域においては，各学類・専攻の教育目的に応じ，基礎・基本を重視しつつ，それらを高度なレベルに開花させるための体系的なカリキュラムが準備されています。

ただ，今日の社会は，あらゆる分野が相互に密接に関っており，特定分野に関する知識や技能が単独で機能するような単純な社会ではありません。また，21 世紀は，国際化，グローバル化が更に進展するとともに，環境問題，高齢化社会，人口やエネルギー問題といった人類的課題に直面しています。２１世紀が求める職業人には，単にそれぞれの分野に関する専門的な力量を身につけるだけでなく，それらを，こうした今日の社会の現象や諸問題に結びつけて理解し，活用する力が要求されています。このような力を私たちは「教養」と呼びます。特に共通領域は，そのような力を身につける場として設定しました。

福島大学のカリキュラムでは，これに加えて新たに「自己デザイン領域」という学習領域を設けました。この領域は，大学での学び方を身につけ，大学生としての自分をデザインすることを目的とした「教養演習」，職業に対する認識を深め，自分の将来をデザインしながら大学での学びの意味を考えることを目的とした「キャリア創造科目」，自分たち自身が学習課題や学習方法をデザインすることにより，主体的に学ぶ力を身につけることを目的とした「自己学習プログラム」によって構成されています。自分で自分自身をデザインする，あるいは自分自身が学ぶべきことをデザインするという意味で，この領域を「自己デザイン領域」と命名しました。学習という行為が本当の意味で実を結ぶには，「教わる」という受け身の姿勢ではなく「みずから学ぶ」という主体性が必要です。自己デザイン領域のこれらの科目は，学ぶ目的に気づき，主体的に学ぶスタイルを身につけるうえで不可欠であると考えています。

福島大学のカリキュラムのもう一つの特徴は，「自由選択領域」にあります。自由に選択できる科目は，どの大学でも準備されています。しかし，福島大学の特徴は，共通領域の科目はもちろん，各学類が開講する専門教育科目についても受講できるようにした点にあります。視野を広げ，創造力と専門的力量を獲得するには，学部の中に閉じこもり，学部が提供する授業科目だけで学習する従来型のシステムでは不十分です。このため，福島大学では，従来の学部制を廃止して，学類制という新たな制度に切り替えました。その一つのねらいは，カリキュラムにおける学部の垣根を低くして，文系・理系を問わず大学で開講されているさまざまな分野の専門教育科目を受講できるようにした点にあります。

もちろん，すべての科目を受講するわけにはいきませんが，担当教員によるきめ細かな履修指導やアドバイスを受けながら，福島大学が準備するバラエティーに富んだ授業科目を積極的に活用して，視野を広げ，専門的力量を身につけていただきたいと思います。

こうした四つの領域とは別に，更に自分の能力を伸ばそうという意欲のある学生のために，三つの特別なプログラムを準備しました。

①『特修プログラム「ふくしま未来学」』

東日本大震災及び原子力災害の経験を踏まえ，地域課題を実践的に学習し，未来を創造する能力を高めようとする学生のためのプログラムです。

②『英語グレードアップ特修プログラム』

国際化の進む今日の社会の中で，英語コミュニケーション能力を更にグレードアップしようとする学生のためのプログラムです。

③『情報グレードアップ特修プログラム』

情報や情報機器についての理解を深めるとともに，その能力を教育の分野に活かそうとする学生のためのプログラムです。

さらに，共生システム理工学類の学生には，上記の全学の３つのプログラムの他に，原子力発電所災害に伴う放射線への科学的対応を行える人材の育成を目指した『放射線対策科学専修プログラム』を用意しています。

これらのプログラムを修得するのは，決してたやすいことではありませんが，ぜひチャレンジしてみてください。

このように，福島大学のカリキュラムは，他の大学にはないさまざまな工夫が施されています。それらの工夫を最大限に活用して，実りある学習をしていただきたいと思います。

Ⅴ 履修基準表

卒業するために最低限修得しなければならない単位を卒業要件単位（要卒単位）といいます。卒業要件単位数は次ページ以降の履修基準表に示されています。

この履修基準表は，入学してから卒業するまで有効な基準ですので，これに従って履修してください。この表に記載の領域区分「自己デザイン領域」，「共通領域」，「専門領域」，「自由選択領域」の４つの領域の科目区分ごとに必要な単位数を修得してください。

なお，各領域の具体的な履修方法については，Ｐ．１２以降を参照してください。

●卒業論文について

（1）卒業するためには卒業研究を行わなければなりません。

（2）卒業研究の実施資格は，研究室に所属し，その研究室の教員が開講する「演習Ⅰ」の単位を取得した者に与えられます。

（3）卒業研究の実施資格を得た者（「演習Ⅰ」の単位取得者）は，所属する研究室の教員が開講する「演習Ⅱ」，「卒業研究Ⅰ」，「卒業研究Ⅱ」をすべて修得しなければなりません。

（4）「卒業研究Ⅱ」の単位修得のためには，卒業論文を提出しなければなりません。

（5）卒業論文の題目は，原則として，自分の所属する専攻の専門分野に関するものでなければなりません。

（6）卒業論文は，卒業年度の１月３１日（土曜日のときは翌々日，日曜日のときは翌日）までに，「卒業論文提出カード」とともに教務課に提出しなければなりません。

修業年限を超えた者で９月卒業を希望する者の場合は，前期履修登録期間内に「９月卒業希望届」を提出し，卒業論文は，卒業年度の８月３１日（土曜日のときは翌々日，日曜日のときは翌日）までの提出となります。

なお，卒業論文の提出期間は，掲示による教務関係日程表を参照してください。

（7）卒業論文提出上の注意事項

卒業論文は，原則としてパソコン等を用い，A4 判用紙にプリントアウトしたものを，仮製本するか，ファイルに綴じるなどして，体裁を整えた状態で提出してください（ただし，指導教員の承諾を得れば，この限りではありません）。また，表紙には，卒業論文題目，指導教員名，学籍番号，氏名を明記してください。

詳しくは「共生システム理工学類の卒業研究に関する取扱要項」（Ｐ．９７）を参照してください。

共生システム理工学類 履修基準表

（※外国人留学生は，次ページの履修基準表に従って履修してください。）

領域区分	科目区分		履修年次	分類	1科目単位数	卒業要件単位数
自己デザイン領域	基本科目	教養演習Ⅰ	1年	必修	2	4
		教養演習Ⅱ	1年	必修	2	
	キャリア創造科目	キャリア形成論	1年	必修	2	2
		キャリアモデル学習	2年以上	選必	2	2
		インターンシップ（就業体験学習）	2年以上	選必・自由	1又は2	
	自己学習プログラム		1年以上	選必・自由	1又は2	
	（小計）					8
共通領域	総合科目		1年以上	選必・自由	2	10（注1）
	広域選択科目	人間と文化	1年以上	選必・自由	2	
		社会と歴史	1年以上	選必・自由	2	
		自然と技術	1年以上	選必・自由	2	
	外国語科目	英語ＡⅠ	1年	必修	1	4
		英語ＡⅡ	1年	必修	1	
		英語以外の外国語初級Ⅰ	1年	必修・自由	2	4
		英語以外の外国語初級Ⅱ	1年	必修・自由	2	
		英語ＢⅠ	2年以上	選必・自由	1	4（注2）
		英語ＢⅡ	2年以上	選必・自由	1	
		英語以外の外国語中級	2年以上	選必・自由	1	
		応用英語	3年以上	自由	2	
		英語以外の外国語上級	3年以上	自由	2	
	情報教育科目	情報処理Ⅰ	1年以上	選必・自由	2	2
		情報処理Ⅱ	1年以上	選必・自由	2	
		情報処理Ⅲ	1年以上	選必・自由	2	
	健康・運動科目	健康・運動科学実習Ⅰ	1年	必修	1	2
		健康・運動科学実習Ⅱ	1年	必修	1	
		スポーツ実習	2年以上	自由	1	
	（小計）					26
専門領域	学群共通科目		1年以上	必修	2	2
			1年以上	選必・自由	2	4
	学類基礎科目	学類基礎科目Ａ	1年以上	必修	2	6
		学類基礎科目Ｂ	1年以上	選必・自由	2	2
		学類基礎科目Ｃ	1年以上	選必・自由	2	2
		学類基礎科目Ｄ	1年以上	選必・自由	2	2
		学類基礎科目Ｅ	1又は2年以上	選必・自由	2	6
	専攻基礎科目		2年以上	必修	2	0又は6(注3)
			2又は3年以上	選必・自由	2	8又は2(注4)
	専攻実践科目		2年以上	必修	2	2
			2又は3年以上	選必・自由	1又は2	8
	専攻専門科目		2又は3又は4年	選必・自由	2	30
	文理融合科目		1又は2又は3年以上	選必・自由	2又は4	6
	演習		3又は4年	必修	2	4
	卒業研究		4年	必修	2	4
	（小計）					86
自由選択領域						4
全体	（総計）					124

（注）※　「選必」とは選択必修を，「自由」とは自由選択領域科目として卒業要件単位数に計上されることを示す。「選必・自由」は，選択必修の卒業要件を超過して修得した単位を自由選択領域に計上することができることを示す。

1．「総合科目」２単位，「広域選択科目」の３分野各２単位，計８単位を修得し，さらに「総合科目」と「広域選択科目」の中から２単位　を修得するものとする。

2．「英語ＢⅠ・ＢⅡ」又は「英語以外の外国語中級」のどちらか一方で４単位を修得するものとする。

3．人間支援システム専攻及び産業システム工学専攻では，必修の専攻基礎科目は開講しない。環境システムマネジメント専攻では，必修の専攻基礎科目を６単位修得するものとする。

4．人間支援システム専攻及び産業システム工学専攻では，選択必修の専攻基礎科目を８単位修得するものとする。環境システムマネジメント専攻では，選択必修の専攻基礎科目を２単位修得するものとする。

共生システム理工学類 履修基準表（外国人留学生）

領域区分	科目区分		履修年次	分類	1科目単位数	卒業要件単位数
自己デザイン領域	基本科目	教養演習Ⅰ	1年	必修	2	4
		教養演習Ⅱ	1年	必修	2	
	キャリア創造科目	キャリア形成論	1年	必修	2	2
		キャリアモデル学習	2年以上	選必	2	2
		インターンシップ（就業体験学習）	2年以上	選必・自由	1又は2	
	自己学習プログラム		1年以上	選必・自由	1又は2	
	（小計）					8
共通領域	総合科目		1年以上	選必・自由	2	10（注1）
	広域選択科目	人間と文化	1年以上	選必・自由	2	
		社会と歴史	1年以上	選必・自由	2	
		自然と技術	1年以上	選必・自由	2	
	日本事情	日本事情Ⅰ	1年以上	選必・自由	2	
		日本事情Ⅱ	1年以上	選必・自由	2	
		日本事情Ⅲ	1年以上	選必・自由	2	
		日本事情Ⅳ	1年以上	選必・自由	2	
	外国語科目	英語ＡⅠ・ＡⅡ	1年	選必・自由	1	8（注2）
		英語ＢⅠ・ＢⅡ	2年以上	選必・自由	1	
		英語以外の外国語初級Ⅰ・Ⅱ	1年	選必・自由	2	
		英語以外の外国語中級	2年以上	選必・自由	1	
		日本語Ⅰ	1年	自由	2	
		日本語Ⅱ	1年	自由	2	
		日本語Ⅲ	2年以上	自由	2	
		日本語Ⅳ	2年以上	自由	2	
		応用英語	3年以上	自由	2	
		英語以外の外国語上級	3年以上	自由	2	
	情報教育科目	情報処理Ⅰ	1年以上	選必・自由	2	2
		情報処理Ⅱ	1年以上	選必・自由	2	
		情報処理Ⅲ	1年以上	選必・自由	2	
	健康・運動科目	健康・運動科学実習Ⅰ	1年	必修	1	2
		健康・運動科学実習Ⅱ	1年	必修	1	
		スポーツ実習	2年以上	自由	1	
	（小計）					22
専門領域	学群共通科目		1年以上	必修	2	2
			1年以上	選必・自由	2	4
	学類基礎科目	学類基礎科目Ａ	1年以上	必修	2	6
		学類基礎科目Ｂ	1年以上	選必・自由	2	2
		学類基礎科目Ｃ	1年以上	選必・自由	2	2
		学類基礎科目Ｄ	1年以上	選必・自由	2	2
		学類基礎科目Ｅ	1又は2年以上	選必・自由	2	6
	専攻基礎科目		2年以上	必修	2	0又は6(注3)
			2又は3年以上	選必・自由	2	8又は2(注4)
	専攻実践科目		2年以上	必修	2	2
			2又は3年以上	選必・自由	1又は2	8
	専攻専門科目		2又は3又は4年	選必・自由	2	30
	文理融合科目		1又は2又は3年以上	選必・自由	2又は4	6
	演習		3又は4年	必修	2	4
	卒業研究		4年	必修	2	4
	（小計）					86
自由選択領域						8
全体	（総計）					124

（注）※　「選必」とは選択必修を，「自由」とは自由選択領域科目として卒業要件単位数に計上されることを示す。「選必・自由」は，選択必修の卒業要件を超過して修得した単位を自由選択領域に計上することができることを示す。

1.　「総合科目」と「広域選択科目」を合わせた４分野のうちの３分野にわたって，それぞれ最低１科目（２単位）合計６単位を修得した上で，残りの４単位は，「総合科目」，「広域選択科目」及び「日本事情」の中から卒業要件単位として修得するものとする。

2.　外国語科目は，母国語系統を除く１ヶ国語で８単位を修得するものとする。「日本語」は，外国語の卒業要件単位（８単位）に代替することができるものとする。

3.　人間支援システム専攻及び産業システム工学専攻では，必修の専攻基礎科目は開講しない。環境システムマネジメント専攻では，必修の専攻基礎科目を６単位修得するものとする。

4.　人間支援システム専攻及び産業システム工学専攻では，選択必修の専攻基礎科目を８単位修得するものとする。環境システムマネジメント専攻では，選択必修の専攻基礎科目を２単位修得するものとする。

Ⅵ　各領域の履修について

1．自己デザイン領域の履修について

平成３０年度　自己デザイン領域開講科目一覧

科目区分	授業科目		担当教員	履修セメスター	単位
基本科目	教養演習Ⅰ	Ａクラス	岡沼　信一	1	2
	教養演習Ⅰ	Ｂクラス	生田　博将	1	2
	教養演習Ⅰ	Ｃクラス	木村　勝彦	1	2
	教養演習Ⅰ	Ｄクラス	篠田　伸夫	1	2
	教養演習Ⅰ	Ｅクラス	笠井　博則	1	2
	教養演習Ⅰ	Ｆクラス	高貝　慶隆	1	2
	教養演習Ⅰ	Ｇクラス	永幡　幸司	1	2
	教養演習Ⅰ	Ｈクラス	杉森　大助	1	2
	教養演習Ⅰ	Ｉクラス	高安　徹	1	2
	教養演習Ⅱ	Ａクラス	岡沼　信一	2	2
	教養演習Ⅱ	Ｂクラス	生田　博将	2	2
	教養演習Ⅱ	Ｃクラス	木村　勝彦	2	2
	教養演習Ⅱ	Ｄクラス	篠田　伸夫	2	2
	教養演習Ⅱ	Ｅクラス	笠井　博則	2	2
	教養演習Ⅱ	Ｆクラス	高貝　慶隆	2	2
	教養演習Ⅱ	Ｇクラス	永幡　幸司	2	2
	教養演習Ⅱ	Ｈクラス	杉森　大助	2	2
	教養演習Ⅱ	Ｉクラス	高安　徹	2	2
キャリア創造科目	キャリア形成論		大山大，横尾善之	1	2
	キャリアモデル学習		笠井博則，藤本勝成，筧宗徳	3	2
	インターンシップ			3	1又は2
自己学習プログラム				2～	1又は2

（1）教養演習

「教養演習」は１年次の必修科目（教養演習Ⅰ・教養演習Ⅱ　各２単位）です。原則として１クラス２０名程度の課題学習グループ単位で開講し，グループ･アドバイザー教員が担当します。

① 教養演習Ⅰ　（第１セメスター）

大学での学生生活を円滑に進めるためのガイダンスを行うとともに，大学での「学び」への導入として学問への動機づけを与えることを目的とする科目で，前半はカリキュラムや各種施設利用，健康管理等に関するガイダンスを重点的に行い，後半は学習意欲を喚起するようなテーマを取りあげて，それを題材として，読み，書き，討論する基本的な学習能力を育成することを目標とします。併せて，小集団の学習を通じて，学生間及び教員と学生との人間的交流を深める場とします。

② 教養演習Ⅱ（第２セメスター）

「教養演習Ⅰ」で学んだことを基礎にして，学生自らが自主的に研究テーマを設定して，それをまとめて，研究レポート又は研究発表として完成させることを目標とします。教員は，学生の課題研究の達成を援助して，各々の学生にとって必要な研究の技法や作法を身に付けさせるために，個別的な指導にあたります。また，研究レポートの執筆又は研究発表のための指導も行います。

（2）キャリア形成論

ンターンシップ」によって構成されています。このうち，「キャリア形成論」は１年次生の必修科目であり，キャリア教育科目群の最も基礎となる科目として位置づけられています。

授業のねらいは，第一に，自分と向き合い自分の人生を見つめること，第二に，働くことの意味や職業についての見方を再確認すること，そして第三に，これらを通して大学で学ぶことの意味を考え，学ぶ主体としての自己を確立することです。

キャリアとは，一人ひとりの自分なりの「仕事を通じての生き方」「人生をいかに生きるか」ということです。「キャリア形成論」は，学生が意欲的な大学生活を送るために，仕事・職業をめぐる現代社会の諸状況を学び，将来の進路や生き方について考える機会を提供することを主眼に置く授業です。この授業の受講を通じて，将来の進路をめぐる現状，展望と問題を知り，仕事・職業などについての自分のイメージ・理解を確認し，吟味・見直しのうえ，将来の進路・生き方を考えていくためのきっかけをつくることができます。

（3）キャリアモデル学習

「キャリアモデル学習」は自己デザイン領域の選択必修科目で，第３セメスターに開講します。この授業は，社会的経験の乏しい学生諸君にとって，様々な形態で現場と触れあうことを主たる目的とした科目です。したがって，実践的な職業論・労働論，ひいては人生論についての科目となります。共生システム理工学類では，学外の教育者，公務従事者，企業人，自営業者，技術者などを招き「私の人生」「私の職業選択」「仕事の中での喜びと苦悩」などを語ってもらうとともに，現場訪問なども行って学生諸君の職業観を高めます。内容は年度ごとに異なります。

なお，この科目はＣａｐに該当し，ＧＰＡの対象となる科目です。

（4）インターンシップ

① インターンシップとは

インターンシップとは大学に在籍したまま，一定期間企業や自治体などで就業体験を行う授業です。実社会での就業体験を通して，社会の基本的なルールやマナーを習得するとともに，自分自身の将来の職業に関する意識を形成することを目的としています。

インターンシップには，学生が自主的に行うインターンシップと，大学の正課の授業科目として行うインターンシップがありますが，ここで説明するのは後者の場合です。

② インターンシップを受講するには

４月に受講希望者向けガイダンスを開催しますので必ず参加してください。受講希望者は，エントリーシートの提出及び履修登録が必要となります。実習先は，面談等選考のうえ決定します。５月～７月に事前学習（マナー講座，事前指導），事前訪問を行い，基本的に夏季休業中を利用してインターンシップ実習を行います。実習期間は１～２週間程度になります。実習終了後は，レポート提出，報告会での発表を行い，インターンシップ実習が修了となります。

大学の授業として単位認定を行いますので，「LiveCampus（ライブキャンパス）」による履修登録が必要となります（ただし，Ｃａｐ除外科目になります。）。また，実習参加以外に，事前学習，報告会への参加，レポート等の課題を全てクリアすることにより，単位として認定されます。単位は，就業体験時間数が３０時間～４０時間（期間は１週間程度）は１単位，就業体験時間数が６０時間～８０時間（期間は２週間程度）は２単位となります。

なお，実習に際し，傷害保険や通勤・宿泊などの経費（実費負担）が必要となります。

③ 参加条件

インターンシップに参加する条件として，事故等に対応できる保険，及び第三者賠償責任保険に加入していることが条件となります。

インターンシップ開始前までに加入が確認できない場合は，インターンシップを中止してもらうことがあります。

④ その他

インターンシップ実施期間と，集中講義等の日程が重なった場合には，インターンシップを優先することになります。

また，この科目は，ＧＰＡ制度，Ｃａｐ制度及び再修得制度の対象外科目です。

（5）自己学習プログラム

1）ねらい

「自己学習プログラム」は，自分たち自身で，または教員の側からのサブゼミナール等の自主学習の提起を受けて，学習課題を設定し，その課題達成のための学習集団を組織して学習活動を行うことを通じて，学ぶことに対する自主性・主体性を育成するとともに，集団の中で行動することのできる社会的能力を養うことを目的としています。

2）対象となる活動内容

このプログラムの対象となる活動には，いくつかの条件があります。

①自主性：

「自己学習プログラム」は，学習の企画を立上げ，計画し，それを実行して成果をまとめるという一連のプロセスに対して評価し単位を認定するものです。したがって，サブゼミナール等の場合でも最終的に何らかのレポート等をまとめることは必要となります。なお，既存のサークル活動や自主的集団学習に参加したということだけでは「自己学習プログラム」の対象とはなりません。ただし，それらの集団での活動に参加しつつ，毎年の定型化した活動だけではなく，活動が独立した企画によって行われる場合には，「自己学習プログラム」の対象となる場合もあります。

②指導教員：

プログラム全般について指導・助言・単位認定する学内の「指導教員」が必要です。指導教員を誰に依頼するかは，自分たちで判断してください。

③活動の場所：

安全面の確保や社会的責任という観点から，学内で行われる自主的諸活動を原則とします。

④集団性：

このプログラムのねらいには，「社会的能力」の育成も含まれています。したがって，集団で行なう企画でなければなりません。代表責任者と副代表責任者を置くことを原則とします。

⑤その他：

集団で行われている学外のボランティア活動に参加する場合も本プログラムの対象とします。その際，指導教員による必要な事前学習と事後振り返りが必要であり，さらに事故等に対応できる保険，及び第三者賠償責任保険に加入していることが条件となります。

⑥活動期間と時間：

年度内に終了する企画とします。複数年にわたる活動の場合には，１年間という期間の中で区切りを付け，必要であればまた新たな企画を立ち上げてください。活動時間総計がおおむね４５時間程度で１単位，９０時間程度で２単位が認定されます。

3）手続き等

「自己学習プログラム」としてふさわしい内容かどうかについては，個々の申請に応じて担当委員会で判断します。申請前に，活動内容・計画等を指導教員とよく相談してください。

以下に，大まかな手続き等について示します。

①申請について：　申請者は，指導教員から活動計画についての助言指導を受けた後，申請書様式１（全体表）を代表責任者が取りまとめ，教務課共通領域担当窓口に提出してください。

・申請時期は，前期申請が４月，後期申請は１０月になります。詳細は掲示板にて確認してください。

②申請の認定について：　申請用紙等は教務課共通領域担当窓口で配布します。自己学習プログラムとしての申請の認定は５月あるいは１１月になります。認められた計画については，掲示板でお知らせします。

③履修登録について：　認定された時点で，教務課で一括履修登録を行います。学生個人の窓口での手続き等は不要です。

④活動報告書について：　活動終了後は，担当教員に提出するレポート等とは別に，様式２（全体活動総括）・様式３（自己学習プログラム報告書）を各プログラムの代表責任者が取りまとめ，教務課共通領域担当窓口へ期日までに提出してください。

・平成３０年度前期で完結する企画　：　平成３０年度前期の授業終了日　１７時まで

・平成３０年度後期で完結する企画　：　平成３０年度後期の授業終了日　１７時まで

⑤単位認定等について：　単位認定は，認定された場合の評価は「N（認定）」，認定されない場合は「F（不合格）」になります。また，単位としての上限は６とします。なお，この科目は，ＧＰＡ制度，Ｃａｐ制度及び再修得制度の対象外科目です。申請後，単位の変更や期間の変更は認められませんが，履修登録の撤回は可能です。

様式1

【代表者作成】

自己学習プログラム申請書（全体表）

1. 申請分野	A: プロジェクト学習　　B: 自主的学習集団
2. 申請する単位数	2単位　（時間数が総計45時間以上の場合は1単位、90時間以上は2単位）
3. プロジェクト名または学習のテーマ・名称 歩きたくなる“街なか元気”プロジェクト	**担当教員の署名・押印は必ず必要です。**
4. プロジェクトまたは学習の目的 地方都市では、大型駐車場を備えた郊外型大型ショッピングセンターの出店が相次ぎ、従来、駅を中心とした駅前通りや地元商店街の空洞化・衰退が深刻化しています。福島県の県庁所在地である福島市や商業県都と言われる郡山市の駅前も例外ではありません。商業ビルから店舗が撤退し閉鎖となれば、ビルの空フロアやビル跡地が発生します。そして、買い物客が駅前から離れれば、駅前商店街はシャッター通りと化してしまいます。これらは、駅前通りの弱体化だけに限らず、買い物客であった高齢者や交通弱者への影響も決して小さくありません。買い物難民の問題が発生してきます。 本プロジェクトでは、①駅前商店街の実態調査をしながら、②買い物客が駅前を歩きたくなるような方策を、③交通手段を持たない私たち学生自身が実態を知り、考え、方策を立てていくことを目的にします。多くの人が歩きたくなる“街なか”を目指し、取り組んでいきたいと思います。	

	学　類	専　攻	年次	学籍番号	氏　名
5. 代表責任者	経済経営学類	国際地域経済専攻	2	○○○○○○	金谷　○○

	学　類	氏　名
6. 指導教員	経済経営学類	○　○　○　○　印

	所　属	氏　名
7. 本学教員以外の指導者		印
	勤務地（在住地）	電話番号
該当者がいる場合は記入してください		

8. 活動期間（※）	年　月　～　年　月

9. 活動計画	内　容	時間数
	①オリエンテーション	4
	②駅前通りの実態調査	15
	③市郊外の実態調査	15
	④学生アンケート、駅前アンケート実施	6
	⑤企画ミーティング　他	30
	⑥印刷（製本）作業	5
	⑦報告書作成	10
	⑧反省ミーティング	5
		計90

※活動期間は、報告書の提出時期までになります。報告書提出時期は、前期完結する企画は前期授業終了日、後期完結する企画は後期授業終了日になります。

【代表者作成】

申請者名簿

No.	学　類	専　攻	年次	学籍番号	氏　名	役割分担
1	経済経営学類	国際地域経済	2	○○○○○	金谷　○○	代表
2	経済経営学類	企業経営	2	○○○○○	松川　○○	副代表
3	経済経営学類	企業経営	2	○○○○○	安達　○○	総務担当
4	行政政策学類	地域と行政	2	○○○○○	森合　○○	企画担当
5	人間発達文化学類	人間発達	2	○○○○○	浅川　○○	アンケート担当
6	人間発達文化学類	文化探究	2	○○○○○	保科　○○	調査担当
7	人間発達文化学類	スポーツ・芸術創造	1	○○○○○	伊達　○○	広報担当
8	経済経営学類	経済分析	1	○○○○○	中村　○○	会計担当
9	行政政策学類	地域と行政	1	○○○○○	南　○○○	アンケート担当
10	経済経営学類	国際地域経済	1	○○○○○	山本　○○	企画担当

この名簿には申請者全員を記入してください。

様式２

【代表者作成】

自己学習プログラム報告書（全体活動総括）

プロジェクト名または学習のテーマ・名称					
代表責任者	学　　類	専　　攻	年次	学籍番号	氏　　名

①活動概要 ②活動総括 ③活動時間	

様式３

【各申請者作成】

申請書名簿 No（　　）

自己学習プログラム報告書（個人表）

プロジェクト名または学習のテーマ・名称					
氏　名　等	学　　類	専　　攻	年次	学籍番号	氏　　名

活動の中での役割（　　）※名称があれば記入して下さい。

活動概要等	活動概要 活動時間
活動報告	（1）活動の中での自分の役割について（具体的に） （2）活動を通して身についたこと、良かったこと、自主的に取り組めたこと
活動報告	（3）活動を通しての反省点や自分に不足していると感じたこと （4）その他、今後、身に付けていきたいこと、活動を通しての感想等

２．共通領域の履修について

1. 共通領域科目の履修体系

共通領域科目は，以下の科目区分及び授業科目で構成されています。

科目区分		授業科目
総合科目		科学と技術の社会史，大学で学ぶ，グローバル災害論，ＮＰＯ論，再生可能エネルギー，　小さな自治体論，ふくしま未来学入門　　他
広域選択科目	人間と文化 分野	哲学Ⅰ・Ⅱ，論理学，心理学Ⅰ・Ⅱ，文学Ⅰ～Ⅲ，美術，脳神経と精神保健Ⅰ・Ⅱ
	社会と歴史 分野	日本国憲法，市民と法，政治学，社会論，歴史学Ⅰ，経済学Ⅰ・Ⅱ，経営学，地理学Ⅰ，地域論Ⅰ，ジェンダー学入門
	自然と技術 分野	数学Ⅰ・Ⅱ，エネルギーの科学，物質の科学，生命の科学，環境の科学，ちからとかたち，医学概論
日本事情		日本事情Ⅰ～Ⅳ（外国人留学生のみ履修可能）
外国語科目	英語	英語ＡⅠ・ＡⅡ，英語ＢⅠ・ＢⅡ，応用英語Ⅰ～Ⅵ
	英語以外の外国語（ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，スペイン語，韓国朝鮮語）	英語以外の外国語初級Ⅰ・Ⅱ，英語以外の外国語中級，英語以外の外国語上級
	日本語	日本語Ⅰ～ Ⅳ（外国人留学生のみ履修可能）
情報教育科目		情報処理Ⅰ～ Ⅳ
健康・運動科目		健康・運動科学実習Ⅰ・Ⅱ，スポーツ実習

（注）年度によって開講されない授業科目があります。

2. 共通領域科目のねらい

（1）　総合科目

総合科目（１年次より）は，学際的な科目として開講します。ひとつのテーマをめぐって，さまざまな分野での知見やアプローチの仕方を学び，多角的・総合的な思考を学ぶことをねらいとしています。

（2）　広域選択科目

広域選択科目（１年次より）は，現代の学問・文化の成果を紹介し，専門を越えた関心と理解を促し，学問的な思考の基礎を身につけることをねらいとしています。「人間と文化」，「社会と歴史」，「自然と技術」の３分野にわたって授業科目が開講されています。（上の表を参照）

（3）　外国語科目

外国語科目は，外国語を読む，書く，聞く，話す能力とともに，諸外国の言語文化を通じて，豊かな世界観，思考力，表現力を身につけることをねらいとしています。「英語」及び「英語以外の外国語」（ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，スペイン語，韓国朝鮮語）の授業が開講されます。１年次では「英語」及び「英語以外の外国語」が必修です。２年次では「英語」又は「英語以外の外国語」のいずれかが選択必修になります。２年次で両方の科目を履修することもできます。さらに外国語を勉強したい学生のために「応用英語」，「英語以外の外国語上級」が用意されています。

（4）　情報教育科目

情報教育科目は，「情報処理Ⅰ」，「情報処理Ⅱ」，「情報処理Ⅲ」及び「情報処理Ⅳ」からなっています。**（共生システム理工学類の学生は「情報処理Ⅳ」を履修できません。）**

「情報処理Ⅰ」は，普通高校などであまり情報科目を履修してこなかった学生に，情報リテラシーを学んでもらうための科目です。

「情報処理Ⅱ」～「情報処理Ⅳ」は，専門高校や総合学科などである程度情報科目を履修して情報リテラシーを身につけている学生や，日頃からパソコンの操作に慣れている学生に，少し進んだ実践的な内容を学習してもらうための科目です。

●「情報処理Ⅰ（講義テーマ：情報リテラシー）」は，大学における学習や日常生活においてコンピュータやネットワークを活用するための基礎的な能力いわゆるコンピュータリテラシーの能力を身につけるための科目です。ワープロ，表計算，電子メールやインターネットの利用等について学習し，パソコン活用スキルを身につけることを目標とします。

●「情報処理Ⅱ（講義テーマ：エンドユーザコンピューティング）」では，日常コンピュータやネットワークを使用する上で必要とされる知識と基礎的な実践能力を身につけることを目指します。一般利用者（エンドユーザ）の視点から，周辺機器を含めたコンピュータの仕組みと機能，基本的な操作とそこで用いるソフトウェア，コンピュータの基本的な設定，及びメンテナンスやトラブル対処の方法について，実例を用いて体験的に学びます。

●「情報処理Ⅲ（講義テーマ：ネットワークとセキュリティ）」では，ネットワークとセキュリティに関する基本知識を理解し，ウイルス感染防止・駆除対策，セキュリティポリシーの策定と運用などに関する基本的能力を身につけることを目標とします。インターネット社会において，被害者にも加害者にもならないように，リスク分析とセキュリティ管理能力を身につけます。

（5） 健康・運動科目

健康・運動科目は，健康・運動科学実習（１年次）とスポーツ実習（２年次以上）があります。授業のねらいは，これらの実習を通して，健康の維持増進や豊かな社会生活を送るための手段として身体活動を捉え，かつ実践していく能力（身体リテラシー）を養うことです。

●「**健康・運動科学実習Ⅰ**」では，スポーツを通して１年次生のコミュニケーションの活性化や心身のリフレッシュを図ります。「**健康・運動科学実習Ⅱ**」では，種目にかかわる健康や運動科学に関する各種データを収集し，それをふまえながら興味・動機付けを高め，科学的認識や知識を深める内容の授業を行います。

●「**スポーツ実習**」では，多様な種目を開講し，スポーツの得意・不得意にかかわらず，各々がそれぞれの仕方で身体運動を楽しめるよう工夫されています。
スポーツ実習は，同一種目であっても何度でも履修することができます。

3. 共通領域科目の履修方法

（1） 総合科目・広域選択科目の履修について

① 広域選択科目の３分野（「人間と文化」，「社会と歴史」，「自然と技術」）と「総合科目」をあわせた４分野から各２単位（合計８単位）を修得し，さらに４分野から２単位を修得し，合計１０単位を修得しなければなりません。

② 卒業に必要な要件（卒業要件単位）を超えて修得した単位は，自由選択領域の単位となります。

③ 教員免許状取得を希望する学生は，「社会と歴史」分野の「日本国憲法」を履修しなければなりません。

④ 科目名称についての注意

・授業科目名の二桁の<u>数字</u>だけが異なる場合は，<u>同一の授業科目</u>とみなされます。再修得の場合を除き，重ねて履修することはできません。

・<u>ローマ数字</u>が異なる場合は，<u>別の授業科目</u>を示しますので，重ねて履修することが可能です。

例：日本国憲法０１，０２　→　同一の科目　　歴史学Ⅰ，Ⅱ　→　別の科目

⑤ 総合科目・広域選択科目は，再修得することができます（再修得制度については学習案内参照）。

⑥ 行政政策学類の学生は，「市民と法」「日本国憲法01，02」を履修することができません。

⑦ 経済経営学類の学生は，「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」「経営学」を履修することができません。

⑧ 前年度まで開講されていた「精神保健Ⅰ」「精神保健Ⅱ」と，今年度開講の「脳神経と精神保健Ⅰ」「脳神経と精神保健Ⅱ」は，同一科目となります。

⑨ **「履修希望受付」**は，以下の手続きで行います。

（教室の収容人数を超える履修希望者がいた場合には，受講調整（人数制限）を行う場合があります。）

＜履修希望受付方法＞

受付期間等や「LiveCampus」登録は，教務関係日程表・マニュアル等により確認してください。

＜1＞**1次受付**（ 前期開講科目　4月初旬　／　後期開講科目　9月中旬～下旬 ）

① 総合・広域選択科目のシラバスをあらかじめ確認し，曜日・時限毎に履修希望の科目を確定させ，**「LiveCampus（ライブキャンパス）」**により履修申請をしてください。履修申請は第3志望まで登録することができます。

② 履修申請の結果，教室の収容人数を超える科目については，やむを得ず人数制限として「受講調整」が行われる場合があります。（教室を変更し，対応する場合もあります。）

受講調整が行われる場合，最初に再修得者（既修得科目がD評価を受けた者）が受講調整の対象になります。

③ 1次受付の結果は，「LiveCampus」で発表します。各自，確認してください。

④ 1次受付で受講が認められた科目の扱いは，以下のとおりになります。

・受講調整が行われた科目は，当該時間帯の科目の変更・追加・撤回をすることができません。

・受講調整が行われなかった科目は，原則として，当該時間帯の受講科目を変更・追加することはできません。

・当該セメスターにおいて，同一分野で3科目以上の履修となる場合は，受講調整にならなかった科目についてのみ、1科目を対象に「総合科目・広域選択科目」内での科目変更をすることができます。希望する学生は，2次受付期間内に共通領域担当窓口まで申し出てください。

⑤ 当該時間帯に別の科目を登録すると「不正申請」になり，不正申請した科目も，1次受付で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。

⑥ 受講調整になった科目は，LiveCampus等でお知らせします。

＜2＞**2次受付**　（詳細は，1次受付の結果発表の翌日に，掲示等で確認してください。）

① 1次受付を行い履修希望が認められなかった学生に対して，2次受付を行います。受付期間・時間帯に注意してください。

（1次受付で受講が認められた時間帯については，2次受付ができません。）

② 受付対象科目は，教室の収容人員に空きのある授業科目についてのみ行います。

・受付方法は，「先着順」として科目毎の受付用名簿に本人が自筆で記入します。科目毎に定員に達するまで受講が認められます。定員に達した時点で受付終了となります。

・1次受付で受講が認められた科目時間帯については，変更・追加はできません。

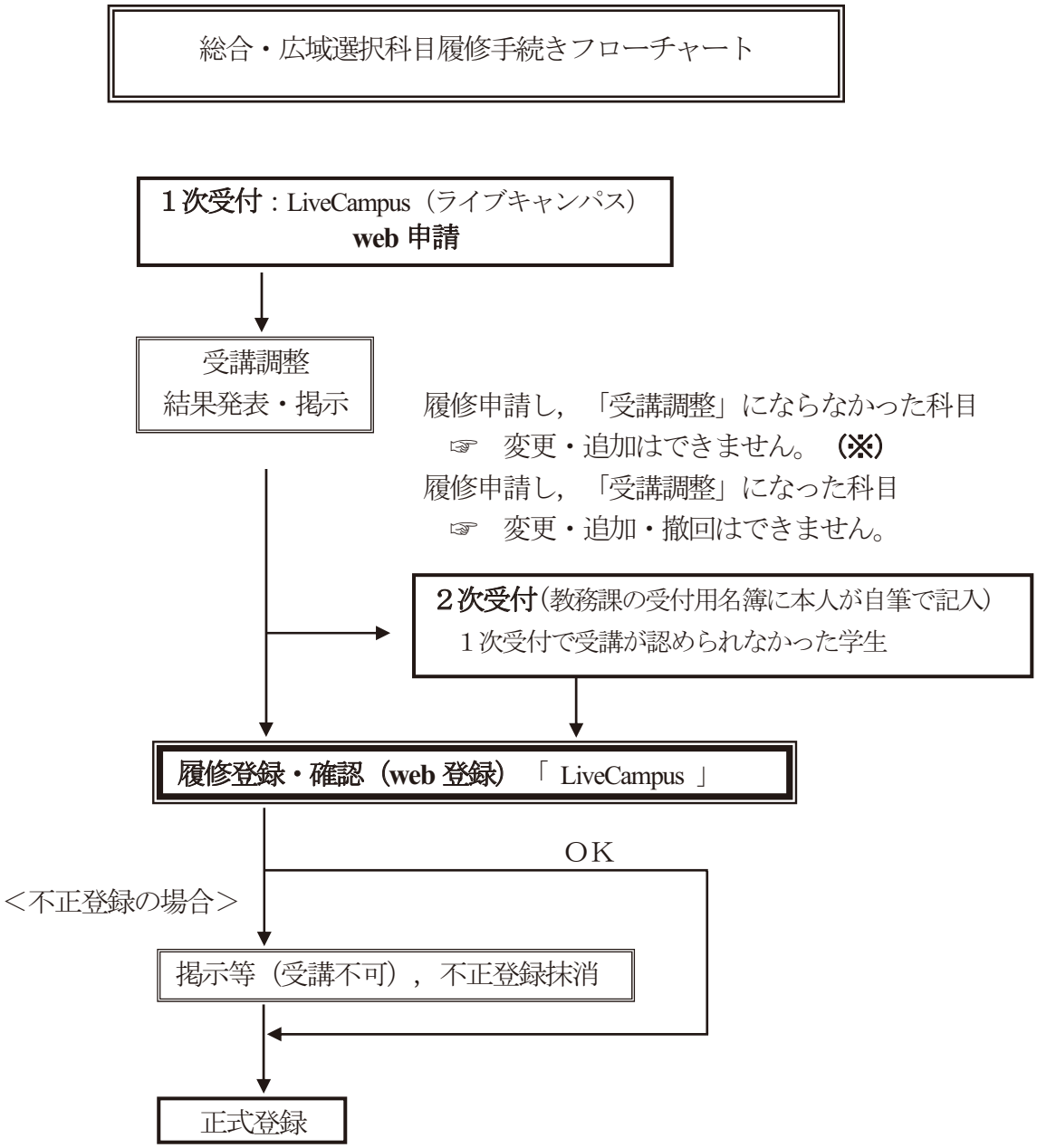
③ 2次受付で受講が認められた学生は，当該時間帯の受講科目を変更することはできません。

④ 当該時間帯に別の科目を申請すると「不正申請」になり，不正申請した科目も，2次受付で受講が認められた授業科目も受講できなります。

⑤ 2次受付の結果は，「LiveCampus」で登録期間及び修正期間内に各自，確認してください。

＜注意＞

詳細な操作マニュアルを別途配布しますので，マニュアルを参考の上必ず期間中に履修申請をしてください。教務課ホームページからもダウンロードできます。



（※）１次受付の結果，同一分野で３科目以上の履修となる場合は，受講調整にならなかった科目のみ１科目を対象に「総合科目・広域選択科目」内での科目変更をすることができます。
希望する学生は，２次受付期間内に共通領域担当窓口まで申し出てください。

（2） 外国語科目の履修について

(a) **１年次において，**「英語ＡⅠ」，「英語ＡⅡ」あわせて４単位，及び「英語以外の外国語」いずれか１か国語の言語で「初級Ⅰ」，「初級Ⅱ」あわせて４単位を修得しなければなりません。

(b) **２年次において，**「英語ＢⅠ」，「英語ＢⅡ」又は「英語以外の外国語中級」のいずれかを選択し，１つの外国語科目で４単位を修得しなければなりません。「英語以外の外国語中級」を履修するためには，当該言語の「初級Ⅰ」，「初級Ⅱ」の単位を修得していなければなりません。

・ **「英語ＢⅠ」，「英語ＢⅡ」を選択する学生**は，Ｐ．２４「①英語の履修について 「英語ＢⅠ，ＢⅡ」を読み所定の手続きをとってください。

・ **「英語以外の外国語中級」を選択する学生**は，「②英語以外の外国語の履修について」を読み履修したいクラスを各自で選んで受講してください。なお，さらに「英語ＢⅠ，ＢⅡ」を履修することもできます。「英語ＢⅠ，ＢⅡ」の手続きを参照してください。

（「希望調査カード」に基づいたクラス編成は行いません。）

(c)「応用英語」，「英語以外の外国語上級」の単位は，自由選択領域に計上することができます。

(d)「英語以外の外国語初級」を除き，外国語科目は再修得することができません。

(e)「英語Ａ・Ｂ」及び「英語以外の外国語初級及び中級」は履修登録を撤回することはできません。

(f) 留学ビザによる編入学生については，日本語の履修を認めることがあります。

①英語の履修について

英語ＡⅠ，英語ＡⅡ

(ｱ)「英語ＡⅠ」は，総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。

(ｲ)「英語ＡⅡ」は，技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で，次の３種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。

・ Reading　・・・「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース

・ Writing　・・・「書く」能力を養成するためのコース

・ Oral Communication・・・「聴く・話す」能力を養成するためのコース

(ｳ) １年次では，「英語ＡⅠ」及び「英語ＡⅡ」を各２単位，計４単位を修得しなければなりません。各２単位，計４単位を超えて修得することはできません。

(ｴ)「英語ＡⅠ」及び「英語ＡⅡ」は，それぞれ週１回１クラスを半期履修することにより１単位認定されます。４単位を修得するためには，「英語ＡⅠ」について前・後期各１クラスの計２クラス，「英語ＡⅡ」についても前・後期各１クラスの計２クラスを履修する必要があります。

(ｵ) 開講曜日・時限は学類ごとに指定されています。

・ 人間発達文化学類・共生システム理工学類は，「英語ＡⅠ」が月曜日２時限，「英語ＡⅡ」が金曜日１時限

・ 行政政策学類・経済経営学類は，「英語ＡⅠ」が月曜日３時限，「英語ＡⅡ」が金曜日３時限

・ 学類指定以外の曜日・時限の授業を受講することはできません。

(ｶ) **前期の所属クラスは「英語ＡⅠ」，「英語ＡⅡ」ともに，以下の手続き**で行います。

１．シラバスを読んで，受講を希望するクラスの第１回目の授業に必ず出席してください。

２．第１回目の授業では，授業内容についての説明と希望受付が２回（１次，２次）行われます。

＜１次説明・受付＞

・ 第１回目授業開始時**（１時限８時４０分，２時限１０時２０分）**に希望するクラスの教室に行き授業内容等について説明を受けた後，**別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出**してください。（人数が多い場合は，その場で抽選が行われます。）

・ １次受付で定員に達したクラスは，２次受付は行いません。

＜２次説明・受付＞

・ １次受付で抽選にもれた学生は，提出した受講希望カードを受け取り，受講可能なクラスを掲示で確認し，**２次説明・受付開始時刻（１時限９時４０分，２時限１１時２０分）**までに希望するクラスの教室に行ってください。授業内容について説明を受けた後，受講希望カードを担当教員に提出してください。（人数が多い場合は，抽選が行われます。）

・ ２次受付の抽選にもれた学生及び第１回目の授業を欠席した学生は，受講希望カードを共通領域担当窓口に提出してください。所属クラスは第２回目の授業までに掲示します。

(ｷ) 再履修等２年次生以上で「英語ＡⅠ」，「英語ＡⅡ」を履修する学生は，手続きが異なります。学習案内Ｐ．２５の**「再履修等について」**を読み，所定の手続きをとってください。

(ｸ)**後期の所属クラスは「英語ＡⅠ」，「英語ＡⅡ」それぞれ前期と同一教員のクラス**になります。
・ 同一教員のクラスが後期に開講されていない場合は，前期クラスの教員の指示に従ってください。
・ 前期に単位を修得できなかった場合でも，後期は同じクラスで受講可能です。
(ｹ)「英語ＡⅠ」，「英語ＡⅡ」は，それぞれ**後期のみ「基礎クラス」，「上級クラス」**が開講されます。成績評価は，上級クラスが「A，B，F」のいずれか，基礎クラスは「C，D，F」のいずれかになります。
　受付期間は，９月中～下旬です。上級クラス・基礎クラスを希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の認否は掲示板等でお知らせします。（人数が多い場合等は希望が認められない場合があります。）

英語ＢⅠ，英語ＢⅡ

(ｱ)「英語ＢⅠ」は，総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。
(ｲ)「英語ＢⅡ」は，技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で，次の３種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。
・ Reading ･･･「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース
・ Writing ･･･「書く」能力を養成するためのコース
・ Oral Communication ･･･「聴く・話す」能力を養成するためのコース
(ｳ) ２年次で英語を選択する学生は，「英語ＢⅠ」及び「英語ＢⅡ」を各２単位修得しなければなりません。各２単位，計４単位を超えて修得することはできません。
(ｴ)「英語ＢⅠ」及び「英語ＢⅡ」は，それぞれ週１回１クラスを半期履修することにより１単位認定されます。４単位を修得するためには，「英語ＢⅠ」について前・後期各１クラスの計２クラス，「英語ＢⅡ」についても前・後期各１クラスの計２クラスを履修する必要があります。
(ｵ)開講曜日・時限は学類毎に指定されています。
・ 人間発達文化学類･共生システム理工学類は「英語ＢⅠ」が月曜日1時限，「英語ＢⅡ」が水曜日2時限
・ 行政政策学類･経済経営学類は「英語ＢⅠ」が水曜日1時限，「英語ＢⅡ」が金曜日2時限
・ 学類指定以外の曜日･時限の授業を受講することはできません。
(ｶ)**前期の所属クラスは「英語ＢⅠ」，「英語ＢⅡ」ともに，以下の手続き**で行います。
１．シラバスを読んで，受講を希望するクラスの第１回目の授業に必ず出席してください。
２．第１回目の授業では，授業内容についての説明と希望受付が２回（１次，２次）行われます。
＜１次説明・受付＞
・ 第１回目授業開始時（**１時限８時４０分，２時限１０時２０分**）に希望するクラスの教室に行き，授業内容等について説明を受けた後，**別途配布する「受講希望カード」を担当教員**に提出してください。（人数が多い場合は，その場で抽選が行われます。）
・ １次受付で定員に達したクラスは，２次受付は行いません。
＜２次説明・受付＞
・１次受付で抽選にもれた学生は，提出した受講希望カードを受け取り，受講可能なクラスを掲示で確認し，**２次説明・受付開時刻（１時限９時４０分，２時限１１時２０分）**までに希望するクラスの教室に行ってください。授業内容について説明を受けた後，受講希望カードを担当教員に提出してください。（人数が多い場合は，その場で抽選が行われます。）
・２次受付の抽選にもれた学生及び第１回目の授業を欠席した学生は，受講希望カードを共通領域担当窓口に提出してください。所属クラスは第２回目の授業までに掲示します。
(ｷ)**後期の所属クラス**は「英語ＢⅠ」，「英語ＢⅡ」それぞれ前期と同一教員のクラスになります。
前期に単位を修得できなかった場合でも，後期は同じクラスで受講可能です。但し、通常クラスから「基礎クラス」，「上級クラス」に限って変更ができます。

(ｸ)「英語ＢⅠ」，「英語ＢⅡ」の**「基礎クラス」と「上級クラス」は，前期から開講**されます。成績評価は上級クラスが「A, B, F」のいずれか，基礎クラスは「C, D, F」のいずれかになります。

・「基礎クラス」，「上級クラス」を希望する学生は，通常クラスと同様，第１回目授業開始時（１時限８時４０分，２時限１０時２０分）に希望するクラスの教室に行き，授業内容等について説明を受けた後，**別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出**してください。人数が多い場合は，その場で抽選が行われます。

・ １次受付で抽選にもれた学生は，提出した受講希望カードを受け取り，受講可能なクラスを掲示で確認し，２次説明・受付開始時刻（１時限９時４０分，２時限１１時２０分）までに希望するクラスに行ってください。上記の＜２次説明・受付＞と同様の手続きで決定になります。

(ｹ)前期に通常クラスに所属していた学生に限り，後期から「基礎クラス」，「上級クラス」への変更が可能です。受付期間は，９月中旬～下旬です。上級クラス・基礎クラスを希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の認否は掲示板等でお知らせします。（前期の時点で「基礎クラス」，「上級クラス」が定員を満たしている場合，また，希望人数が多い等の場合は希望が認められないことがあります。）

応用英語Ⅰ～Ⅵ

(ｱ) ３，４年次生で，さらに英語の履修を希望する学生は，「応用英語Ⅰ～Ⅵ」を履修することができます。

(ｲ) 当該科目は，それぞれの授業の目的・内容が異なります。詳細はシラバスに記載されています。

(ｳ) 修得した単位は，自由選択領域の単位として計上され，外国語の必修単位にはなりません。

(ｴ) 再修得することはできませんが，単位修得後に同一の授業科目（ローマ数字が同じ科目）を繰り返し履修し，単位の修得が認められます。

外部検定試験の活用について

学習案内Ｐ．９８の「英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」の記載を読み，所定の手続きをとってください。（英語ではなく「自由選択領域分」として認定されます。）

語学研修について

学習案内Ｐ．１０２の「英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」の記載を読み，所定の手続きをとってください。

再履修等について

(ｱ)「英語ＡⅠ・ＡⅡ」，「英語ＢⅠ・ＢⅡ」の再履修を希望する学生は，共通領域担当窓口から**「英語再履修希望調査カード」**を受け取り，第１回目授業開始時に希望するクラスの教室に行き，カードを担当教員に提出してください。第1希望のクラスが受入不可で、第2、第3希望のクラスでも受付不可だった場合は、共通領域担当窓口まで申し出て下さい。

再履修希望カード配布時期：　前期　３月中～下旬　／　後期　９月中旬

(ｲ) １クラス（半期）のみ再履修を希望する学生は，修得済みのクラスの開講時期（前期／後期）に関わらず，前期，後期いずれでも履修可能です。

(ｳ)再履修以外の理由（休学等）で，「英語ＡⅠ・ＡⅡ」を２年次以上，「英語ＢⅠ・ＢⅡ」を３年次以上で履修する学生も同じ手続きをとってください。

(ｴ)再履修として前期から履修している学生は，後期の再履修手続は不要です。後期は，前期と同一教員のクラスになります。前期に通常クラスに所属し，後期から「基礎クラス」，「上級クラス」を希望する学生は，所定の手続きをとってください。

(ｵ) ４年次生以上で専門領域科目の履修の関係で英語の再履修が困難な学生は，英語再履修受付期間に必ず共通領域担当に申し出てください。

②英語以外の外国語の履修について

英語以外の外国語は次のように開講されます。

ドイツ語	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	上級
フランス語	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	上級
中国語	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	上級
ロシア語	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	上級
スペイン語	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	上級
韓国朝鮮語	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	上級

＊「スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ」は，全学で１クラス（火曜日２時限と木曜日２時限）のみの開講です。人間発達文化学類と共生システム理工学類の学生が履修を希望する際には，専門領域科目との時間割の重複に注意してください。

＊「初級」と「中級」の開講時限はおおむね一定していますが，「上級」は年度により開講時限や開講時期が変更されることがあります。

初級Ⅰ・初級Ⅱ

(ｱ) １年次では，いずれか１か国語について「初級Ⅰ」及び「初級Ⅱ」を各２単位，計４単位を修得しなければなりません。各２単位，計４単位を超えて修得することはできません。

(ｲ) 同一クラスで週２回の履修になります。週１回だけの履修は認められません。

(ｳ) 複数クラスのある外国語では所属クラスが指定されますので，そのクラスで受講してください。詳しくは新入生ガイダンスでの指示に従ってください。

(ｴ) 「初級Ⅱ」を履修するためには，当該言語「初級Ⅰ」２単位を修得していなければなりません。

(ｵ) 「初級Ⅱ（後期）」のクラスは，「初級Ⅰ（前期）」と同じクラスを受講してください。

例：（前期）初級ⅠB　→　（前期）初級ⅡB

中級

(ｱ) 英語以外の外国語により外国語の卒業要件単位を満たそうとする学生は，いずれか１か国の言語で４単位を修得しなければなりません。

(ｲ) 「中級」を履修するためには，当該言語の「初級Ⅰ」，「初級Ⅱ」の単位を修得していなければなりません。

(ｳ) 週１回１クラスの履修で１単位認定されます。４単位修得のためには同一外国語について，前期・後期とも週２回２クラスの履修が必要です。

(ｴ) 「中級」は，同一外国語で４単位を超えて履修できますが，４単位を超えて修得した単位は要卒単位に計上できません。

(ｵ) クラスは自由に選択し，第１回目の授業から出席してください。

上級

(ｱ) 「上級」は３，４年次生を対象とした授業で，それまでに修得した外国語運用能力と外国文化の知識をさらに総合的にレベル・アップさせることを目的としています。

(ｲ) 「上級」を履修するためには，当該言語「中級」２単位を修得していなければなりません。「上級」の授業は「中級」４単位修得以上の学力を前提に行われます。

(ｳ) 「上級」の修得単位は自由選択領域の単位として計上され，外国語の必修単位にはなりません。

(ｴ) 「上級」は繰り返し履修することができ，単位の修得が認められます。

履修手続き

(ｱ) 新入生の「初級Ⅰ」の履修手続きは，新入生学内ガイダンスの時に行います。

(ｲ) **「英語以外の外国語初級Ⅰ」の再履修または再修得を希望する学生**は，共通領域担当窓口から**「英語以外の外国語初級履修希望調査カード」**を受領し，必要事項を記入の上，共通領域担当窓口に提出してください。クラス編成はこの調査に基づいて行います。結果は掲示により発表します。

受付期間は，３月下旬～４月初旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

この「希望調査カード」を提出しないと希望する外国語科目が履修できないことがあります。

(ｳ) **「英語以外の外国語初級Ⅱ」の再履修または再修得を希望する学生**は，希望するクラスの第１回目の授業に出席してください。希望調査カードは不要です。事前に掲示による指示があった場合にはそれに従ってください。

やむを得ない理由で第１回目の授業に出席できなかった学生は，各言語の責任教員に相談して

ください。（責任教員は掲示により確認してください。）

(ｴ)「英語以外の外国語中級」の再履修または再修得を希望する学生は，希望するクラスの第１回目の授業に出席してください。

(ｵ)「初級」，「中級」では履修希望者が一定の数を超えた場合に，受講調整を行うことがあります。受講調整を行うクラスについては再修得を認めません。

(ｶ)外国語科目の履修方法について悩んでいる者は，教務課共通領域担当に相談してください。

※授業科目の履修によらない英語以外の外国語の単位認定について

学生のみなさんの履修方法の選択肢を広げ，またそれぞれの到達度に応じた学習を早期に行うことを保障するために，次の２つの制度（外部検定試験の活用，海外研修の活用）があります。

1. 外部検定試験の活用について

入学の前後を問わず，次の表に指定する検定試験に合格した学生は，取得級と同レベルの授業科目の単位認定を受けることができます。

単位認定を希望する学生は，教務課共通領域担当まで申請してください。申請期間については別途掲示します。申請受付後，授業科目の単位修得に必要な内容を補うため，担当の教員がレポート課題や面接試験を課し，その結果により単位を認定します。ただし，本学で既に単位を修得した授業科目について，重ねて単位認定を受けることはできません。成績評価は「N」となります。

この制度により単位認定を受けた学生は，その授業科目の上位科目を標準履修年次にかかわらず，早期に履修することができます。

指定検定試験名，実施母体，級・授業科目対照表

資格試験名	級	科目名	認定単位数
ドイツ語技能検定試験 （ドイツ語学文学振興会）	４級	ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ	４単位
	３級	ドイツ語中級	４単位
共通ヨーロッパ語学証明書－ドイツ語 （欧州理事会文化協調会議教育委員会）	Ａ１	ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ	４単位
	Ａ２	ドイツ語中級	４単位
実用フランス語技能検定試験 （フランス語教育振興協会）	５級	フランス語初級Ⅰ	２単位
	４級	フランス語初級Ⅱ	２単位
	３級	フランス語中級	４単位
フランス文部省認定フランス語資格試験 DELF・DALF（DELF・DALF 委員会）	Ａ１	フランス語初級Ⅰ・Ⅱ	４単位
	Ａ２	フランス語中級	４単位
中国語検定試験 （日本中国語検定協会）	準４級	中国語初級Ⅰ	２単位
	４級	中国語初級Ⅱ	２単位
	３級	中国語中級	４単位
ロシア語能力検定公開試験 （東京ロシア語学院）	４級	ロシア語初級Ⅰ・Ⅱ	４単位
	３級	ロシア語中級	４単位
スペイン語技能検定 （日本スペイン協会）	６級	スペイン語初級Ⅰ	２単位
	５級	スペイン語初級Ⅱ	２単位
	４級	スペイン語中級	４単位
韓国語能力試験 （韓国教育財団）	１級	韓国朝鮮語初級Ⅰ	２単位
	２級	韓国朝鮮語初級Ⅱ	２単位
	３級	韓国朝鮮語中級	４単位
日本語能力試験（注2） （日本国際教育支援協会）	Ｎ１	日本語Ⅰ	２単位

注）１）　単位を認定された授業科目の級以下の授業についても合わせて単位を認定する。ただし、本学ですでに単位を修得した授業科目及び単位認定を受けた授業科目について，重ねて単位認定は行わない。

２）　日本語は外国人留学生に限る。

2. 海外研修の活用について

「初級Ⅱ」の単位を修得した学生又は履修中の学生は，その言語圏の学校で研修を受ければ，「中級」又は「上級」４単位を限度として単位認定を受けることができます。成績評価は「N」となります。ただし，次の条件を満たす必要があります。

(1) 少なくとも２０時間の授業時間があること。

(2) 出発以前に所定の計画書を責任教員に提出し，承認を得ていること。

(3) 研修終了後，レポートを提出し，その言語の責任教員の評価を受けること。

詳細は「英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」を確認してください。

この制度を利用して単位認定を受けようとする学生は，研修開始の１カ月前までに教務課共通領域担当窓口に申し出ると同時に，当該言語の責任教員の指示に従ってください。

(3)情報教育科目の履修について

「情報処理Ⅰ」，「情報処理Ⅱ」，「情報処理Ⅲ」の３科目から，１科目以上を選び，２単位以上を修得してください。

■前期の履修手続き

・新入生の履修手続きは，新入生ガイダンスの時に行います。「情報処理Ⅰ」，「情報処理Ⅱ」，「情報処理Ⅲ」の３科目から，第１受講希望科目と第２受講希望科目を選択のうえ**「希望調査カード」**を提出してください。受講希望に基づき，所属クラスが指定されますので指定されたクラスで履修してください。所属クラスは決定次第，「共通領域掲示板」に掲示します。１回目の授業を受ける前に必ず所属クラスと演習室を確認してください。

・２年次以上の学生は，教務課共通領域担当窓口から「受講希望調査カード」を受領し，第１希望科目と第２希望科目を記入のうえ，教務課共通領域担当窓口に提出してください。

受付期間は３月下旬～４月初旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

クラス編成などの結果については決定次第掲示します。

■後期の履修手続き

・前期の履修希望受付で後期開講の「情報処理Ⅱ」，「情報処理Ⅲ」の各クラスに編成された学生は履修希望を再提出する必要がありません。掲示情報を確認し，所属クラスの授業を受けてください。

・前期の履修希望受付期間に「希望調査カード」を提出しなかった後期履修希望学生，再履修・再修得及び複数科目の履修を希望する学生は以下の手続きによって所属クラスを決定します。

①教務課共通領域担当窓口から**「希望調査カード」**を受領し，シラバスをよく読んで受講するクラスを決め，第１回目の授業に必ず出席してください。

受付期間は９月下旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

②第１回目の授業では，授業内容についての説明を受けた後，**「受講希望カード」**を担当教員に提示してください。人数が多い場合は，抽選により受講調整を行います。結果は決定次第掲示します。

③受講調整の抽選にもれた学生及び第１回目の授業を欠席した学生は，受講可能なクラスを掲示で確認し，受講希望カードを教務課共通領域担当窓口に提出してください。所属クラスは第２回目の授業までに掲示されます。

■再履修，再修得及び複数科目の履修

・情報教育科目の再履修は基本的に認められます。

・情報教育科目の再修得及び複数の情報教育科目の履修については，基本的に認められます。

ただし，１年次の第１受講希望者数が収容人数を超える場合は，再履修・再修得希望者及び複数科目履修者（以前履修した科目が不合格だったため再履修を希望する学生，以前履修した科目の評価が「D」だったため再修得を希望する学生，すでに他の情報教育科目を修得済みの学生，あるいは同一セメスターに他の情報教育科目を履修している学生）の受講は認められません。

・再履修・再修得及び複数科目履修の受講希望人数が収容可能数（１年次の第１受講希望者数を除いた人数）より多い場合は抽選をおこない，抽選結果により再履修・再修得希望者及び複数科目履修者の受講を決定します。

・卒業に必要な要件（卒業要件単位）を超えて修得した単位は，自由選択領域の単位として認められます。

(4)健康・運動科目の履修について

① １年次において，「健康・運動科学実習Ⅰ及びⅡ」の両方を修得しなければなりません。

② 健康・運動科学実習Ⅰ及びⅡを修得した学生は，２年次からスポーツ実習を履修することができます。スポーツ実習は，同一種目の場合でも複数回の履修が可能です。修得した単位は，自由選択領域の単位として計上されます。

③ **健康・運動科学実習Ⅰ，Ⅱともに第１回目の授業の際に種目分けを行いますので，必ず出席してください。再履修者も必ず出席してください。**

集合場所は，第１体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と上履きを用意し，普段着で出席してください。欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。

第１回目の授業に出席できなかった学生は，蓮沼教員（保健体育棟２１４号）の指示を受けてください。

④ 健康・運動科学実習Ⅰ，Ⅱは指定された曜日，時間帯で受講してください。（**共生システム理工学類は，金曜日３時限です。**）ただし，再履修者で，必修の科目と開講時間帯が重なり，指定時間帯の受講が困難な場合は，他の時間帯での履修を認めることがありますので，第１回目の授業で担当教員に申し出てください。

⑤ 特別な理由により実技を行うことが困難な学生には，代替措置を認める場合があります。詳しくは第１回目の授業で説明しますので必ず出席してください。

⑥ **スポーツ実習の受講希望者は，第１回目の授業に必ず出席してください。**希望者が多い場合，第１回目の授業で受講調整を行うことがあります。**授業開催場所は保健体育棟入り口（第１体育館の右側にある建物）のホワイトボードに掲示**します。

⑦ 健康・運動科学実習Ⅰ，Ⅱは再修得することができますが，スポーツ実習は再修得科目から除外されています。

⑧ 健康・運動科学実習Ⅰ，Ⅱは履修登録を撤回することはできません。

(5)外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について

履修方法

① 外国語科目の履修は母語系統を除く１つの言語について８単位を修得しなければなりません。「日本語」で代替することもできます。

・具体的には，「英語ＡⅠ・Ⅱ」及び「英語ＢⅠ・Ⅱ」（計８単位），「英語以外の外国語初級Ⅰ・Ⅱ，中級（計８単位）」あるいは「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（計８単位）」のいずれかを修得することが必要です。

・８単位を超えて修得した外国語科目（日本語を含む）の単位は自由選択領域の単位として計上することができます。ただし，同一言語の初級・中級クラスで，８単位を越えて要卒単位に計上はできません。

・「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」はローマ数字の順に修得してください。（例：「日本語Ⅱ」を履修するためには「日本語Ⅰ」２単位を修得していなければなりません。「日本語Ⅲ」を履修するためには「日本語Ⅱ」２単位を修得していなければなりません。）

② 「日本事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は卒業の要件として修得すべき総合科目，広域選択科目１０単位の中に４単位まで含めることができます。この場合，残りの６単位を総合科目，広域選択科目３区分の４分野から３つの分野にわたって科目を選択し修得しなければなりません。

③ ４単位を超えて修得した「日本事情」の単位は自由選択領域の単位として計上することができます。

④ 上の①，②及び③に述べた点を除けば，共通領域科目の履修方法は一般の学生と同じです。

⑤ 「日本語」及び「日本事情」は再修得することはできません。

平成３０年度共通領域科目授業一覧表

1. キャリア形成論

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	キャリア形成論（人）	川田 潤・小野原 雅夫・富永 美佐子	月	1	1	2	Ｌ４	
前期	キャリア形成論（経）	岩井 秀樹	水	2	1	2	Ｌ４	
前期	キャリア形成論（理）	大山 大・横尾 善之	水	2	1	2	Ｌ１	
前期	キャリア形成論（行）Ａ	新藤 雄介	木	1	1	2	Ｌ１	
前期	キャリア形成論（行）Ｂ	佐々木 康文	木	1	1	2	Ｍ１	

2．総合科目　　※総セ)特別教室　（総合教育研究センター　１階）

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	科学と技術の社会史	岡田 努	月	1	1	2	Ｍ１	
前期	ボランティア論	鈴木 典夫・初澤 敏生	水	2	1	2	Ｓ33	
前期	大学生のための現代社会	鈴木 学	木	1	1	2	総セ)特別教室	
前期	ヒトのことばの仕組みと進化	福冨 靖之	木	1	1	2	Ｓ42	
前期	ふくしま　未来へのヒント	未定	木	1	1	2	Ｍ24	
前期	グローバル災害論	佐野 孝治	木	1	1	2	Ｍ22	
前期	大学で学ぶ	高森 智嗣・鈴木 学	金	2	1	2	Ｌ３	
通年	むらの大学	小島 彰　他	金	5	1	2	S31/S32	当該科目の履修登録は前期、成績評価は後期
後期	評価論入門	高森 智嗣	月	1	1	2	Ｌ４	
後期	アジア共同体構想と地域協力の展開	朱 永浩（ずう よんほ）	水	2	1	2	Ｓ38	
後期	ＮＰＯ論	牧田 実	水	2	1	2	Ｓ44	
後期	小さな自治体論	岩崎 由美子	木	1	1	2	Ｍ２	
後期	再生可能エネルギー	佐藤 理夫　他	木	1	1	2	Ｍ１	
後期	災害復興支援学Ⅱ	塩谷 弘康	木	1	1	2	Ｌ２	
後期	セルフラーニングデザイン論	鈴木 学	金	2	1	2	総セ)特別教室	
後期	ふくしま未来学入門	三浦 浩喜	金	2	1	2	Ｌ４	

3．広域選択科目

「人間と文化」分野　　※ＡＶ教室　（Ｍ講義棟　３階）

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	哲学Ⅰ	(非)嶺岸 佑亮	月	1	1	2	Ｌ３	
前期	心理学Ⅰ	筒井 雄二	月	1	1	2	Ｌ１	
前期	心理学Ⅱ01	五十嵐 敦	水	2	1	2	Ｌ３	
前期	心理学Ⅱ02	青木 真理	木	1	1	2	Ｌ２	
前期	美術	加藤 奈保子	金	2	1	2	AV教室	
前期	文学Ⅱ	(非)河内 聡子	金	2	1	2	Ｓ32	
前期	脳神経と精神保健Ⅰ	片山 規央	金	2	1	2	Ｌ２	
後期	哲学Ⅱ	(非)嶺岸 佑亮	月	1	1	2	Ｌ２	
後期	文学Ⅰ	井實 充史	水	2	1	2	Ｍ１	
後期	論理学	(非)佐藤 恒徳	木	1	1	2	Ｌ１	
後期	文学Ⅲ	(非)澤 正宏	金	2	1	2	Ｓ44	
後期	心理学Ⅱ03	内田 千代子	金	2	1	2	Ｍ21	
後期	脳神経と精神保健Ⅱ	片山 規央	金	2	1	2	Ｌ３	

「社会と歴史」分野

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	経営学	則藤 孝志	水	2	1	2	Ｍ24	経済経営学類生履修不可
前期	社会論	新藤 雄介	水	2	1	2	Ｓ32	
前期	市民と法	長谷川 珠子	木	1	1	2	Ｍ４	行政政策学類生履修不可
前期	ジェンダー学入門	高橋 準	金	2	1	2	Ｍ23	
前期	経済学Ⅱ	十河 利明	金	2	1	2	Ｍ３	経済経営学類生履修不可
後期	地理学Ⅰ	末吉 健治	月	1	1	2	Ｌ３	
後期	地域論Ⅰ	小山 良太	水	2	1	2	Ｌ４	
後期	日本国憲法 01	(非)二瓶 由美子	水	2	1	2	Ｌ２	行政政策学類生履修不可
後期	歴史学Ⅰ	鍵和田 賢・阿部 浩一・菊地 芳朗・小松 賢司	木	1	1	2	Ｌ４	
後期	政治学	大黒 太郎	木	1	1	2	Ｍ21	
後期	経済学Ⅰ	荒 知宏	金	2	1	2	Ｓ32	経済経営学類生履修不可
後期	日本国憲法 02	上床 悠	金	2	1	2	Ｌ２	行政政策学類生履修不可

「自然と技術」分野

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	生命の科学 01	木村 勝彦	月	1	1	2	Ｍ２	
前期	物質の科学 01	高貝 慶隆	水	2	1	2	Ｍ22	
前期	環境の科学 01	永幡 幸司・後藤 忍・川崎 興太	水	2	1	2	Ｍ21	
前期	医学概論 01	小室 安宏	水	2	1	2	Ｌ２	
前期	生命の科学 02	小山 純正	木	1	1	2	Ｌ３	
前期	数学Ⅰ	中田 文憲	木	1	1	2	Ｍ23	
前期	環境の科学 02	平中 宏典	金	2	1	2	Ｍ21	
後期	エネルギーの科学	生田 博将	水	2	1	2	Ｍ21	
後期	医学概論 02	小室 安宏	水	2	1	2	Ｌ１	
後期	数学Ⅱ	中川 和重	水	2	1	2	Ｍ22	
後期	ちからとかたち	藤本 勝成　他	木	1	1	2	Ｍ22	
後期	物質の科学 02	佐藤 理夫	金	2	1	2	Ｍ１	
後期	環境の科学 03	柴崎 直明	金	2	1	2	Ｍ22	

4．情報教育科目

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	情報処理Ⅰ01	本田 修啓	月	1	1	2	IPC 1	
前期	情報処理Ⅰ02	内海 哲史	月	1	1	2	IPC 4	
前期	情報処理Ⅰ03	(非)安達 隆	水	2	1	2	IPC 4	
前期	情報処理Ⅰ04	筧 宗徳	木	1	1	2	IPC 4	
前期	情報処理Ⅰ05	本田 修啓	木	1	1	2	IPC 1	
前期	情報処理Ⅰ06	(非)中山 祐貴	金	2	1	2	IPC 4	
前期	情報処理Ⅱ01	(非)木谷 徳智	水	2	1	2	IPC 1	
前期	情報処理Ⅱ02	(非)木谷 徳智	金	2	1	2	IPC 1	
後期	情報処理Ⅱ03	(非)木谷 徳智	水	2	1	2	IPC 4	
後期	情報処理Ⅱ04	(非)木谷 徳智	金	2	1	2	IPC 4	
後期	情報処理Ⅲ	本田 修啓	木	1	1	2	IPC 4	
後期	情報処理Ⅳ	内海 哲史	月	1	1	2	IPC 1	

5．　外国語科目

英　語　　※ＡＶ教室、ＬＬ教室　（M講義棟　３階）

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語ＡⅠ01	飯嶋 良太	月	2	1	1	S 43	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語ＡⅠ02	吉高神 明	月	2	1	1	LL教室	
前期	英語ＡⅠ03	佐々木 俊彦	月	2	1	1	C 101	
前期	英語ＡⅠ04	(非)衛藤 安治	月	2	1	1	S 32	
前期	英語ＡⅠ05	(非)安藤 勝夫	月	2	1	1	S 31	
前期	英語ＡⅠ06	(非)九頭見 理香	月	2	1	1	S 41	
前期	英語ＡⅠ07	(非)早川 正信	月	2	1	1	S 33	
前期	英語ＡⅠ08	(非)渡邊 真由美	月	2	1	1	S 44	
前期	英語ＡⅠ09	(非)ジョン・ティルマント	月	2	1	1	S 34	
前期	英語ＡⅠ10	(非)レジス・ドラビゾン	月	2	1	1	S 23	
前期	英語ＡⅠ21	(非)ジョン・ティルマント	月	3	1	1	S 34	行政政策・経済経営学類
前期	英語ＡⅠ22	佐久間 康之	月	3	1	1	C 102	
前期	英語ＡⅠ23	佐々木 俊彦	月	3	1	1	C 101	
前期	英語ＡⅠ24	松浦 浩子	月	3	1	1	LL教室	
前期	英語ＡⅠ25	(非)安藤 勝夫	月	3	1	1	S 31	
前期	英語ＡⅠ26	(非)荒 哲	月	3	1	1	S 21	
前期	英語ＡⅠ27	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S 42	
前期	英語ＡⅠ28	(非)早川 正信	月	3	1	1	S 33	
前期	英語ＡⅠ29	(非)レジス・ドラビゾン	月	3	1	1	S 23	
前期	英語ＡⅠ30	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	3	1	1	S 22	
後期	英語ＡⅠ11	飯嶋 良太	月	2	1	1	S 43	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語ＡⅠ12	吉高神 明	月	2	1	1	S 14	
後期	英語ＡⅠ13	佐々木 俊彦	月	2	1	1	S 35	
後期	英語ＡⅠ14	(非)衛藤 安治	月	2	1	1	S 32	
後期	英語ＡⅠ15	(非)安藤 勝夫	月	2	1	1	S 31	
後期	英語ＡⅠ16	(非)九頭見 理香	月	2	1	1	S 41	
後期	英語ＡⅠ17	(非)早川 正信	月	2	1	1	S 33	
後期	英語ＡⅠ18	(非)渡邊 真由美	月	2	1	1	S 44	
後期	英語ＡⅠ19	(非)ジョン・ティルマント	月	2	1	1	S 34	
後期	英語ＡⅠ20	(非)レジス・ドラビゾン	月	2	1	1	S 23	
後期	英語ＡⅠ41（上級）	佐久間 康之	月	2	1	1	S 28	
後期	英語ＡⅠ42（基礎）	髙田 英和	月	2	1	1	S 13	
後期	英語ＡⅠ31	(非)ジョン・ティルマント	月	3	1	1	S 34	行政政策・経済経営学類
後期	英語ＡⅠ32	佐久間 康之	月	3	1	1	S 28	
後期	英語ＡⅠ33	佐々木 俊彦	月	3	1	1	S 35	
後期	英語ＡⅠ34	松浦 浩子	月	3	1	1	S 12	
後期	英語ＡⅠ35	(非)安藤 勝夫	月	3	1	1	S 31	
後期	英語ＡⅠ36	(非)荒 哲	月	3	1	1	S 21	
後期	英語ＡⅠ37	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S 42	
後期	英語ＡⅠ38	(非)早川 正信	月	3	1	1	S 33	
後期	英語ＡⅠ39	(非)レジス・ドラビゾン	月	3	1	1	S 23	
後期	英語ＡⅠ40	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	3	1	1	S 22	
後期	英語ＡⅠ43（上級）	吉高神 明	月	3	1	1	S 14	
後期	英語ＡⅠ44（基礎）	福冨 靖之	月	3	1	1	S 41	
前期	英語ＡⅡ01	髙田 英和	金	1	1	1	S 33	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語ＡⅡ02	(非)荒 哲	金	1	1	1	S 21	
前期	英語ＡⅡ03	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S 41	
前期	英語ＡⅡ04	後藤 史子	金	1	1	1	S 31	
前期	英語ＡⅡ05	マッカーズランド・フィリップ	金	1	1	1	S 44	
前期	英語ＡⅡ06	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S 43	
前期	英語ＡⅡ07	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	1	1	1	S 22	
前期	英語ＡⅡ08	(非)ジョン・ティルマント	金	1	1	1	IPC 5	
前期	英語ＡⅡ09	(非)レジス・ドラビゾン	金	1	1	1	S 23	
前期	英語ＡⅡ10	佐藤 元樹	金	1	1	1	S 42	
前期	英語ＡⅡ21	後藤 史子	金	3	1	1	S 31	行政政策・経済経営学類
前期	英語ＡⅡ22	久我 和巳	金	3	1	1	S 34	
前期	英語ＡⅡ23	(非)荒 哲	金	3	1	1	S 21	
前期	英語ＡⅡ24	(非)長谷川 明子	金	3	1	1	S 42	
前期	英語ＡⅡ25	(非)早川 正信	金	3	1	1	S 33	
前期	英語ＡⅡ26	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S 43	
前期	英語ＡⅡ27	マッカーズランド・フィリップ	金	3	1	1	S 44	
前期	英語ＡⅡ28	ジョン・ティルマント	金	3	1	1	IPC 5	
前期	英語ＡⅡ29	(非)レジス・ドラビゾン	金	3	1	1	S 23	
前期	英語ＡⅡ30	福冨 靖之	金	3	1	1	S 41	

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
後期	英語ＡⅡ11	髙田 英和	金	1	1	1	S 33	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語ＡⅡ12	(非)荒 哲	金	1	1	1	S 21	
後期	英語ＡⅡ13	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S 41	
後期	英語ＡⅡ14	後藤 史子	金	1	1	1	S 31	
後期	英語ＡⅡ15	マッカーズランド・フィリップ	金	1	1	1	S 14	
後期	英語ＡⅡ16	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S 43	
後期	英語ＡⅡ17	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	1	1	1	S 22	
後期	英語ＡⅡ18	(非)ジョン・ティルマント	金	1	1	1	IPC 5	
後期	英語ＡⅡ19	(非)レジス・ドラビゾン	金	1	1	1	S 23	
後期	英語ＡⅡ20	佐藤 元樹	金	1	1	1	S 42	
後期	英語ＡⅡ41（上級）	村上 雄一	金	1	1	1	S 32	
後期	英語ＡⅡ42（基礎）	飯嶋 良太	金	1	1	1	S 12	
後期	英語ＡⅡ31	後藤 史子	金	3	1	1	S 31	行政政策・経済経営学類
後期	英語ＡⅡ32	久我 和巳	金	3	1	1	S 34	
後期	英語ＡⅡ33	(非)荒 哲	金	3	1	1	S 21	
後期	英語ＡⅡ34	(非)長谷川 明子	金	3	1	1	S 42	
後期	英語ＡⅡ35	(非)早川 正信	金	3	1	1	S 33	
後期	英語ＡⅡ36	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S 43	
後期	英語ＡⅡ37	マッカーズランド・フィリップ	金	3	1	1	S 14	
後期	英語ＡⅡ38	ジョン・ティルマント	金	3	1	1	IPC 5	
後期	英語ＡⅡ39	(非)レジス・ドラビゾン	金	3	1	1	S 23	
後期	英語ＡⅡ40	福冨 靖之	金	3	1	1	S 41	
後期	英語ＡⅡ43（上級）	佐藤 元樹	金	3	1	1	S 35	
後期	英語ＡⅡ44（基礎）	朝賀 俊彦	金	3	1	1	S 11	
前期	英語ＢⅠ01	飯嶋 良太	月	1	2	1	S43	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語ＢⅠ02	髙田 英和	月	1	2	1	S 33	
前期	英語ＢⅠ03	松浦 浩子	月	1	2	1	LL教室	
前期	英語ＢⅠ04	(非)荒 哲	月	1	2	1	S 21	
前期	英語ＢⅠ05	(非)安藤 勝夫	月	1	2	1	S 31	
前期	英語ＢⅠ06	(非)衛藤 安治	月	1	2	1	S 32	
前期	英語ＢⅠ07	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S 41	
前期	英語ＢⅠ08	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	1	2	1	S 22	
前期	英語ＢⅠ09	(非)渡邊 真由美	月	1	2	1	S 44	
前期	英語ＢⅠ41（上級）	(非)レジス・ドラビゾン	月	1	2	1	S 23	
前期	英語ＢⅠ42（基礎）	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S 42	
前期	英語ＢⅠ21	川田 潤	水	1	2	1	S 44	行政政策・経済経営学類
前期	英語ＢⅠ22	吉高神 明	水	1	2	1	S 23	
前期	英語ＢⅠ23	久我 和巳	水	1	2	1	S 34	
前期	英語ＢⅠ24	(非)長谷川 明子	水	1	2	1	S 42	
前期	英語ＢⅠ25	佐々木 俊彦	水	1	2	1	C 101	
前期	英語ＢⅠ26	髙木 修一	水	1	2	1	S 43	
前期	英語ＢⅠ27	松浦 浩子	水	1	2	1	LL教室	
前期	英語ＢⅠ28	(非)荒 哲	水	1	2	1	S 21	
前期	英語ＢⅠ29	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	1	2	1	S 22	
前期	英語ＢⅠ43（上級）	村上 雄一	水	1	2	1	S 32	
前期	英語ＢⅠ44（基礎）	福冨 靖之	水	1	2	1	S 41	
後期	英語ＢⅠ11	飯嶋 良太	月	1	2	1	S 43	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語ＢⅠ12	髙田 英和	月	1	2	1	S 33	
後期	英語ＢⅠ13	松浦 浩子	月	1	2	1	S 12	
後期	英語ＢⅠ14	(非)荒 哲	月	1	2	1	S 21	
後期	英語ＢⅠ15	(非)安藤 勝夫	月	1	2	1	S 31	
後期	英語ＢⅠ16	(非)衛藤 安治	月	1	2	1	S 32	
後期	英語ＢⅠ17	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S 41	
後期	英語ＢⅠ18	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	1	2	1	S 22	
後期	英語ＢⅠ19	(非)渡邊 真由美	月	1	2	1	S 44	
後期	英語ＢⅠ51（上級）	(非)レジス・ドラビゾン	月	1	2	1	S 23	
後期	英語ＢⅠ52（基礎）	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S 42	
後期	英語ＢⅠ31	川田 潤	水	1	2	1	S 14	行政政策・経済経営学類
後期	英語ＢⅠ32	吉高神 明	水	1	2	1	S 23	
後期	英語ＢⅠ33	久我 和巳	水	1	2	1	S 34	
後期	英語ＢⅠ34	(非)長谷川 明子	水	1	2	1	S 42	
後期	英語ＢⅠ35	佐々木 俊彦	水	1	2	1	S 33	
後期	英語ＢⅠ36	髙木 修一	水	1	2	1	S 43	
後期	英語ＢⅠ37	松浦 浩子	水	1	2	1	S 12	
後期	英語ＢⅠ38	(非)荒 哲	水	1	2	1	S 21	
後期	英語ＢⅠ39	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	1	2	1	S 22	
後期	英語ＢⅠ53（上級）	村上 雄一	水	1	2	1	S 32	
後期	英語ＢⅠ54（基礎）	福冨 靖之	水	1	2	1	S 41	

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語ＢⅡ01	(非)長谷川 明子	水	2	2	1	S 42	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語ＢⅡ02	後藤 史子	水	2	2	1	S 31	
前期	英語ＢⅡ03	髙木 修一	水	2	2	1	S 43	
前期	英語ＢⅡ04	(非)荒 哲	水	2	2	1	S 21	
前期	英語ＢⅡ05	吉高神 明	水	2	2	1	S 23	
前期	英語ＢⅡ06	マッカーズランド・フィリップ	水	2	2	1	S 44	
前期	英語ＢⅡ07	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	2	2	1	S 22	
前期	英語ＢⅡ08	(非)ジョン・ティルマント	水	2	2	1	IPC 5	
前期	英語ＢⅡ09	福冨 靖之	水	2	2	1	S 41	
前期	英語ＢⅡ41（上級）	佐々木 俊彦	水	2	2	1	C 101	
前期	英語ＢⅡ42（基礎）	照沼 かほる	水	2	2	1	S 34	
前期	英語ＢⅡ21	佐藤 元樹	金	2	2	1	S 42	行政政策・経済経営学類
前期	英語ＢⅡ22	村上 雄一	金	2	2	1	S 21	
前期	英語ＢⅡ23	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S 41	
前期	英語ＢⅡ24	(非)早川 正信	金	2	2	1	S 33	
前期	英語ＢⅡ25	真歩仁 しょうん	金	2	2	1	S 43	
前期	英語ＢⅡ26	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	2	2	1	S 22	
前期	英語ＢⅡ27	(非)ジョン・ティルマント	金	2	2	1	IPC 5	
前期	英語ＢⅡ28	(非)レジス・ドラビゾン	金	2	2	1	S 23	
前期	英語ＢⅡ29	坂本 恵	金	2	2	1	C 101	
前期	英語ＢⅡ43（上級）	マッカーズランド・フィリップ	金	2	2	1	S 44	
前期	英語ＢⅡ44（基礎）	久我 和巳	金	2	2	1	S 34	
後期	英語ＢⅡ11	(非)長谷川 明子	水	2	2	1	S 42	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語ＢⅡ12	後藤 史子	水	2	2	1	S 31	
後期	英語ＢⅡ13	髙木 修一	水	2	2	1	S 43	
後期	英語ＢⅡ14	(非)荒 哲	水	2	2	1	S 21	
後期	英語ＢⅡ15	吉高神 明	水	2	2	1	S 23	
後期	英語ＢⅡ16	マッカーズランド・フィリップ	水	2	2	1	S 14	
後期	英語ＢⅡ17	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	2	2	1	S 22	
後期	英語ＢⅡ18	(非)ジョン・ティルマント	水	2	2	1	IPC 5	
後期	英語ＢⅡ19	福冨 靖之	水	2	2	1	S 41	
後期	英語ＢⅡ51（上級）	佐々木 俊彦	水	2	2	1	S 33	
後期	英語ＢⅡ52（基礎）	照沼 かほる	水	2	2	1	S 34	
後期	英語ＢⅡ31	佐藤 元樹	金	2	2	1	S 42	行政政策・経済経営学類
後期	英語ＢⅡ32	(非)荒 哲	金	2	2	1	S 21	
後期	英語ＢⅡ33	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S 41	
後期	英語ＢⅡ34	(非)早川 正信	金	2	2	1	S 33	
後期	英語ＢⅡ35	真歩仁 しょうん	金	2	2	1	S 43	
後期	英語ＢⅡ36	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	2	2	1	S 22	
後期	英語ＢⅡ37	(非)ジョン・ティルマント	金	2	2	1	IPC 5	
後期	英語ＢⅡ38	(非)レジス・ドラビゾン	金	2	2	1	S 23	
後期	英語ＢⅡ39	坂本 恵	金	2	2	1	S 35	
後期	英語ＢⅡ53（上級）	マッカーズランド・フィリップ	金	2	2	1	S 14	
後期	英語ＢⅡ54（基礎）	久我 和巳	金	2	2	1	S 34	
前期	応用英語Ⅰ	(非)ジョン・ティルマント	月	1	3	2	S 34	学類指定なし
前期	応用英語Ⅲ	松浦 浩子	水	2	3	2	LL教室	
前期	応用英語Ⅴ	坂本 恵	金	1	3	2	C 101	
後期	応用英語Ⅱ	(非)ジョン・ティルマント	月	1	3	2	S 34	学類指定なし
後期	応用英語Ⅳ	松浦 浩子	水	2	3	2	S 12	
後期	応用英語Ⅵ	坂本 恵	金	1	3	2	S 35	

英語以外の外国語

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	ドイツ語初級ＩＡ	グンスケフォンケルン・Ｍ	火	2	1	2	Ｓ 22	主として行政政策・経済経営学類
		グンスケフォンケルン・Ｍ	木	2	1		Ｓ 22	
前期	ドイツ語初級ＩＢ	(非)グンスケフォンケルン・Ｊ	火	2	1	2	Ｃ 102	
		(非)斎藤 寛	木	2	1		Ｃ 102	
前期	ドイツ語初級ＩＣ	(非)神子 博昭	火	2	1	2	Ｓ 43	
		(非)神子 博昭	木	2	1		Ｓ 43	
前期	ドイツ語初級ＩＤ	(非)グンスケフォンケルン・Ｊ	火	3	1	2	Ｃ 102	主として人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)斎藤 寛	木	4	1		Ｃ 102	
前期	ドイツ語初級ＩＥ	グンスケフォンケルン・Ｍ	火	3	1	2	Ｓ 22	
		グンスケフォンケルン・Ｍ	木	4	1		Ｓ 22	
前期	ドイツ語初級ＩＦ	高橋 優	火	3	1	2	Ｓ 21	
		(非)オーバーボイマー・ユルゲン	木	4	1		Ｓ 21	
後期	ドイツ語初級ⅡＡ	グンスケフォンケルン・Ｍ	火	2	1	2	Ｓ 11	主として行政政策・経済経営学類
		グンスケフォンケルン・Ｍ	木	2	1		Ｓ 11	
後期	ドイツ語初級ⅡＢ	(非)グンスケフォンケルン・Ｊ	火	2	1	2	Ｓ 35	
		(非)斎藤 寛	木	2	1		Ｓ 35	
後期	ドイツ語初級ⅡＣ	(非)神子 博昭	火	2	1	2	Ｓ 43	
		(非)神子 博昭	木	2	1		Ｓ 43	
後期	ドイツ語初級ⅡＤ	(非)グンスケフォンケルン・Ｊ	火	3	1	2	Ｓ 35	主として人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)斎藤 寛	木	4	1		Ｓ 35	
後期	ドイツ語初級ⅡＥ	グンスケフォンケルン・Ｍ	火	3	1	2	Ｓ 11	
		グンスケフォンケルン・Ｍ	木	4	1		Ｓ 11	
後期	ドイツ語初級ⅡＦ	高橋 優	火	3	1	2	Ｓ 21	
		(非)オーバーボイマー・ユルゲン	木	4	1		Ｓ 21	
前期	ドイツ語中級Ａ	グンスケフォンケルン・Ｍ	火	1	2	1	Ｓ 22	学類指定なし
前期	ドイツ語中級Ｂ	高橋 優	火	1	2	1	Ｓ 21	
前期	ドイツ語中級Ｃ	(非)オーバーボイマー・ユルゲン	木	3	2	1	Ｓ 21	
前期	ドイツ語中級Ｄ	グンスケフォンケルン・Ｍ	木	3	2	1	Ｓ 22	
後期	ドイツ語中級Ｅ	グンスケフォンケルン・Ｍ	火	1	2	1	Ｓ 11	学類指定なし
後期	ドイツ語中級Ｆ	高橋 優	火	1	2	1	Ｓ 21	
後期	ドイツ語中級Ｇ	(非)オーバーボイマー・ユルゲン	木	3	2	1	Ｓ 21	
後期	ドイツ語中級Ｈ	グンスケフォンケルン・Ｍ	木	3	2	1	Ｓ 11	
前期	ドイツ語上級Ａ	高橋 優	火	2	3	2	Ｓ 21	学類指定なし
後期	ドイツ語上級Ｂ	高橋 優	火	2	3	2	Ｓ 21	学類指定なし
前期	フランス語初級ＩＡ	(非)平手 伸昭	火	2	1	2	Ｓ 32	主として行政政策・経済経営学類
		(非)長谷川 明子	木	2	1		Ｓ 42	
前期	フランス語初級ＩＢ	(非)長谷川 明子	火	2	1	2	Ｓ 42	
		(非)野中 みどり	木	2	1		Ｓ 31	
前期	フランス語初級ＩＣ	(非)寺本 弘子	火	3	1	2	Ｓ 31	主として人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)野中 みどり	木	4	1		Ｓ 31	
前期	フランス語初級ＩＤ	(非)平手 伸昭	火	3	1	2	Ｓ 32	
		(非)長谷川 明子	木	4	1		Ｓ 42	
前期	フランス語初級ＩＥ	(非)長谷川 明子	火	3	1	2	Ｓ 42	
		田村 奈保子	木	4	1		LL教室	
後期	フランス語初級ⅡＡ	(非)平手 伸昭	火	2	1	2	Ｓ 32	主として行政政策・経済経営学類
		(非)長谷川 明子	木	2	1		Ｓ 42	
後期	フランス語初級ⅡＢ	(非)長谷川 明子	火	2	1	2	Ｓ 42	
		(非)野中 みどり	木	2	1		Ｓ 31	
後期	フランス語初級ⅡＣ	(非)寺本 弘子	火	3	1	2	Ｓ 31	主として人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)野中 みどり	木	4	1		Ｓ 31	
後期	フランス語初級ⅡＤ	(非)平手 伸昭	火	3	1	2	Ｓ 32	
		(非)長谷川 明子	木	4	1		Ｓ 42	
後期	フランス語初級ⅡＥ	(非)長谷川 明子	火	3	1	2	Ｓ 42	
		田村 奈保子	木	4	1		Ｓ 13	
前期	フランス語中級Ａ	(非)寺本 弘子	火	1	2	1	Ｓ 31	学類指定なし
前期	フランス語中級Ｂ	(非)長谷川 明子	火	1	2	1	Ｓ 42	
前期	フランス語中級Ｃ	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	Ｓ 23	
前期	フランス語中級Ｄ	(非)野中 みどり	木	3	2	1	Ｓ 31	
後期	フランス語中級Ｅ	(非)寺本 弘子	火	1	2	1	Ｓ 31	学類指定なし
後期	フランス語中級Ｆ	(非)長谷川 明子	火	1	2	1	Ｓ 42	
後期	フランス語中級Ｇ	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	Ｓ 23	
後期	フランス語中級Ｈ	(非)野中 みどり	木	3	2	1	Ｓ 31	
前期	フランス語上級Ａ	田村 奈保子	木	3	3	2	LL教室	学類指定なし
後期	フランス語上級Ｂ	田村 奈保子	木	3	3	2	Ｓ 13	学類指定なし

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	中国語初級ＩＡ	池澤 實芳	火	2	1	2	C 101	主として行政政策・経済経営学類
		(非)解 澤春（かい たくしゅん）	木	2	1		C 101	
前期	中国語初級ＩＢ	金　敬雄	火	2	1	2	S 33	
		(非)伊藤 由美	木	2	1		S 33	
前期	中国語初級ＩＣ	(非)何 燕生	火	2	1	2	S 31	
		手代木 有兒	木	2	1		S 32	
前期	中国語初級ＩＤ	(非)井上 浩一	火	2	1	2	S 23	
		池澤 實芳	木	2	1		S 23	
前期	中国語初級ＩＥ	手代木 有兒	火	3	1	2	S 43	主として人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)伊藤 由美	木	4	1		S 33	
前期	中国語初級ＩＦ	池澤 實芳	火	3	1	2	C 101	
		(非)解 澤春（かい たくしゅん）	木	4	1		C 101	
前期	中国語初級ＩＧ	金　敬雄	火	3	1	2	S 33	
		手代木 有兒	木	4	1		S 32	
前期	中国語初級ＩＨ	(非)井上 浩一	火	3	1	2	S 23	
		金　敬雄	木	4	1		S 23	
後期	中国語初級ⅡＡ	池澤 實芳	火	2	1	2	S 14	主として行政政策・経済経営学類
		(非)解 澤春（かい たくしゅん）	木	2	1		S 22	
後期	中国語初級ⅡＢ	金　敬雄	火	2	1	2	S 33	
		(非)伊藤 由美	木	2	1		S 33	
後期	中国語初級ⅡＣ	(非)何 燕生	火	2	1	2	S 31	
		手代木 有兒	木	2	1		S 32	
後期	中国語初級ⅡＤ	(非)井上 浩一	火	2	1	2	S 23	
		池澤 實芳	木	2	1		S 23	
後期	中国語初級ⅡＥ	手代木 有兒	火	3	1	2	S 43	主として人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)伊藤 由美	木	4	1		S 33	
後期	中国語初級ⅡＦ	池澤 實芳	火	3	1	2	S 14	
		池澤 實芳	木	4	1		S 14	
後期	中国語初級ⅡＧ	金　敬雄	火	3	1	2	S 33	
		手代木 有兒	木	4	1		S 32	
後期	中国語初級ⅡＨ	(非)井上 浩一	火	3	1	2	S 23	
		金　敬雄	木	4	1		S 23	
前期	中国語中級Ａ	手代木 有兒	火	1	2	1	S 43	学類指定なし
前期	中国語中級Ｂ	金　敬雄	火	1	2	1	S 33	
前期	中国語中級Ｃ	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S 23	
前期	中国語中級Ｄ	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S 33	
前期	中国語中級Ｅ	(非)解 澤春（かい たくしゅん）	木	3	2	1	C 101	
後期	中国語中級Ｆ	手代木 有兒	火	1	2	1	S 43	学類指定なし
後期	中国語中級Ｇ	金　敬雄	火	1	2	1	S 33	
後期	中国語中級Ｈ	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S 23	
後期	中国語中級Ｉ	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S 33	
後期	中国語中級Ｊ	(非)解 澤春（かい たくしゅん）	木	3	2	1	S 22	
前期	中国語上級Ａ	手代木 有兒	木	3	3	2	S 32	学類指定なし
後期	中国語上級Ｂ	手代木 有兒	木	3	3	2	S 32	学類指定なし
前期	ロシア語初級ＩＡ	吉川宏人	火	2	1	2	S 44	主として行政政策・経済経営学類
		吉川宏人	木	2	1		S 44	
前期	ロシア語初級ＩＢ	クズネツォーワ・マリーナ	火	3	1	2	S 44	主として人間発達文化・共生システム理工学類
		吉川宏人	木	4	1		S 44	
後期	ロシア語初級ⅡＡ	クズネツォーワ・マリーナ	火	2	1	2	S 28	主として行政政策・経済経営学類
		吉川宏人	木	2	1		S 28	
後期	ロシア語初級ⅡＢ	クズネツォーワ・マリーナ	火	3	1	2	S 28	主として人間発達文化・共生システム理工学類
		吉川宏人	木	4	1		S 28	
前期	ロシア語中級Ａ	クズネツォーワ・マリーナ	火	1	2	1	S 44	学類指定なし
前期	ロシア語中級Ｂ	吉川宏人	木	3	2	1	S 44	
後期	ロシア語中級Ｃ	吉川宏人	火	1	2	1	S 28	学類指定なし
後期	ロシア語中級Ｄ	(非)カザンツェワ・ラーダ	木	3	2	1	S 43	
前期	ロシア語上級Ａ	吉川宏人	木	1	3	2	S 44	学類指定なし
後期	ロシア語上級Ｂ	(非)カザンツェワ・ラーダ	木	4	3	2	S 43	学類指定なし
前期	スペイン語初級Ⅰ	(非)高田 裕憲	火	2	1	2	S 34	学類指定なし
		(非)高田 裕憲	木	2	1		S 34	
後期	スペイン語初級Ⅱ	(非)高田 裕憲	火	2	1	2	S 34	学類指定なし
		(非)高田 裕憲	木	2	1		S 34	
前期	スペイン語中級Ａ	(非)高田 裕憲	火	1	2	1	S 34	学類指定なし
前期	スペイン語中級Ｂ	(非)須田 明博	木	3	2	1	S 34	
後期	スペイン語中級Ｃ	(非)高田 裕憲	火	1	2	1	S 34	学類指定なし
後期	スペイン語中級Ｄ	(非)須田 明博	木	3	2	1	S 34	
前期	スペイン語上級Ａ	(非)高田 裕憲	木	3	3	2	S 43	学類指定なし
後期	スペイン語上級Ｂ	(非)高田 裕憲	木	3	3	2	S 28	学類指定なし
前期	韓国朝鮮語初級ＩＡ	伊藤 俊介	火	2	1	2	S 41	主に経済経営学類・行政政策学類
		(非)朴 相賢（ぱく さんひょん）	木	2	1		S 41	
前期	韓国朝鮮語初級ＩＢ	伊藤 俊介	火	3	1	2	S 41	主に人間発達文化学類・共生システム理工学類
		(非)朴 相賢（ぱく さんひょん）	木	4	1		S 41	
後期	韓国朝鮮語初級ⅡＡ	伊藤 俊介	火	2	1	2	S 41	主に経済経営学類・行政政策学類
		(非)朴 相賢（ぱく さんひょん）	木	2	1		S 41	
後期	韓国朝鮮語初級ⅡＢ	伊藤 俊介	火	3	1	2	S 41	主に人間発達文化学類・共生システム理工学類
		(非)朴 相賢（ぱく さんひょん）	木	4	1		S 41	
前期	韓国朝鮮語中級Ａ	伊藤 俊介	火	1	2	1	S 41	学類指定なし
前期	韓国朝鮮語中級Ｂ	伊藤 俊介	木	3	2	1	C 103	
後期	韓国朝鮮語中級Ｃ	伊藤 俊介	火	1	2	1	S 41	学類指定なし
後期	韓国朝鮮語中級Ｄ	伊藤 俊介	木	3	2	1	S 12	
前期	韓国朝鮮語上級Ａ	伊藤 俊介	木	4	3	2	C 103	学類指定なし
後期	韓国朝鮮語上級Ｂ	伊藤 俊介	木	4	3	2	S 12	学類指定なし

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	日本語Ⅰ	井本 亮	火	2	1	2	S 24	留学生
		井本 亮	木	2	1		S 24	
後期	日本語Ⅱ	井本 亮	火	2	1	2	S 24	留学生
		井本 亮	木	2	1		S 24	
前期	日本語Ⅲ	井本 亮	火	1	2	2	S 24	留学生
		井本 亮	木	3	2		S 24	
後期	日本語Ⅳ	井本 亮	火	1	2	2	S 24	留学生
		井本 亮	木	3	2		S 24	
前期	日本事情Ⅰ	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S 24	留学生
後期	日本事情Ⅱ	井本　亮	木	1	1	2	S 24	留学生

6．健康・運動科目

健康・運動科学実習Ⅰ

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	卓球	小川 宏	月	3	1	1	C 103	人間発達文化学類
前期	ソフトボール	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1	A 201	
前期	バドミントン	(非)渡部 琢也	月	3	1	1	S 41	
前期	タグラグビー	(非)武石 健哉	月	3	1	1	A 202	
前期	バスケットボール	中村 民雄	月	3	1	1	S 43	
前期	サッカー	(非)黒澤 尚	月	3	1	1	A 301	
前期	フィットネス	(非)岡田 麻紀	月	3	1	1	S 44	
前期	バドミントン	安田 俊広	月	2	1	1	C 102	行政政策学類
前期	バレーボール	杉浦 弘一	月	2	1	1	C 103	
前期	タグラグビー	(非)武石 健哉	月	2	1	1	A 202	
前期	サッカー	(非)黒澤 尚	月	2	1	1	A 301	
前期	ソフトボール	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1	A 201	
前期	バレーボール	(非)木次谷 聡	火	3	1	1	A 201	経済経営学類
前期	ゴルフ	川本 和久	火	3	1	1	A 301	
前期	テニス	鈴木 裕美子	火	3	1	1	A 203	
前期	卓球	菅家 礼子	火	3	1	1	A 202	
前期	ソフトボール	中村 民雄	火	3	1	1	S 34	
前期	バドミントン	工藤 孝幾	火	3	1	1	C 103	
前期	テニス	安田 俊宏	金	3	1	1	C 102	共生システム理工学類
前期	バドミントン	工藤 孝幾	金	3	1	1	C 103	
前期	ソフトボール	運沼 哲哉	金	3	1	1	A 301	
前期	卓球	(非)岡田 麻紀	金	3	1	1	A 201	
前期	フィットネス	鈴木 裕美子	金	3	1	1	A 203	

健康・運動科学実習Ⅱ

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
後期	アルティメット	杉浦 弘一	月	3	1	1	C 101	人間発達文化学類
後期	卓球	(非)加藤 守匡	月	3	1	1	C 103	
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1	A 201	
後期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	3	1	1	S 11	
後期	ゴルフ	(非)渡部 琢也	月	3	1	1	A 301	
後期	テニス	安田 俊宏	月	3	1	1	C 102	
後期	ソフトボール	中村 民雄	月	3	1	1	S 43	
後期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1	S 11	行政政策学類
後期	サッカー	(非)渡部 琢也	月	2	1	1	A 301	
後期	卓球	(非)加藤 守匡	月	2	1	1	C 103	
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1	A 201	
後期	テニス	安田 俊広	月	2	1	1	C 102	
後期	バレーボール	小川 宏	火	3	1	1	C 102	経済経営学類
後期	卓球	鈴木 裕美子	火	3	1	1	S 12	
後期	ソフトボール	中村 民雄	火	3	1	1	S 34	
後期	バドミントン	工藤 孝幾	火	3	1	1	C 103	
後期	サッカー	(非)木次谷 聡	火	3	1	1	A 201	
後期	テニス	(非)中澤 謙	火	3	1	1	A 301	
後期	卓球	鈴木 裕美子	金	3	1	1	S 12	共生システム理工学類
後期	バドミントン	工藤 孝幾	金	3	1	1	C 103	
後期	フィットネス	(非)岡田 麻紀	金	3	1	1	A 201	
後期	アルティメット	杉浦 弘一	金	3	1	1	C 101	
後期	バスケットボール	(非)川口 鉄二	金	3	1	1	S 13	

スポーツ実習

開講	科　　目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	ウエイトトレーニング	(非)北野 利雄	月	4	2	1		学類指定なし
前期	リラックスヨガ	(非)岡田 麻紀	月	4	2	1		
前期	バドミントン	(非)木次谷 聡	火	4	2	1		
前期	卓球	小川 宏	火	4	2	1		
前期	ヒップホップダンス	(非)岡田 麻紀	金	4	2	1		
後期	ウエイトトレーニング	(非)北野 利雄	月	4	2	1		学類指定なし
後期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	4	2	1		
後期	バドミントン	(非)木次谷 聡	火	4	2	1		
後期	卓球	(非)中澤 謙	火	4	2	1		
後期	リラックスヨガ	(非)岡田 麻紀	金	4	2	1		

３．専門領域の履修について

共生システム理工学類の専門領域では，人理解，産業，環境科学に関する導入的・基礎的内容を修得してもらうための「学群共通科目」・「学類基礎科目」・「専攻基礎科目」と，学士レベルでのキャリア形成のための専門性を身に付けるための「専攻実践科目」・「専攻専門科目」が配置されています。また，他学類の専門領域科目も含めて専門教育レベルでの文理融合型のカリキュラムが編成されています。

卒業に必要な単位数は，Ｐ．１０（外国人留学生の場合はP．１１）の「履修基準表」に示されていますが，開設授業科目や卒業までに修得しなければならない授業科目の修得方法については，「履修方法の基準」により定められています。

「履修方法の基準」のうち，専門領域の科目にかかわるものには，次ページ以降に掲載されている**「専門領域のうちの３専攻共通の履修方法の基準」**と**「専門領域のうちの各専攻の履修方法の基準」**があります。それぞれの基準を示した表には開設授業科目，単位数及び履修セメスターが記載されており，それぞれの基準で定められた必修及び選択必修の単位数を修得する必要があります。また，履修セメスターは，指定されたセメスターよりも前のセメスターでは履修できないことを表しています。

（1）「専門領域のうちの３専攻共通の履修方法の基準」は，次ページの表１に記載されています。この表には，「履修基準表」の科目区分ごとに，開設授業科目，担当者等が記載されています。理工学群共通科目は「共生の科学」２単位を修得することが定められています。また，「人間支援システム概論」など３科目の概論の中から２科目４単位を修得することが定められています。理工学類基礎科目Ａは，物理学Ｉ（力学），化学Ｉ（基礎化学），基礎実験の３科目６単位を修得することが定められています。理工学類基礎科目Ｂは，「基礎数学」・「解析学Ｉ」の２科目から１科目を選択して２単位を修得することが定められています。理工学類基礎科目Ｃ～Ｅについてもそれぞれの科目区分の中から選択して定められた単位を修得する必要があります。

（2）「専門領域のうちの各専攻の履修方法の基準」は，Ｐ．３９～４８に記載されています。専攻基礎科目・専攻実践科目・専攻専門科目・文理融合科目は，各専攻で専門性を身につけるための科目です。

専攻基礎科目・専攻専門科目・文理融合科目は，指定されたセメスター以降のセメスターにいる場合は専攻所属前に修得することができます。専攻所属前に修得した科目が，所属した専攻で開講している科目の場合はその専攻の科目に計上されますが，所属した専攻で開講していない科目の場合は自由選択領域の科目に計上されます。ただし，専攻専門科目に限り６単位を上限として所属した専攻の専攻専門科目に計上され，６単位を超えて修得した単位は自由選択領域の科目に計上されます。

専攻実践科目は，専攻に所属した後で自分が所属している専攻の科目を履修することになります。他専攻の専攻実践科目は履修することができません。ただし，教育職員免許状取得希望者又は情報特修プログラム履修者は，希望する免許取得又はプログラム修了に必要な専攻実践科目に限って履修できます。なお，他専攻の専攻実践科目は自由選択領域に計上されます。

表１「専門領域のうちの３専攻共通の履修方法の基準」　Ｐ．３９
表２「専門領域のうちの『人間支援システム専攻』の履修方法の基準」　Ｐ．４０～４２
表３「専門領域のうちの『産業システム工学専攻』の履修方法の基準」　Ｐ．４３～４５
表４「専門領域のうちの『環境システムマネジメント専攻』の履修方法の基準」Ｐ．４６～４８

表１　　専門領域のうちの３専攻共通の履修方法の基準

科目区分		授業科目	単位	担当者	必修	選択	履修セメスター	開講予定年度			備考
								３０	３１	３２	
学群共通科目		共生の科学	2	二見　亮弘	2		1	○	○	○	
		人間支援システム概論	2	岡沼　信一　他		4	2	○	○	○	
		産業システム概論	2	石岡　賢　他			2	○	○	○	
		環境システム概論	2	柴崎　直明　他			2	○	○	○	
学類基礎科目	学類基礎科目Ａ	物理学Ⅰ（力学）	2	山口　克彦	2		1	○	○	○	
		化学Ⅰ（基礎化学）	2	大山，大橋，浅田，生田，杉森，高貝，中村（和）	2		1	○	○	○	
		基礎実験	2	（物理系テーマ１）永幡 （物理系テーマ２）増田，馬塲 （化学系テーマ）佐藤，浅田，生田，猪俣，大橋，大山，島田，杉森，高貝，高安，中村（和），難波	2		2	○	○	○	
	学類基礎科目Ｂ	基礎数学	2	笠井　博則		2	1	○	○	○	
		解析学Ⅰ	2	和田　正樹			2	○	○	○	人間発達文化学類との共通開講
	学類基礎科目Ｃ	幾何学基礎	2	藤本　勝成		2	1	○	○	○	
		線形代数学	2	中山　明			2	○	○	○	
	学類基礎科目Ｄ	地球科学	2	長橋　良隆，柴崎　直明		2	1	○	○	○	
		生物学	2	塘　忠顕			1	○	○	○	
		プログラミング基礎	2	篠田　伸夫，中村　勝一，神長　裕明			2	○	○	○	
	学類基礎科目Ｅ	解析学Ⅱ	2	和田　正樹		6	3	○	○	○	人間発達文化学類との共通開講
		確率統計学	2	中川　和重			3	○	○	○	
		物理学Ⅱ（電磁気学）	2	馬塲　一晴			2	○	○	○	
		物理学Ⅲ（熱力学）	2	生田　博将			3	○	○	○	
		化学Ⅱ（物理化学）	2	大橋　弘範			2	○	○	○	

※備考欄に学類名の記載がある授業科目は，当該学類との共通開講科目で，他学類の教員が担当する科目です。

表２　　専門領域のうちの『人間支援システム専攻』の履修方法の基準

科目区分	授業科目	単位	担当者	必修	選択	履修セメスター	開講予定年度			備考
							３０	３１	３２	
専攻基礎科目	数理モデリング	2	（非）石原　正		8	3	○	○	○	
	心理学概論	2	筒井，永幡，高原			3	○	○	○	
	情報科学概論	2	増田　正			3	○	○	○	
	離散数学	2	三浦　一之			3	○	○	○	
	人間工学	2	田中　明			4	○	○	○	
	メカトロニクス	2	高橋　隆行			5	○	○	○	
専攻実践科目	創造工房ゼミ	2	二見亮弘　他　人間支援システム専攻の教員	2		4	○	○	○	
	物理学実験	2	岡沼，山口，藤本（勝），馬場，（非）石原		8	3	○	○	○	
	化学実験Ａ	2	猪俣，高安，高貝，佐藤，生田，大山，杉森，浅田，中村(和)，大橋			3	○	○	○	
	化学実験Ｂ	2	猪俣，高安，高貝，佐藤，生田，大山，杉森，浅田，中村(和)，大橋			3	○	○	○	
	プログラミングⅠ	1	神長　裕明，中村　勝一，内海　哲史			3	○	○	○	
	プログラミングⅡ	1	三浦　一之，篠田　伸夫			4	○	○	○	
	生体システム実験	2	小山，筒井，高原			4	○	○	○	
	支援システム実験	2	二見　亮弘，田中　明			4	○	○	○	
	CAD/CAM演習	2	小沢　喜仁，高橋　隆行			5	○	○	○	
	海外演習	2	未定			3	○	○	○	
専攻専門科目	計算機システム論	2	神長　裕明		30	3	○	○	○	
	電気工学	2	岡沼　信一			3	○	○	○	
	デジタル信号処理	2	田中　明			3	○	○	○	
	脳神経科学	2	小山　純正			3	○	○	○	
	材料及び固体の力学	2	小沢　喜仁			3	○	○	○	
	電子回路	2	二見　亮弘			4	○	○	○	
	機構学	2	高橋　隆行			4	○	○	○	
	量子力学	2	山口　克彦			4	○	○	○	
	システム生理学	2	小山　純正			4	○	○	○	
	学習心理学	2	筒井　雄二			4	○		○	隔年開講
	認知心理学	2	筒井　雄二			4		○		隔年開講
	精神生理学	2	高原　円			4	○	○	○	
	機械材料・加工学	2	小沢　喜仁			4	○	○	○	
	アルゴリズムとデータ構造	2	三浦　一之			4	○	○	○	
	プログラミング言語論	2	増田　正			4	○	○	○	
	データベースシステム	2	中村　勝一			4	○	○	○	
	ソフトウェア設計開発論	2	神長　裕明			4	○	○	○	
	制御工学	2	（非）石原　正			4	○	○	○	
	ヒューマンインターフェイス	2	二見　亮弘			5	○	○	○	
	パワーエレクトロニクス	2	岡沼　信一			5	○	○	○	
	統計力学	2	山口　克彦，馬場　一晴			5		○		隔年開講
	流体力学	2	山口　克彦，馬場　一晴			5	○		○	隔年開講
	サウンドスケープ	2	永幡　幸司			5	○	○	○	
	ネットワークシステム	2	内海　哲史，篠田　伸夫			5	○	○	○	
	形式言語とコンパイラ	2	中村　勝一			5	○	○	○	
	マルチメディアシステム論	2	篠田　伸夫			5	○	○	○	
	精神物理学	2	永幡　幸司			6	○	○	○	
	人工知能と知識処理	2	藤本　勝成			6	○	○	○	
	情報理論	2	藤本　勝成			6	○	○	○	
	生物学的心理学	2	高原　円			7	○	○	○	

科目区分	授業科目	単位	担当者	必修	選択	履修セメスター	開講予定年度			備考
							３０	３１	３２	
専攻専門科目	材料工学概論	2	中村　和正		30	3	○	○	○	産業工学システム専攻
	応用統計学	2	中川　和重			5	○	○	○	産業工学システム専攻
	数理計画法	2	中山　明			5	○	○	○	産業工学システム専攻
	応用解析学	2	笠井　博則			5	○	○	○	産業工学システム専攻
	材料分析基礎	2	中村　和正			6	○	○	○	産業工学システム専攻
	情報社会と情報倫理	2	(非)林　良雄			3	○	○	○	
	本表に含まれない他専攻専門科目		6単位を上限として専攻専門科目に認定							
文理融合科目	環境文化論	2	後藤　忍		6	4	○	○	○	環境システムマネジメント専攻
	解剖学	2	安田　俊広			1	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	生理学（運動生理学）	2	安田　俊広			2	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	企業と簿記会計Ⅱ	2	平野　智久			2	○	○	○	経済経営学類の開放科目
	人間関係の心理学	2	(非)風間　文明			3	○	○	○	人間発達文化学類との共通開講
	運動の学習と発達	2	未　定			3	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	音楽美学	2	(非)平田　公子			3	○		○	人間発達文化学類の開放科目　隔年
	食と健康	2	千葉　養伍			1	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	心理言語学	2	未　定			3				人間発達文化学類の開放科目
	知覚心理学	2	(非)行場次朗，(非)小林まおり			3	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	知識の哲学	2	(非)佐藤　恒徳			3	○		○	人間発達文化学類の開放科目、隔年
	社会調査論	2	今西　一男			3	○	○	○	行政政策学類の開放科目
	会計学入門	2	根建　晶寛			3	○	○	○	経済経営学類の開放科目
	地域福祉論	2	(非)松本喜一			6	○	○	○	行政政策学類との共通開講
	財務管理論	2	奥本　英樹			5	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	マクロ経済学Ⅰ	2	佐藤　寿博			3	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	ミクロ経済学Ⅰ	2	荒　知宏			3	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	管理会計	2	奥山　修司			4	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	スポーツ運動学（運動方法学を含む）	2	(非)川口　鉄二			4	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	言葉の発達と保育	2	佐藤　佐敏			4	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	コンピュータ・ミュージック	2	未定			3				人間発達文化学類の開放科目
	職業心理学	2	五十嵐　敦			4	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	金融論入門	2	(非)熊本　尚雄			4	○	○	○	経済経営学類の開放科目
	原価計算Ⅰ	2	伊藤　宏			4	○	○	○	経済経営学類の開放科目
	発達臨床心理学	2	高谷　理恵子			5	○	○	○	人間発達文化学類との共通開講
	環境法	2	(非)内藤　悟			5	○		○	行政政策学類との共通開講 隔年開講
	情報社会論	2	佐々木　康文			5	○	○	○	行政政策学類との共通開講
	経済統計論	2	(非)砂田　洋志			5	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	栄養機能科学	2	千葉　養伍			5	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	生命環境の科学Ⅰ	2	水澤　玲子			5	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	中高年の心理学	2	五十嵐　敦			5	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	認知臨床心理学	2	住吉　チカ			5	○	○	○	人間発達文化学類の開放科目
	地域環境論	2	西﨑　伸子			3	○	○	○	行政政策学類の開放科目
	金融経済論	2	(非)溜川 健一			5	○	○	○	経済経営学類の開放科目
	経営情報分析	2	根建　晶寛			5	○	○	○	経済経営学類の開放科目
	原価計算Ⅱ	2	伊藤　宏			5	○	○	○	経済経営学類の開放科目
	国際経営論	2	(非)渡邉　万里子			5	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	産業組織と規制の経済学	2	佐藤　英司			5	○	○	○	経済経営学類との共通開講

科目区分	授業科目	単位	担当者	必修	選択	履修セメスター	開講予定年度			備　考
							３０	３１	３２	
演習	人間支援システム演習Ⅰ	2		2		6	○	○	○	
	人間支援システム演習Ⅱ	2		2		7	○	○	○	
卒業研究	卒業研究Ⅰ	2		2		7	○	○	○	
	卒業研究Ⅱ	2		2		8	○	○	○	

※文理融合科目で他学類の教員が担当する科目については，年度によって開講期・曜日・時限を変更する場合があります。
また，開放科目も履修登録期間中にLiveCampusから履修登録をしてください。

別表１－１

授　業　科　目	単位	担当者	履修セメスター	
			演習Ⅰ	演習Ⅱ
	2	内海　哲史	6	7
	2	岡沼　信一	6	7
	2	小沢　喜仁	6	7
	2	神長　裕明	6	7
	2	小山　純正	6	7
	2	篠田　伸夫	6	7
	2	高橋　隆行	6	7
	2	高原　円	6	7
	2	田中　明	6	7
	2	筒井　雄二	6	7
	2	永幡　幸司	6	7
	2	中村　勝一	6	7
	2	馬塲　一晴	6	7
	2	藤本　勝成	6	7
	2	二見　亮弘	6	7
	2	増田　正	6	7
	2	三浦　一之	6	7
	2	山口　克彦	6	7
	2	未定	6	7

表３　　専門領域のうちの『産業システム工学専攻』の履修方法の基準

科目区分	授業科目	単位	担当者	必修	選択	履修セメスター	開講予定年度			備　考
							３０	３１	３２	
専攻基礎科目	材料工学概論	2	中村　和正		8	3	○	○	○	
	衛生工学概論	2	浅田　隆志			3	○	○	○	
	経営工学	2	董　彦文			3	○	○	○	
	エコロジカル経済学	2	（非）南部　和香			3	○	○	○	
	化学工学概論	2	佐藤　理夫			4	○	○	○	
	製造技術概論	2	生田　博将			4	○	○	○	
	産業構造論	2	樋口　良之　他			4	○	○	○	
	インキュベーションシステム	2	樋口　良之　他			5	○	○	○	
専攻実践科目	産業システム工学実験	2	筧，浅田，石岡，佐藤，島田，杉森，董	2		4	○	○	○	
	物理学実験	2	岡沼，山口，藤本（勝），馬場，（非）石原		8	3	○	○	○	
	化学実験Ａ	2	猪俣，高安，高貝，佐藤，生田，大山，杉森，浅田，中村(和)，大橋			3	○	○	○	
	化学実験Ｂ	2	猪俣，高安，高貝，佐藤，生田，大山，杉森，浅田，中村(和)，大橋			3	○	○	○	
	統計数値解析実習	2	笠井　博則，中川　和重			4	○	○	○	
	環境分析実験	2	高貝，高安，猪俣，生田，大山，浅田，中村（和），大橋			4	○	○	○	
	エコ生産システム演習	2	生田，浅田，大山，中村（和）			5	○	○	○	
	社会システムモデリング演習	2	中山，笠井，中川			5	○	○	○	
	産業支援工学演習	2	筧　宗徳　他			5	○	○	○	
	生産システム解析演習	2	樋口良之，石川友保，筧宗徳			6	○	○	○	
	海外演習	2	未定			3	○	○	○	
専攻専門科目	機能性材料概論	2	（非）金澤　等		30	3	○	○	○	
	物質変換化学	2	大山　大			4	○	○	○	
	応用物性	2	島田　邦雄			4	○	○	○	
	生物化学工学	2	杉森　大助			4	○	○	○	
	サプライチェーンマネジメント	2	石川　友保			4		○		隔年開講
	意思決定論	2	中山　明			4	○	○	○	
	界面物理化学	2	生田　博将			5	○	○	○	
	応用統計学	2	中川　和重			5	○	○	○	
	応用解析学	2	笠井　博則			5	○	○	○	
	有機・高分子材料学	2	（非）金澤　等			5	○	○	○	
	熱と物質の移動現象論	2	佐藤　理夫			5	○	○	○	
	エネルギーシステム工学	2	島田　邦雄			5	○	○	○	
	生物資源開発	2	杉森　大助			5	○	○	○	
	ロジスティクスシステム	2	石川　友保			5	○	○	○	
	数理計画法	2	中山　明			5	○	○	○	
	生産システム	2	筧　宗徳			5	○	○	○	
	資源循環論	2	浅田　隆志			6	○	○	○	
	材料分析基礎	2	中村　和正			6	○	○	○	
	モデル構築論	2	樋口　良之			6	○	○	○	
	品質管理	2	石川　友保			6	○		○	隔年開講
	知的財産権論	2	石岡　賢			7	○	○	○	
	経営情報システム	2	董　彦文			7	○	○	○	

科目区分	授業科目	単位	担当者	必修	選択	履修セメスター	開講予定年度			備　考
							３０	３１	３２	
専攻専門科目	情報科学概論	2	増田　正		30	3	○	○	○	人間支援システム専攻
	離散数学	2	三浦　一之			3	○	○	○	人間支援システム専攻
	分析化学概論	2	高貝　慶隆			3	○	○	○	環境システムマネジメント専攻
	有機化学概論	2	高安　徹			3	○	○	○	環境システムマネジメント専攻
	アルゴリズムとデータ構造	2	三浦　一之			4	○	○	○	人間支援システム専攻
	データベースシステム	2	中村　勝一			4	○	○	○	人間支援システム専攻
	ソフトウェア設計開発論	2	神長　裕明			4	○	○	○	人間支援システム専攻
	無機化学概論	2	猪俣　慎二			4	○	○	○	環境システムマネジメント専攻
	機器分析	2	高貝　慶隆			4	○	○	○	環境システムマネジメント専攻
	人工知能と知識処理	2	藤本　勝成			6	○	○	○	人間支援システム専攻
	本表に含まれない他専攻専門科目		6単位を上限として認定							
文理融合科目	地域産業政策	2	樋口　良之　他		6	5	○	○	○	産業システム工学専攻
	起業論	2	樋口　良之　他			6	○	○	○	産業システム工学専攻
	循環型産業論	2	（非）南部　和香			6	○	○	○	産業システム工学専攻
	環境文化論	2	後藤　忍			4	○	○	○	環境システムマネジメント専攻
	会計学入門	2	根建　晶寛			3	○	○	○	経済経営学類の開放科目
	モダンエコノミクス入門Ⅱ	2	佐藤　英司			2	○	○	○	経済経営学類の開放科目
	経営学入門Ⅱ	2	岩井　秀樹			2	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	日本経済論	2	末吉　健治			5	○	○	○	経済経営学類の開放科目
	マーケティング論	2	遠藤　明子			4	○	○	○	経済経営学類の開放科目
	商法Ⅱ	2	福島　雄一			6	○	○	○	行政政策学類との共通開講
	経済法	2	(非)長谷河　亜希子			5	○	○	○	行政政策学類の開放科目
	経営戦略論Ⅰ	2	尹　卿烈			4	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	中小企業経営論	2	(非)西川　和明			4	○	○	○	経済経営学類との共通開講
演習	産業システム工学演習Ⅰ	2		2		6	○	○	○	
	産業システム工学演習Ⅱ	2		2		7	○	○	○	
卒業研究	卒業研究Ⅰ	2		2		7	○	○	○	
	卒業研究Ⅱ	2		2		8	○	○	○	

※文理融合科目で他学類の教員が担当する科目については，年度によって開講期・曜日・時限を変更する場合があります。
また，開放科目も履修登録期間中にLiveCampusから履修登録をしてください。

別表１−２

授　業　科　目	単位	担当者	履修セメスター	
			演習Ⅰ	演習Ⅱ
産業システム工学演習	2	浅田　隆志	6	7
	2	生田　博将	6	7
	2	石岡　賢	6	7
	2	石川　友保	6	7
	2	大山　大	6	7
	2	筧　宗徳	6	7
	2	笠井　博則	6	7
	2	佐藤　理夫	6	7
	2	島田　邦雄	6	7
	2	杉森　大助	6	7
	2	董　彦文	6	7
	2	中川　和重	6	7
	2	中村　和正	6	7
	2	中山　明	6	7
	2	樋口　良之	6	7
	2	未定	6	7
	2	未定	6	7
	2	未定	6	7

表４　　専門領域のうちの『環境システムマネジメント専攻』の履修方法の基準

科目区分	授業科目	単位	担当者	必修	選択	履修セメスター	開講予定年度			備　考
							３０	３１	３２	
専攻基礎科目	生態学入門	2	黒沢　高秀	2		3	○	○	○	
	環境計画論	2	後藤　忍	2		3	○	○	○	
	水循環システム概論	2	川越　清樹	2		3	○	○	○	
	水質保全改善学概論	2	兼子　伸吾		2	4	○	○	○	
	流域管理計画概論	2	横尾　善之			4	○	○	○	
専攻実践科目	環境解析演習	2	塘，川越，黒沢，木村，柴崎，高貝	2		3	○	○	○	
	物理学実験	2	岡沼，山口，藤本（勝）,馬場，（非）石原		8	3	○	○	○	
	化学実験Ａ	2	猪俣，高安，高貝，佐藤，生田，大山，杉森，浅田，中村(和)，大橋			3	○	○	○	
	化学実験Ｂ	2	猪俣，高安，高貝，佐藤，生田，大山，杉森，浅田，中村(和)，大橋			3	○	○	○	
	流域水循環システム調査実習	1	川越　清樹			3	○	○	○	
	森林調査法	1	木村　勝彦			3	○	○	○	
	自然環境調査法	1	塘　忠顕			3	○	○	○	
	環境分析実験	2	高貝，高安，猪俣，生田，大山，浅田，中村（和），大橋			4	○	○	○	
	衛星データ解析	2	吉田　龍平			4	○	○	○	
	地球環境科学実験Ａ	2	長橋，柴崎，渡邊			4	○	○	○	
	地球環境科学実験Ｂ	2	長橋，柴崎，渡邊			5	○	○	○	
	環境モデリング演習	2	吉田　龍平			5	○	○	○	
	水質保全改善学実験	2	兼子　伸吾			5	○	○	○	
	保全生物学実験Ａ	2	木村，黒沢，塘			5	○	○	○	
	保全生物学実験Ｂ	2	木村，黒沢，塘			5	○	○	○	
	生物多様性保全実習	1	黒沢　高秀			5	○		○	隔年開講
	地下水盆管理調査法	1	柴崎　直明			5	○	○	○	
	地球環境調査法	1	長橋　良隆，吉田　龍平			5	○	○	○	
	地域環境計画演習	2	後藤　忍			5	○	○	○	
	土壌浄化学実験	2	難波　謙二			5	○	○	○	
	海外演習	2	未定			3	○	○	○	
専攻専門科目	環境モニタリング	2	吉田　龍平		30	3	○	○	○	
	分析化学概論	2	高貝　慶隆			3	○	○	○	
	有機化学概論	2	高安　徹			3	○	○	○	
	地質学概論	2	長橋　良隆			3	○	○	○	
	大気環境科学概論	2	渡邊　明			4	○	未定	未定	
	地域計画概論	2	川崎　興太			3	○	○	○	
	無機化学概論	2	猪俣　慎二			4	○	○	○	
	生態学概論	2	木村　勝彦			4	○	○	○	
	環境保全論	2	塘　忠顕			4	○	○	○	
	地下水盆管理学概論	2	柴崎　直明			4	○	○	○	
	生活環境論	2	川崎　興太			4	○	○	○	
	機器分析	2	高貝　慶隆			4	○	○	○	
	土壌浄化学概論	2	難波　謙二			4	○	○	○	
	環境モデリング	2	吉田　龍平			5	○	○	○	
	環境触媒化学	2	猪俣　慎二			5	○	○	○	
	水循環システム	2	川越　清樹			5	○	○	○	
	森林生態学	2	木村　勝彦			5	○	○	○	
	生物多様性概論	2	黒沢　高秀			5	○	○	○	
	地域計画論	2	川崎　興太			5	○	○	○	
	物質分離化学	2	高安　徹			5	○	○	○	
	化学結合論	2	大橋　弘範			5	○	○	○	

科目区分	授業科目	単位	担当者	必修	選択	履修セメスター	開講予定年度			備考
							３０	３１	３２	
専攻専門科目	流域管理計画論	2	横尾　善之		30	6	○	○	○	
	エコロジカル経済学	2	（非）南部　和香			3	○	○	○	産業工学システム専攻
	循環型産業論	2	南部　和香			6	○	○	○	産業工学システム専攻
	材料工学概論	2	中村　和正			3	○	○	○	産業工学システム専攻
	化学工学概論	2	佐藤　理夫			4	○	○	○	産業工学システム専攻
	物質変換化学	2	大山　大			4	○	○	○	産業工学システム専攻
	界面物理化学	2	生田　博将			5	○	○	○	産業工学システム専攻
	機能性材料概論	2	（非）金澤　等			3	○	○	○	産業工学システム専攻
	熱と物質の移動現象論	2	佐藤　理夫			5	○	○	○	産業工学システム専攻
	生物資源開発	2	杉森　大助			5	○	○	○	産業工学システム専攻
	生物化学工学	2	杉森　大助			4	○	○	○	産業工学システム専攻
	材料分析基礎	2	中村　和正			6	○	○	○	産業工学システム専攻
	有機・高分子材料学	2	（非）金澤　等			5	○	○	○	産業工学システム専攻
	資源循環論	2	浅田　隆志			6	○	○	○	産業工学システム専攻
	材料及び固体の力学	2	小沢　喜仁			4	○	○	○	人間支援システム専攻
	流体力学	2	山口　克彦			5	○		○	人間支援システム専攻隔年開講
	離散数学	2	三浦　一之			3	○	○	○	人間支援システム専攻
	応用統計学	2	中川　和重			5	○	○	○	産業システム工学専攻
	応用解析学	2	笠井　博則			5	○	○	○	産業システム工学専攻
	情報科学概論	2	増田　正			3	○	○	○	人間支援システム専攻
	アルゴリズムとデータ構造	2	三浦　一之			4	○	○	○	人間支援システム専攻
	本表に含まれない他専攻専門科目		6単位を上限として認定							
文理融合科目	地域産業政策	2	樋口　良之　他		6	5	○	○	○	産業システム工学専攻
	環境文化論	2	後藤　忍			4	○	○	○	環境システムマネジメント専攻
	社会調査論	2	今西　一男			3	○	○	○	行政政策学類の開放科目
	法社会学Ⅰ	2	塩谷　弘康			3	○	○	○	行政政策学類の開放科目
	博物館資料論	2	阿部　浩一			3	○		○	行政政策学類の開放科目。隔年開講
	人間関係の心理学	2	(非)風間　文明			3	○	○	○	人間発達文化学類との共通開講
	法社会学Ⅱ	2	塩谷　弘康			4	○	○	○	行政政策学類の開放科目
	博物館経営論	2	(非)伊藤　匡			3		○		行政政策学類の開放科目。隔年開講
	博物館情報・メディア論	2	(非)清水　裕介			3	○		○	行政政策学類の開放科目。隔年開講
	国際関係論	2	吉高神　明			4	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	地域経済論Ⅰ	2	吉田　樹			4	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	情報社会論	2	佐々木　康文			5	○	○	○	行政政策学類との共通開講
	考古学Ⅰ	2	菊地　芳朗			4	○	○	○	行政政策学類の開放科目
	地域環境論	2	西﨑　伸子			3	○	○	○	行政政策学類の開放科目
	社会政策	2	熊澤　透			5	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	考古学Ⅱ	2	菊地　芳朗			5	○	○	○	行政政策学類の開放科目
	環境法	2	(非)内藤　悟			5	○		○	行政政策学類との共通開講　隔年開講
	地域政策論	2	小山　良太			5	○	○	○	経済経営学類との共通開講
	博物館学概論	2	菊地　芳朗			3		○		行政政策学類の開放科目。隔年開講
演習	環境システムマネジメント演習Ⅰ	2		2		6	○	○	○	
	環境システムマネジメント演習Ⅱ	2		2		7	○	○	○	
卒業研究	卒業研究Ⅰ	2		2		7	○	○	○	
	卒業研究Ⅱ	2		2		8	○	○	○	

※文理融合科目で他学類の教員が担当する科目については，年度によって開講期・曜日・時限を変更する場合があります。
また，開放科目も履修登録期間中にLiveCampusから履修登録をしてください。

別表１−３

授　業　科　目	単位	担当者	履修セメスター	
			演習Ⅰ	演習Ⅱ
環境システムマネジメント演習	2	猪俣　慎二	6	7
	2	大橋　弘範	6	7
	2	兼子　伸吾	6	7
	2	川越　清樹	6	7
	2	川崎　興太	6	7
	2	木村　勝彦	6	7
	2	黒沢　高秀	6	7
	2	後藤　忍	6	7
	2	柴﨑　直明	6	7
	2	高貝　慶隆	6	7
	2	高安　徹	6	7
	2	塘　忠顕	6	7
	2	長橋　良隆	6	7
	2	難波　謙二	6	7
	2	横尾　善之	6	7
	2	吉田　龍平	6	7
	2	未定	6	7

【海外演習について】

共生システム理工学類の各専攻では，第３セメスター（２年生前期）に専攻専門科目（選択必修の実践科目）として海外演習を実施します。これは，今までに大学で学んだ専門分野の知識や経験をいかして，実際に海外の大学や研究機関，企業や工場，現場でどのようなことが行われているのかを直接見て体験するとともに，国際的な感覚を身につけることを目標にしています。

専攻ごとに計画するプログラムの他にも，学生と教員が適宜計画して実施する個別プログラムも認定できます。個別プログラムは関係部門の承認が必要ですので，海外演習実施計画委員会，教務課などに相談ください。

海外演習の実施時期は，毎年８～９月に想定されることが多いようです。演習の実施期間は，１～２週間程度です。なお，海外演習に参加するためには，事前に開かれる準備講座に参加しなくてはなりません。また，海外演習に必要な経費（渡航費，宿泊費，食費，保険料など，金額は演習先により異なる，１人あたり１０万～２０万円程度と想定されます）は，参加する学生の個人負担となります。

事前の準備講座は，前期授業期間中に原則として週１回開かれます。準備講座では，海外演習に参加するための具体的な準備を基礎から行うとともに，海外演習に必要な語学力の向上もめざします。それぞれの海外演習には教員も引率者として同行します。事前に準備を入念に行い，海外演習の手引書を活用して，安全管理や健康管理に十分配慮した演習を行うことにしています。

海外演習に参加するためには，最低限の語学力（英語）が必要です。海外演習で実際に海外に行く時までに，TOEIC 試験で 500 点以上の英語力を身につけておく必要があります。海外演習に参加を希望する学生は，なるべく早い機会にこうした語学試験を受けておいてください。

海外演習は，平成３０年度以降も毎年行うことにしています。２年生のときに海外演習に参加できなくても，３，４年生になってから参加することができるように工夫しています。次年度の海外演習については，前年度の１月頃に計画を提示しています。

学生時代に海外に行き，専門分野に関する見聞を広めるとともに国際的な感覚を身につけることは，きっと将来の活躍にも役立ちます。本学類では，やる気のある積極的な学生が海外演習に参加することを期待しています。

※海外演習に参加する場合は，事前に海外演習担当の教員に相談の上、必ず前期の履修登録期間内に履修登録してください。また，履修登録撤回の期間を過ぎてから，履修者の都合で海外演習を取り止めた場合には，原則として，成績評価が不合格となります。十分に注意してください。

４．自由選択領域の履修について

自由選択領域の卒業に必要な単位数は４単位（外国人留学生の場合は８単位）となります。自由選択領域の履修方法の基準は以下のとおりになります。

自由選択領域に計上できるのは，履修基準表の分類欄で「自由」として指定された科目及び「選必・自由」又は「必修・自由」として指定された科目で各科目区分毎の卒業要件単位数を超えて修得した単位になります。その他，自由選択領域に計上することができる授業科目として以下の表１及び表２に示しますので，指定された授業科目及び注意事項を確認して修得する必要があります。

表１：自由選択領域に計上できる科目

領域区分	授 業 科 目	履修基準表の分類	単位数	備　考
共通領域	英語以外の外国語初級	必修・自由	2	※1
専門領域	他専攻の専攻基礎科目	選必・自由	2	※2
	他専攻の専攻専門科目（６単位を超えた場合）	選必・自由	2	※3
	他専攻の文理融合科目	選必・自由	2	※4
（他学類の開放科目）	他学類の開放科目			※5
（英語特修プログラム）	外部資格試験（英語）		4	
	海外語学研修（英語）		2	
	海外留学			
（情報特修プログラム）	情報システムの理解と構成		2	
	情報システムの運用		2	
（放射線対策科学専修プログラム）	放射線科学		2	
教員免許取得のための科目	表２			※6
他大学等との単位互換科目	（特別聴講学生として履修）			※7

（注意事項）

※１　英語以外の外国語初級を２カ国語修得した場合は，２カ国語目の修得単位については自由選択領域に計上されます。

※２　所属する専攻以外の専攻基礎科目は自由選択領域に計上される。

※３　所属する専攻の専攻専門科目に含まれない他専攻の専攻専門科目のうち，６単位を上限として所属する専攻の専攻専門科目に計上できる。６単位を超えて修得した単位については自由選択領域に計上される。

※４　所属する専攻以外の文理融合科目は自由選択領域に計上される。

※５　他学類の開放科目は自由選択領域に計上される。ただし，他学類の開放科目が所属する専攻の専門領域・文理融合科目となる場合は文理融合科目として計上される。

※６　教員免許取得のための科目（教科に関する科目，教職に関する科目）のうち，自由選択領域に計上できる授業科目は表２に記載する。

※７　単位互換協定を締結している他大学で修得した単位。

表２（教員免許取得のための科目）　【３専攻共通】

科目区分	授業科目	単位	担当者	履修セメスター	開講予定年度			備考
					３０	３１	３２	
教科に関する科目	情報と職業	2	(非)林　良雄	5	○	○	○	
	木材加工学概論及び実習	2	(非)河合　康則	3	○		○	隔年開講
	栽培学概論及び実習	2	(非)金澤　俊成	1		○		隔年開講
	職業指導	2	(非)河合　康則	4	○		○	隔年開講
	生命環境の科学Ⅰ	2	水澤　玲子	5	○	○	○	★
	生命環境の科学Ⅱ	2	水澤　玲子	6		○		★隔年開講
	地球惑星の科学Ⅰ	2	平中　宏典	4	○	○	○	★
	地球惑星の科学Ⅱ	2	平中　宏典	5	○	○	○	★
教職に関する科目	教職入門	2	岡田　努	3	○	○	○	
	人間と教育	2	太田　光一	3	○	○	○	
	教育発達心理学	2	未定	3	○		○	隔年開講
	教育と社会	2	岡田　努	5	○	○	○	
	教育の方法	2	住吉　チカ	3	○	○	○	
	理科教育法	2	大橋　弘範	4	○	○	○	
	理科教育学Ⅰ	2	黒沢　高秀	5	○	○	○	
	理科教育学Ⅱ	2	平中　宏典	6	○	○	○	
	理科授業研究	2	山口克彦，岡田　努	4	○	○	○	
	技術科教育法	2	(非)河合　康則	3		○		隔年開講
	技術科教育学Ⅰ	2	岡田　努	3	○		○	隔年開講
	技術科教育学Ⅱ	2	小沢喜仁　他	4	○		○	隔年開講
	技術科授業研究	2	小沢，岡沼，神長，篠田	3		○		隔年開講
	工業科教育法	2	(非)河合　康則	3	○		○	隔年開講
	工業科授業研究	2	小沢，岡沼，神長，篠田	3	○		○	隔年開講
	情報教育学	2	(非)栗田るみ子	5	○	○	○	
	情報授業研究	2	(非)栗田るみ子	5	○	○	○	
	道徳指導論	2	松下　行則	6	○	○	○	
	特別活動	2	岡田　努	5	○	○	○	
	子ども理解と指導援助	2	青木　真理	6	○	○	○	
	学校カウンセリング論	2	岸　竜馬	5	○	○	○	
	生活指導論	2	(非)伊藤　弥	5	○	○	○	
	教職実践演習	2	岡田　努　他	8	○	○	○	
	事前及び事後指導	1		7，8	○	○	○	
	教育実習	2又は4		7，8	○	○	○	
	所属専攻以外の専攻実践科目	1又は2		3～	○	○	○	

※注　★印の科目は，開放科目です。

Ⅶ 他学類の専門領域科目の履修について

１．開放科目

他学類で開設されている専門領域科目のうち，本学類学生が履修することができる科目のことを「開放科目」と呼びます。ただし受講に際しては，以下の注意が必要です。

〇すべての科目が開放科目に該当するわけではありません。事前に学習案内巻末の「開放科目一覧」を調べ，受講したい科目が開放科目かどうかを確認してください。

〇開放科目を受講するには「LiveCampus」からの履修登録が必要です。履修登録期間に手続きをしてください。

〇初回の授業において，受講者多数などの理由で授業運営が困難と判断された場合，受講制限をすることがあります。その場合は，当該科目を開講している学類に所属する学生が優先されます。

〇開放科目の履修上限は，他大学等との単位互換科目等の単位を含めて６０単位までとなります。

２．共通開講科目

他学類の教員が担当する専門領域科目を，本学類が専門領域科目として履修基準に位置づけている場合，その科目を「共通開講科目」と呼びます。共通開講科目は複数の学類で共通に開講している科目ですので，当該学類の学生が受講対象となります。クラスの適正規模を保つために，科目によっては受講制限をすることがあります。

３．現代教養コース開講科目

本学には，人文社会学群の「夜間主コース」として設置された「現代教養コース」があります。このコースには人文社会学群の３つの学類（人間発達文化学類，行政政策学類，経済経営学類）の夜間主コースの学生が所属しており，共生システム理工学類所属の学生はおりません。開講される科目には，共生システム理工学類の教員が担当しているものもありますが，共生システム理工学類の学生は受講できないことになっています。

Ⅷ　履修に関する基本的事項

１．授業時間及びセメスター

（1）授業時間

授業は通常週１回分が９０分単位で行われ，これを１コマ（時限）の授業と呼んでいます。大学の単位の計算基準は「大学設置基準」に定めがあり，講義や演習は１５～３０時間で１単位，実験や実習は３０～４５時間で１単位としています。本学では，講義科目の場合，１コマの授業を「２時間」として計算し，半期１５週では総授業時間数は３０時間（＝２単位）となります。毎回の授業には当然，予習・復習・レポート作成等，授業時間外での学習時間が必要であり，このことも含んだ上での単位計算であることを十分理解してください。

なお，夏季休業期間等の一定期間に集中講義として授業を開講する場合もあります。日程は決定次第，掲示により周知するので注意してください。

（2）セメスター

セメスター制は，学期ごとに授業を完結する制度（学期ごとに履修登録し成績交付を受ける制度）です。在学しなければならない４年間の各年を２つの学期（４～９月を前期，１０～３月を後期）に分け，各期を「セメスター」といいます。（４年間で計８セメスターとなります。）１年次前期は第１セメスター，同後期は第２セメスターとなり順次進行していくことになります。

２．履修科目の登録手続きについて

（1）授業を履修するには，必ず履修登録をしなければなりません。
履修登録は，インターネットに接続された学内外のパソコンから LiveCampus に接続して行います。詳しくは，LiveCampus 上にあるマニュアルまたは履修登録の期間に教務課，総合情報処理センター等に置くマニュアルを参照してください。

※携帯電話からの履修登録はできませんので注意してください。

※ＩＤ，パスワードを忘れた場合は，総合情報処理センターに問い合わせてください。なお，電話での問合せには応じられません。

（2）定められた期間内に履修登録をしなかった授業科目については，いかなる理由があっても受講することは認められませんので注意してください。

（3）授業科目の中には受講者の人数を制限する科目もありますので，その場合はあらかじめ所定の手続きをとって履修許可を得た上で履修登録を行ってください。**履修許可を得ずに履修登録を行っても当該科目は無効となります。**

（4）特定の授業科目を履修した後でなければ受講できない等の制限が設けられていることもありますので，学習案内，時間割表等で十分確認の上，履修登録するようにしてください。

（5）セメスターの履修可能な単位数には上限がありますので，注意してください。
詳しくは，「履修登録の上限（Ｃａｐ制度）について」（P.５６）を参照してください。

（6）次の場合は履修が認められないので，履修登録の際には注意してください。

① 二重履修・・・同一時限に同時に開講する２つ以上の授業科目を受講すること。
特に集中講義の日程・時限が重ならないように注意してください。

② 同時履修・・・同一の授業科目を同一の学期に複数受講すること。

③ 再修得できない科目の履修・・・「再修得」とは，D評価の単位を取得した授業科目と同一の授業を再び受講して成績（グレードポイント）を上げることができる制度です。再修得できない科目もありますので注意してください。詳しくは「再修得制度について」（P.５７）を参照してください。

（7）履修登録及び確認期間

① 平成３０年度の**履修登録期間**は，「教務関係日程表」または LiveCampus を参照し，LiveCampus 上から必ず履修登録を行ってください。

② 履修登録が終わったら，**入力状況の確認**を行ってください。
科目の追加・修正・削除については，**履修登録修正期間内に行ってください。期間外は，一切認められないので注意してください。**

いずれも詳細は掲示板およびLiveCampus 上にて周知します。

３．試験及び成績（ＧＰＡ制度）について

（1）単位の認定について

履修科目の単位は，試験等により所定の水準に達したと判断されたときに認定されます。成績の評価は，試験，レポートによることが多いですが，出席状況及び学習発表など日常の学習活動が加味されることもあります。

（2）試験について

試験には，試験規則に則り行われる**正規試験**と，担当教員の判断で随時行われる**平常試験**とがあります。正規試験は，教務関係日程表に記載されている期間に実施されます。正規試験の時間割は，試験期間開始の１週間前に発表されますが，通常の授業の曜日・時間帯・教室等と異なる場合が多いので十分注意してください。また，発表後に教室や実施日が変更になる場合もありますので，試験中の掲示は特に注意してください。

正規試験を受験する際の諸注意事項は，「学生受験心得」（P．９２参照）に定められていますので，受験の前に熟読しておいてください。また，「福島大学試験規則」（P．８９参照）も同様に熟読してください。さらに，以下の事項にも留意してください。

① 病気その他やむを得ない事情により正規試験を受験できなかった場合は，追試験を認めることがあります。病気の場合は医師の診断書，交通機関の遅延の場合は遅延証明書が必要となります。

② 不正行為（カンニング等）を行った場合，当該科目だけでなく，そのセメスターの全ての履修登録が取り消しになるほか，学則に基づき懲戒処分を受けることになります。

③ 学生証を携帯しなければ正規試験を受験することはできません。

（3）レポートについて

レポートを提出する場合は，以下の事項に留意してください。

① 締切り後の提出は認められませんので，提出期限を確認の上，余裕をもって作成してください。提出時間は窓口対応時間内とします。

② レポートは必ずパソコン等で作成又はペン書きし，ステープラー等で綴じて提出してください。レポートの記載事項及び提出方法については，担当教員の指示に従ってください。

（4）成績（ＧＰＡ制度）について

本学における成績は，５段階の評価（A，B，C，D及びF）に基づいて行われます。この５段階の評価には，それぞれグレードポイント（ＧＰ）が与えられます。（下の表を参照してください。）「望ましい水準」に達していれば，C以上の評価が与えられます。

	評価	基　　準	ＧＰ
合　　格	A	きわめて優秀	4
	B	優秀	3
	C	望ましい水準に達している	2
	D	望ましい水準に達していないが，不合格ではない	1
不　合　格	F	不合格	0

ＧＰＡとは，下の式で計算される１単位あたりのＧＰの平均値のことです。みなさんの「学習の質」を表す指標と言っても良いでしょう。ＧＰ及びその平均値であるＧＰＡが，履修指導や専攻所属，研究室配属の決定の際などに利用されます。

$$\text{ＧＰＡ（Grade Point Average）} = \frac{\text{（取得した各科目の単位数×Grade Point）の総和}}{\text{履修登録した科目の総単位数}}$$

単位数の取得のみにこだわって多くの科目の履修登録を行っても，それぞれの学習が不十分なためにDやFの評価が多くなると，ＧＰＡは下がります。次に説明するＣａｐ制度とは，このようなことを防ぐために設けられた制度です。また，履修登録撤回制度及び未完了の手続きは，ＧＰＡが下がることを防ぐために設けられた仕組みです。

成績の評価がC（望ましい水準）を達成するための具体的要件は，シラバスにおいて明示されます。なお，本学の責任ですべてを評価できない科目については，ＧＰによる評価は行いません。また，ＧＰＡ対象外科目は学類ごとに異なります。共生システム理工学類では，以下の表の科目をＧＰＡ計算対象外とします。

【ＧＰＡ計算対象外科目】

・教職に関する科目（Ｐ．７５の表１の科目。）
・自己学習プログラム
・インターンシップ
・他大学との単位互換，外部検定試験や海外語学研修など，本学以外での学習を単位認定する科目

４．成績発表・不服申立について

成績は、LiveCampus で確認します。各セメスターの成績発表日以降に当該セメスター分が追加されますので各自必ず確認してください。なお、紙での交付は行っていませんので留意してください。成績の確認は，メンテナンス期間を除き随時可能です。

成績評価について不服がある場合には，セメスターごとの所定の期間内に申立をすることができます。不服申立は，LiveCampus により行います。申請方法等詳細は，掲示によりお知らせします。

この「不服申立」に対しては当該授業科目の担当教員が個別に対応します。ただし，非常勤講師担当の授業科目にかかわる「不服申立」については教務担当窓口で対応します。

成績に対する不服は，単に自分が期待した評価が得られなかったというだけでは，申立ることはできません。「不服申立」にあたっては，シラバスの成績評価基準による自己採点と得られた成績評価との間に明らかにギャップがあるなど，不服申立を行うに足る合理的な根拠を明確に説明することが必要です。要件を満たさない申立は不許可となります。

５．履修登録の上限（Ｃａｐ制度）について

本学では，単位取得に必要な予習・復習の時間を確保するため，各セメスターの履修可能な単位数に上限を設定しています。これを「Ｃａｐ（キャップ）制度」といいます。

共生システム理工学類のＣａｐ制度については以下のとおりです。

① すべてのセメスターにおいて，３０単位を上限とします。
② Ｃａｐに該当しない科目：（ａ）集中講義科目
（ｂ）教職に関する科目（Ｐ．７５の表１の科目）
（ｃ）自己学習プログラム
（ｄ）インターンシップ
（ｅ）他大学との単位互換，外部検定試験や海外語学研修など，本学外での学習を単位認定する科目

６．履修登録撤回制度について

履修登録期間内に履修登録をした科目について，授業内容が予想していたものと違っていた，又は授業についていけない，などを理由にして，下記の期間内にその科目の履修登録を取り消すことができる制度を「履修登録撤回制度」といいます。

３０年度履修登録撤回期間：前期 ５月１０日～１１日　　後期 １１月８日～９日

※集中講義については，集中講義開始日の翌日までとする。ただし実習関係の集中講義については，６月３０日までを撤回期日とします。

実習関係集中講義：自然環境調査法，森林調査法，生物多様性保全実習，流域水循環システム調査実習，地下水盆管理調査法，地球環境調査法，栽培学概論及び実習

ただし，以下の科目については，履修登録撤回はできません。また，履修登録撤回をした科目でも次のセメスター以降であれば履修登録をすることができます。

【履修登録撤回できない科目】

必修科目は履修登録撤回できません。具体的には以下の科目です。

〈自己デザイン領域〉教養演習Ⅰ，教養演習Ⅱ，キャリア形成論
〈共通領域〉英語A，英語B，英語以外の外国語初級，英語以外の外国語中級，
健康・運動科学実習，受講調整実施科目
〈専門領域〉学群共通科目：共生の科学
学類基礎科目：物理学Ⅰ（力学），化学Ⅰ（基礎化学），基礎実験
専攻基礎科目：〔環境システムマネジメント専攻〕
生態学入門，環境計画論，水循環システム概論
専攻実践科目：〔人間支援システム専攻〕　創造工房ゼミ
〔産業システム工学専攻〕　産業システム工学実験
〔環境システムマネジメント専攻〕　環境解析演習
演習Ⅰ，演習Ⅱ，卒業研究Ⅰ，卒業研究Ⅱ

7．未完了について

「未完了」とは，履修登録撤回の手続き期間経過後から授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに，病気や事故等やむを得ない個人的な事情で，履修登録した科目の受講を継続することが困難になった場合等を理由として申請をした者に認められる制度です。申請が認められた時点で，成績通知表には「Ⅰ」の記号が付され，再履修しない限り「Ⅰ」のまま残ります。なお，未完了「Ⅰ」はＧＰＡの計算対象にはなりません。

8．再修得制度について

「再修得制度」とは，D評価の単位取得後に同科目を再度受講して成績（グレードポイント）を上げることができる制度で，この制度でC評価以上を取得した場合に成績が上書きされます。なお，受講調整が実施される場合は，再修得の学生（D評価を受けた者）が最初に調整対象となります。

ただし，以下の科目については，再修得はできません。

【再修得できない科目】

① D評価以外の評価を受けた科目
② 外国語科目（英語以外の外国語初級を除く），スポーツ実習
③ インターンシップ，自己学習プログラム
④ 留学生向けの「日本語Ⅰ～Ⅳ」，「日本事情Ⅰ～Ⅳ」

なお，「再修得制度」とは別に，不合格（F評価）の科目について再挑戦（再び履修）することにより成績認定を求めることを「**再履修**」といい，これによりD評価以上を取得した場合に成績が上書きされることになります。

９．シラバスについて

「シラバス（syllabus)」とは，「授業計画」のことで，授業名，担当教員名，講義目的，各回の授業内容，成績評価の基準や方法，予習・復習についての指示，教科書・参考書，履修条件などが記載されています。学生のみなさんは，履修計画の参考に使うほか，授業期間全体を通じた授業の進め方を確認し，各回の授業に求められる予習・復習の参考にすることができます。

履修計画を立てる際には，まず年度始めのガイダンス，学習案内によりその年度にどの科目を受講すべきか，受講可能であるかを確認します。学習案内の科目一覧には，授業の詳細な内容までは記されていませんので，シラバスを参照して履修計画を立てて行くことになります。受講時には，授業全体に対する現在の授業の位置づけを確認したり，予習・復習のためのアドバイス，参考書などが勉強の参考になりますので，どんどん活用してください。

（1）ライブキャンパスのシラバス

本学では，学生の履修登録システムとして LiveCampus を導入していますが，履修登録時や授業履修時に参考になるように，各授業のシラバスもこのシステムから閲覧できるようになっています。 LiveCampus にログインし，シラバス照会や授業時間割照会の項目から履修したい授業科目を検索して，その科目のシラバスを参照してください。

なお， LiveCampus は学内だけでなく，自宅やアパート等学外からも利用できます。

（2）詳細シラバス

教員によっては，授業の最初の時間に詳細なシラバスを配布する場合があります。また，授業時の資料配布やシラバスの補足などを教員のホームページ等で行っていることもありますので，授業時での教員のアナウンスを参考にしてください。

１０．オフィス・アワーについて

「オフィス・アワー」とは，教員が各研究室等において，学生からの履修相談や授業に関する質問等に応じるため，あらかじめ設定されている時間帯のことです。各教員は，毎週特定の時間帯をオフィス・アワーとして設定し研究室を開放しています。この時間に学生の皆さんは，教員の研究室を訪れ，いろいろな質問や相談をすることができますので，関連教員のオフィス・アワーを十分活用してください。特に不在であることが通知されていない限り，予告なく訪問しても構いません。オフィス・アワー以外の時間帯には学生は教員に会えないというわけではありませんが，他の予定等が入っていることもありますので，事前にアポイントメントを取ってください。質問や相談の内容によっては，より適切な指導をしてくれる方や，専門的な相談に乗ってくれる方を紹介されることもあります。なお，学生生活一般の相談については，グループ・アドバイザーのオフィス・アワーを利用してください。（各教員オフィス・アワーの時間・場所等については， LiveCampus のシラバスで調べることができます。）

１１．履修に関する注意事項

（1）学期当初の所定の期間内に「履修登録」に関わる一連の手続きを怠った場合には，当該学期における履修を認めません。

（2）指定された履修年次で単位を修得しないと，それ以降の学年での履修に支障を来たすことがあります。

（3）出席不良の者には，試験の受験を認めないことがあります。

（4）講義等の録画・録音は，原則として認められません。

Ⅸ　特修プログラム「ふくしま未来学」

東日本大震災及び原子力災害の経験を踏まえ，地域課題を実践的に学習し，未来を創造する能力を高めるための特修プログラム「ふくしま未来学」が履修できます。

１．特修プログラム「ふくしま未来学」

（1）プログラムの概要

東日本大震災及び原子力災害により、放射線被ばく問題と共に、これまで地域社会が抱えていた人口流出や文化・産業の衰退等の課題が加速度的に現れ、今後、地域がどう再生していくかは、世界につながる課題となっています。その中で、地域再生の担い手をどう育成していくかが大学に課された使命です。

本プログラムは、原子力災害からの経験を踏まえ、地域課題を実践的に学び、未来を創造できる人材の輩出を行い、原子力災害からの地域再生をめざします。そのために特修プログラム「ふくしま未来学」を展開します。そのひとつとして、主要コア科目である、福島県双葉郡をはじめとする地域と連携し、学生と地域住民が交流する地域実践学習「むらの大学」をとおして、地域復興の担い手育成と地域再生の双方を加速させます。

※　今後、「ふくしま未来学」科目等の変更が行われる可能性がありますので、適宜掲示等で確認するようにしてください。

（2）「ふくしま未来学」の特徴

- ▸▸　１年次から４年次まで複数年にわたり、継続的に地域（コミュニティ）に関わることにより、その地域が抱える社会的課題を理解すると共に、地域住民が実践的に取り組む地域づくりに参画することができます。
- ▸▸　継続的な関わりを通して地域の変化や発展を追うことができ、学生自らの学習・成長と地域の発展を結びつけることができます。
- ▸▸　東日本大震災と原発事故の経験を踏まえ、「ふくしま」の持つ歴史的でグローバルな文脈を理解し、さらに具体的な地域的課題を分析し、かつ課題解決のミッションを発見することをめざします。

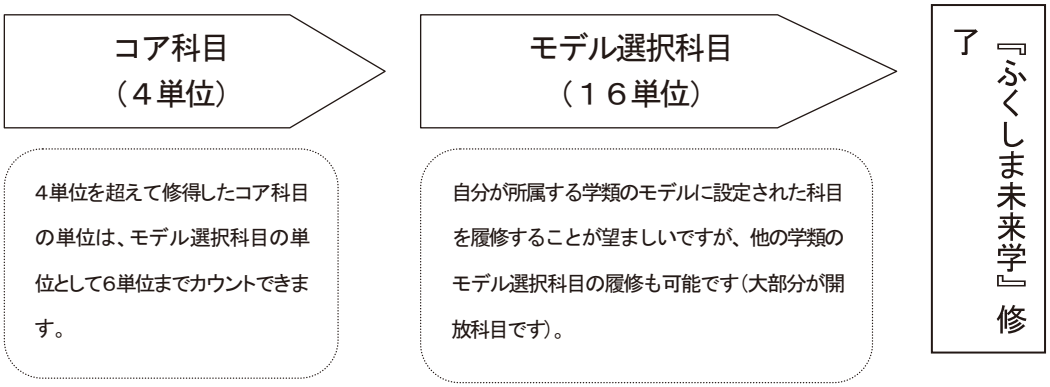
【ふくしま未来学で養う力】

「ふくしま」における原子力災害からの経験と、地域課題の実践的な学習を通じて、以下の能力をやしなうことをめざします。能力を身につけた者には、「ふくしま未来学」の修了証を交付します。

- ▸　地域課題を発見する力‥‥‥　地域にあらわれる多様な課題を発見する力
- ▸　地域を分析する力‥‥‥‥‥　科学的にかつ総合的に地域課題を理解する力
- ▸　地域を興す力‥‥‥‥‥‥‥　地域課題のミッションを明らかにし、自ら主体的に解決するために行動する力
- ▸　地域をつなげる力‥‥‥‥‥　地域課題を解決するために、多様なセクターと協働する力
- ▸　地域を伝える力‥‥‥‥‥‥　地域課題の社会的解決に向けて、現状や地域の主体的な取り組みを外部に発信する力

（3）履修基準

本プログラムは、平成２６年度以降に入学する全学類生を対象とし、入学時にプログラム受講者として、自動的に登録されます。別表に示された必要な単位（コア科目４単位＋モデル選択科目１６単位＝合計２０単位以上）を修得することにより、「特修プログラム『ふくしま未来学』修了」の認定を受けることができます。就職活動等、卒業前に本プログラム修了の証が必要な場合は、「修了見込証明書」及び「修了証明書」を交付しますので、希望者はふくしま未来学推進室事務局（教務課内）窓口に申請してください。



（4）モデル選択科目のカリキュラムポリシー（ＣＰ）

本プログラムのモデル選択科目では、以下のとおり、４つの履修モデルが設定されています。履修方法を考える上で、参考にしてください。

Ⅰ：「教育と文化による地域支援モデル」人間発達文化学類系科目
　ＣＰ：人間や文化に主体的にかかわり、地域課題を解決し、新たな文化を創造することができる。また、地域が求める人材育成に寄与することができる。

Ⅱ：「コミュニティ共創モデル」行政政策学類系科目
　ＣＰ：災害前から地域社会が抱えていた人口減少、少子高齢化、過疎・中山間地域など、社会構造の変化を具体的な地域において理解し、分析することができる。
　さまざまな地域課題を、多様なセクターの協働によって、主体的に解決する能力を身につけることができる。

Ⅲ：「地域経済活性化モデル」経済経営学類系科目
　ＣＰ：地域の復興と活性化に関する課題を解決する為の様々な知見や方法を経済と経営の分野から学び、それらを自ら活用して課題解決を図るとともに、地域と自治体の資源を活用する力を身につける。

Ⅳ：地域産業・地域環境支援モデル」共生システム理工学類系科目
　ＣＰ：地域社会が直面している産業分野における諸問題や、環境科学分野における諸問題を科学的に理解し、分析することができる．今後の地域の発展に対しての課題を見つけるとともに、解決するための力を身につける。

【「ふくしま未来学」授業科目一覧表】全体で 20 単位以上取得

科目区分		授業科目名	履修年次	単位数
<選択必修> 4単位修得 コア科目	自己デザイン領域	キャリアモデル学習	2～	2
	共通領域	(総)ふくしま未来学入門	1～	2
		(総)ふくしま　未来へのヒント	1～	2
		(総)NPO論	1～	2
		(総)災害復興支援学Ⅱ	1～	2
		(総)ボランティア論	1～	2
		(総)再生可能エネルギー	1～	2
		(総)むらの大学	1～	2
		(総)小さな自治体論	1～	2
		(総)グローバル災害論	1～	2
		地域論Ⅰ	1～	2
	専門領域 (人文社会学群科目)	現代社会へのアプローチ	1～	2
<選択> 16単位修得 モデル選択科目	(人間発達文化学類系科目) 教育と文化による地域支援モデル	未来創造教育論	1～	2
		復興教材づくり論	2～	2
		特別支援教育と学校防災	1～	2
		科学技術と環境の倫理学	1～	2
		自然災害と人間	2～	2
		気候環境と人間	2～	2
		都市とまちづくりの地理学	2～	2
		産業と経済、地域振興の地理学	2～	2
		食糧生産と国土保全の地理学	2～	2
		地域文化の総合研究	2～	2
		現代社会とコミュニティ	1～	2
		現代社会と地域計画＊	1～	2
		現代の地域経済	1～	2
		食と健康	1～	2
		住環境学	3～	2
		現代アートマネジメント	2～	2
		生涯スポーツ論＊	1～	2
		スポーツ政策論＊	3～	2
		スポーツ企画演習＊	3～	2
		映像メディア論	2～	2
		復興教育学	1～	2
		自然体験実習	1～	2
		地域教育実践Ⅰ＊	2～	2
		地域教育実践Ⅱ＊	2～	2
		学校教育支援実習Ⅰ＊	2～	2
		学校教育支援実習Ⅱ＊	2～	2
	(行政政策学類系科目) コミュニティ共創モデル	環境法	3～	2
		憲法(人権)Ⅰ	2～	2
		憲法(統治)Ⅰ	2～	2
		民法総則	1,2	2
		民法(不法行為)	1,2	2
		民法(債権総論)	2～	2
		民法(債権各論)	2～	2
		刑法Ⅰ	2～	2
		刑法Ⅱ	3～	2
		行政法総論Ⅰ	2～	2
		法社会学Ⅰ	2～	2
		法社会学Ⅱ	2～	2
		民事裁判法Ⅰ	3～	2
		民事裁判法Ⅱ	3～	2
		刑事裁判法Ⅰ	3～	2
		刑事裁判法Ⅱ	3～	2
		行政学Ⅰ	2～	2
		行政学Ⅱ	2～	2
		現代政治論Ⅰ＊	1～	2
		現代政治論Ⅱ＊	1～	2
		地方政治論Ⅱ	3～	2
		地方行政論	2～	2
		社会福祉論	2～	2
		地域福祉論	3～	2
		社会計画論	2～	2
		地域環境論	2～	2
		情報社会論	3～	2
		生活構造論Ⅰ	3～	2
		生活構造論Ⅱ	3～	2
		社会調査論	2～	2

科目区分		授業科目名	履修年次	単位数
<選択> 16単位修得 モデル選択科目	(行政政策学類系科目) コミュニティ共創モデル	社会構造論Ⅰ	2～	2
		地域社会学	2～	2
		比較地域文化論Ⅰ	2～	2
		地域史Ⅰ	3～	2
		地域史Ⅱ	3～	2
		国際文化交流論	3～	2
		社会福祉課題研究Ⅰ＊	3～	2
		社会福祉課題研究Ⅱ＊	3～	2
		古文書学実習＊	3～	2
		考古学実習＊	3～	2
		演習Ⅰ＊	3～	2
		演習Ⅱ＊	3～	2
		演習Ⅲ＊	4～	2
		演習Ⅳ＊	4～	2
	(経済経営学類系科目) 地域経済活性化モデル	都市経済学	3～	2
		環境経済学	3～	2
		産業組織と規制の経済学	3～	2
		政治経済学入門Ⅱ	1～	2
		開発経済学	3～	2
		労働経済	3～	2
		農業経済論	3～	2
		地域経済論Ⅰ	2～	2
		地域経済論Ⅱ	3～	2
		地域交通まちづくり政策論	3～	2
		地方財政システム論	3～	2
		地方財政政策論	3～	2
		地域政策論	3～	2
		中小企業経営論	2～	2
		証券市場論	3～	2
		財務諸表論Ⅱ	3～	2
		特別演習　Fukushima Workshop(Japan Study ProgramⅢ)	1,2	2
		専門演習＊	2～	2
	(共生システム理工学類系科目) 地域産業・地域環境支援モデル	環境計画論	2～	2
		地域計画概論	2～	2
		地域計画論	3～	2
		生活環境論	2～	2
		水循環システム概論	2～	2
		水循環システム	3～	2
		流域水循環システム調査実習＊	2～	1
		産業構造論	2～	2
		地域産業政策	3～	2
		機能性材料概論	2～	2
		有機・高分子材料学	3～	2
		知的財産権論	4～	2

(注意)

1．平成２６年度以降の入学生から、適用します。
2．平成２６年度以降の入学生が、入学後に単位修得した科目が、後日、本プログラムの科目に設定された場合、遡及して本プログラムの単位として認定します。
3．科目によっては、抽選登録を要する科目、受講調整が行われる科目等があるので注意してください。
4．＊印のついた科目は、各学類系における所属学類の学生のみ受講できます。
5．対象科目の中には、毎年開講しない科目（隔年開講科目等）もあります。開講の有無は、各学類の学習案内や時間割表で確認してください。
6．対象科目は、変更する可能性があります。変更になった場合は、科目一覧を当該年度にライブキャンパス等をつうじて、掲載・配布をします。
7．コア科目「キャリアモデル学習」は、行政政策学類を除く、人間発達文化学類・経済経営学類・共生システム理工学類の学生のみ本プログラムの単位として認定します。なお、人間発達文化学類はキャリアモデル学習Ｂのみ対象です。詳しくは、ふくしま未来学推進室事務局（教務課内）窓口にお問い合わせください。
8．モデル選択科目の中には、Ⅰ・Ⅱの両方を履修することで要卒に必要な単位が認定される科目もあるため、各学類の学習案内を確認してください。
9．演習Ⅰ～Ⅳ(行政)及び専門演習(経済)は、すべてがふくしま未来学の対象ではありません。担当教員は、学習案内の専門演習のページを参照してください。ただし、経済経営学類における、ふくしま未来学に対応する専門演習担当教員は、小山　良太、遠藤　明子、吉田　樹となり、セメスターごとにふくしま未来学の単位として計上します。

Ｘ　グレードアップ特修プログラム

グレードアップ特修プログラムでは，情報や情報機器についての理解を深め、その能力を教育の分野に活かすための「情報特修プログラム」及び英語コミュニケーション能力を高めるための「英語特修プログラム」が履修できます。

１．情報特修プログラム

（１）情報特修プログラム（情報活用能力コース）

一般的な職業人として備えるべき情報処理技術を身につけたい学生のために，主に（独）情報処理推進機構が実施する「ITパスポート」資格レベルの情報技術を学ぶことを目的とした情報特修プログラムです。

下記の履修基準表に示された必要な単位を修得することにより，「情報特修プログラム・情報活用能力コース修了」の認定を受けることができます。必要な単位をすべて修得した学生は，その時点で教務課に申告してください。

情報特修プログラム（情報活用能力コース）修了者が，（独）情報処理推進機構が実施する情報処理技術者試験を受験し，合格した場合は，１つの資格に限り大学がその１回分の受験費用を負担します。ただし，大学入学前に資格を取得している場合は除きます。大学を卒業する年度の11月15日～30日（土・日及び祝日を除く）の間に，資格取得を証明する書類（検定合格証書など）、受験料の領収書をプログラム認定証に添えて教務課に申請してください。なお，申請者多数の場合には，プログラムに盛り込まれた科目の通算ＧＰＡによる選考を行います。

科目区分	授　業　科　目　名	単位数	履修セメスター	履修方法
共通領域科目	情報処理Ⅰ	2	1	１科目以上
	情報処理Ⅱ	2	2	
	情報処理Ⅲ	2	2	
	情報処理Ⅳ	2	2	
	情報化と社会	2	2	
専門領域科目	プログラミング基礎	2	2	必修
	情報社会と情報倫理	2	3	必修
	情報科学概論	2	3	必修
	計算機システム論	2	3	必修
	経営工学	2	3	
	ロジスティクスシステム	2	5	
	知的財産権論	2	7	
自由選択領域科目	情報システムの理解と構成	2	4	
	情報システムの運用	2	4	
教科に関する科目	情報と職業	2	5	
		合計　２２　単位以上		

（２）情報特修プログラム（情報コア技術コース）

情報科学・工学全般に関する基礎的な知識・技能を持ち，情報技術を活用できる人材を育成することを目的とした情報特修プログラムです。

このプログラムは，（独）情報処理推進機構が実施する「基本／応用情報技術者」資格レベルの，情報科学・工学分野での専門領域科目について，単位取得を課しています。プログラムへの事前の登録は必要ありません。

下記の履修基準表に示された必要な単位を修得することにより，「情報特修プログラム・情報コア技術コース修了」の認定を受けることができます。必要な単位をすべて修得した学生は，その時点で教務課に申告してください。

情報特修プログラム（情報コア技術コース）修了者が，（独）情報処理推進機構が実施する情報処理技術者試験を受験し，合格した場合は，１つの資格に限り大学がその１回分の受験費用を負担します。ただし，大学入学前に資格を取得している場合は除きます。大学を卒業する年度の11月15日～30日（土・日及び祝日を除く）の間に，資格取得を証明する書類（検定合格証書など）、受験料の領収書をプログラム認定証に添えて教務課に申請してください。なお，申請者多数の場合には，プログラムに盛り込まれた科目の通算ＧＰＡによる選考を行います。

履修にあたって十分な予備知識が必要な科目も含まれています。シラバス等で確認して受講してください。

科目区分	授業科目名	単位数	履修セメスター	履修方法
専門領域科目	情報科学概論	2	3	必修
	計算機システム論	2	3	必修
	プログラミングⅠ	1	3	必修
	プログラミングⅡ	1	4	必修
	アルゴリズムとデータ構造	2	4	必修
	ソフトウェア設計開発論	2	4	必修
	データベースシステム	2	4	必修
	ネットワークシステム	2	5	必修
	マルチメディアシステム論	2	5	必修
	情報社会と情報倫理	2	3	必修
	プログラミング基礎	2	2	
	離散数学	2	3	
	デジタル信号処理	2	3	
	プログラミング言語論	2	4	
	形式言語とコンパイラ	2	5	
	人工知能と知識処理	2	6	
	情報理論	2	6	
	サウンドスケープ	2	5	
	ヒューマンインターフェイス	2	5	
	知的財産権論	2	7	
教科に関する科目	情報と職業	2	5	
		合計　３０　単位以上		

2．英語特修プログラム

本学における英語教育は，主に共通領域の中で行われますが，共生システム理工学類ではそれとは別に，英語の学力や学習意欲の高い学生のニーズに対応するために，共通領域の英語に関する科目，英語に関連する専門領域の科目に，海外留学で取得した単位や英語に関する外部資格試験，又は海外での語学研修などを単位認定したものを加えた「英語特修プログラム」が準備されています。

このプログラムは共生システム理工学類の学生であれば誰でもチャレンジできます。卒業要件に定められた単位の他に，下記の履修基準表に示された必要な単位を修得することにより，「英語特修プログラム修了」の認定を受けることができます。必要な単位をすべて修得した学生は，その時点で教務課に申告してください。

※　英語に関する外部資格試験の認定基準は，「英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」の別表のとおりです。なお，本学に入学する前に英語に関する外部資格試験を受けた場合は，別表の認定基準を満たしている場合でも単位認定されませんので，再度受験して認定基準を満たす必要があります。**（「実用英語技能検定」及び「国際連合公用語英語検定試験」については一つ上の級に合格する必要があります。）**

※　英語特修プログラム修了の認定を受けた学生に対しては，本学在学中に受験した実用英語技能検定，ＴＯＥＩＣ，ＴＯＥＦＬ，ＩＥＬＴＳ，国際連合公用語英語検定試験のいずれかの受験費用１回分を大学が補助します。大学を卒業する年度の 11 月 15 日～30 日（土・日及び祝日を除く）の間に，プログラム認定証、受験料の領収書及び資格試験の受験票（プログラムの認定を受ける際に資格試験の結果を単位に組み込んだ場合は不要）を添えて教務課に申請してください。なお，申請者多数の場合には，英語特修プログラム科目の通算ＧＰＡによる選考を行います。また，協定校への留学に対する渡航費用の補助を受けている者は，受験費用補助の対象とはなりません。

※　「外部資格試験」，「海外語学研修（英語）」，「海外留学」は，自由選択領域の科目として卒業要件単位に計上することが可能です。

英語特修プログラム履修基準（共生システム理工学類）

科目区分	授業科目名	単位数	履修セメスター	必修	選択
共通領域科目	英語ＡⅠ	2	１～２	2	
	英語ＡⅡ	2	１～２	2	
	英語ＢⅠ	2	３～４	2	
	英語ＢⅡ	2	３～４	2	
	応用英語	2	５～８		6
専門領域科目	海外演習	2	5		12
	外部資格試験	4	１～８		
	海外語学研修（英語）	2	１～８		
	海外留学	～12	１～８		
	他学類の英語特修プログラムに盛り込まれた専門科目（開放科目）	～6	４～８		
小　計				8	18
合　計				26	

XI　放射線対策科学専修プログラム

本プログラムは、原子力発電所災害に伴う放射線への科学的対応を行える人材の育成を目指したものです。このプログラムでは「放射線取扱主任者」資格レベルの放射線科学に関する専門領域科目について、単位取得を課しています。プログラムへの事前の登録は必要ありません。

プログラム習得に必要な単位を修得することにより、「放射線対策科学専修プログラム修了」の認定を受けることができます。「共通基礎」では「第２種放射線取扱主任者」資格レベルの基礎を養うことを目的としており、本プログラム参加者全員が履修する内容となっています。その上で、「放射線科学」「廃炉支援」「環境動態」の３領域のいずれかの必要単位を取得することで本プログラムを修了することになります。「放射線科学」領域では「第１種放射線取扱主任者」資格取得を目指して、放射線測定等の分析技術を含め実践的に学びます。「廃炉支援」領域では原子力発電所の廃炉に必要なロボット技術や材料力学の基礎を学びます。「環境動態」領域では原発事故により飛散した放射性物質の動態と環境への影響を考えるための基礎を学びます。必要な単位をすべて修得した学生は、その時点で教務課に申告してください。

放射線対策科学専修プログラム　履修基準

	授業科目名	セメスター	単位数	履修方法	必要単位数	備考（注意１）
共通基礎（３領域共通）	共生の科学	1	2	必修	22	1, 2, 3
	物理学Ⅰ（力学）	1	2	必修		1, 2, 3
	化学Ⅰ（基礎化学）	1	2	必修		1, 2, 3
	生物学	1	2	必修		1, 2, 3
	物理学Ⅱ（電磁気学）	2	2	必修		1, 2, 3
	化学Ⅱ（物理化学）	2	2	必修		1, 2, 3
	数理モデリング	3	2	選択必修２科目４単位		1
	衛生工学概論	3	2			2
	水質保全改善学概論	4	2			3
	物理学実験	3	2	必修		1, 2, 3
	化学実験ＡもしくはＢ	3	2	必修		1, 2, 3
	放射線科学	5	2	必修		自由選択領域科目
放射線科学領域	環境分析実験	4	2	選択	8	2, 3
	物質変換化学	4	2	選択		2, 3
	分析化学概論	3	2	選択		2, 3
	無機化学概論	4	2	選択		2, 3
	機器分析	4	2	選択		2, 3
	量子力学	4	2	選択		1
	物質分離化学	5	2	選択		3
廃炉支援領域	メカトロニクス	5	2	選択	8	1
	CAD/CAM 演習	5	2	選択		1
	電気工学	3	2	選択		1
	材料及び固体の力学	3	2	選択		1, 3
	電子回路	4	2	選択		1
	機構学	4	2	選択		1
	機械材料・加工学	4	2	選択		1
	制御工学	4	2	選択		1
	流体力学	5	2	選択		1, 3
	熱と物質の移動現象論	5	2	選択		2, 3
環境動態領域	水循環システム概論	3	2	選択	8	3
	大気環境科学概論	3	2	選択		3
	生態学概論	4	2	選択		3
	地下水盆管理学概論	4	2	選択		3
	土壌浄化学概論	4	2	選択		3
	生物多様性概論	5	2	選択		3
	水循環システム	5	2	選択		3
	森林生態学	5	2	選択		3
合　　計					30	

（注意）

１．備考欄において，１は人間支援システム専攻，２は産業システム工学専攻，３は環境システムマネジメント専攻で開講されている科目を表しています。

２．履修基準に従い共通基礎２２単位＋各領域８単位の合計３０単位を修得することにより，本プログラムの修了が認定されます。

Ⅻ 他大学等及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について

本学類で修得した授業科目の他に，他の大学等で修得した単位や検定試験等の結果を，一定の範囲で卒業要件単位や特修プログラムの単位として認定する場合があります。ただし，これらの単位は合わせて６０単位を上限としています。

１．他大学等との単位互換科目の認定について（１年次後期～）

本学では，下記の他大学等との間で単位互換協定を締結しています。

茨城大学，宇都宮大学，会津大学，いわき明星大学，郡山女子大学，日本大学工学部，東日本国際大学，福島学院大学，福島県立医科大学，会津大学短期大学部，いわき短期大学，郡山女子大学短期大学部，桜の聖母短期大学，福島学院大学短期大学部，福島工業高等専門学校

これは，本学に在学したまま他大学等に特別聴講学生（この協定により相手大学等が受入れる学生）として受入れ申請を行い，認められた場合，当該大学等において開講される授業科目を聴講できるものです。この場合，修得した授業科目の単位を本学で修得したものとみなします。

なお，詳細については，毎年３月中旬にライブキャンパス及び掲示等でお知らせしますので，履修希望者は留意してください。

２．能力検定試験等の学修成果の認定について

（1）入学後において，実用英語技能検定，ＴＯＥＩＣ，ＴＯＥＦＬ，ＩＥＬＴＳ及び国際連合公用語英語検定試験のいずれかの英語に関する検定試験に合格した場合や海外留学等で得た学修成果を，本学類で修得した単位として認める場合があります。詳細は，「英語特修プログラム」，「英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」及び「英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」を参照してください。

（2）英語以外の外国語については，その履修方法の選択肢を広げ，またそれぞれの到達度に応じた学習を早期に行うことを保障するために，外部検定試験や海外研修の結果等をもって共通領域の英語以外の外国語科目として単位の認定を受けることができます。詳細は，「授業科目の履修によらない英語以外の外国語の単位認定について」，「英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関する要項」及び「英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」を参照してください。

（3）（独）情報処理推進機構が実施する情報処理技術者試験に合格した場合，２種類の資格までを情報特修プログラムの単位として認定します。（ただし，卒業要件単位には計上されません。）本学入学前に既に当該資格を取得している場合も同様に単位認定します。詳細は，「情報特修プログラム」を参照してください。

３．入学前在籍大学等での既修得単位の認定について

本学に入学する前に在籍していた大学や短期大学等で修得した授業科目の単位について，本学類の開講する授業科目の単位と同等と認定された場合は，本学類の卒業要件単位として計上することができます。

これに該当する場合は，入学時の４月の所定の期間に修得単位等に関する書類（成績証明書，授業内容のわかるシラバス等）を提出して審査を受けることが必要となります。

ＸⅢ　教育職員免許状の取得について

共生システム理工学類の学生は，卒業要件に定められた単位の他に，教育職員免許法（以下「免許法」という。）及び免許法施行規則（以下「施行規則」という。）により定められた，教育職員免許状（以下「免許状」という。）を取得するのに必要な単位等を修得することにより，下記の免許状の取得資格を得ることができます。この際，本来の学類の学習がおろそかにならないように注意しなければなりません。また，単に資格取得だけを目的とするような安易な動機で免許状の取得に臨むのは避けてください。

○主に共生システム理工学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状

中学校教諭１種免許状（理科），高等学校教諭１種免許状（理科），
中学校教諭１種免許状（技術），高等学校教諭１種免許状（工業），
高等学校教諭１種免許状（情報）

○人間発達文化学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状

中学校教諭１種免許状（数学），高等学校教諭１種免許状（数学）

１．教育職員免許状取得のための履修基準

免許状取得にあたって単位修得しなければならない科目は，免許法及び施行規則により定められ，「教科に関する科目」，「教職に関する科目」，「教科又は教職に関する科目」及び「文部科学省令で定める科目」の４種類からなります。

このうち，「文部科学省令で定める科目」については，下記のとおりです。

文部科学省令で定める科目	対応授業科目	必要単位数
日本国憲法	日本国憲法	２単位
体育	健康・運動科学実習	２単位
外国語コミュニケーション	英語ＡⅠ，英語ＡⅡ	２単位
情報機器の操作	情報処理Ⅰ～Ⅲ	２単位

「教科に関する科目」，「教職に関する科目」，「教科又は教職に関する科目」の科目についての履修方法の基準はP．７５～７８に記載しています。

（「理科」，「技術」，「工業」及び「情報」の免許状についてのみ）

▽教職に関する科目の履修方法の基準・・・・表１
▽教科に関する科目の履修方法の基準
　▼中学校１種免許（理科），高等学校１種免許（理科）・・・表２
　▼中学校１種免許（技術）・・・・表３
　▼高等学校１種免許（工業）・・・表３
　▼高等学校１種免許（情報）・・・表４－Ⅰ
▽教科又は教職に関する科目の履修方法の基準（情報）・・・表４－Ⅱ

「数学」の免許状については，人間発達文化学類の履修方法の基準に従って履修することが必要です。

また，中学校の免許状を取得しようとする場合は「介護等体験」を行わなければなりません。介護等体験についてはP．７４の「８．介護等体験について」を読んでください。

２．教育職員免許状取得希望者の受け入れについて

（1）免許状取得希望者（１年次生）を対象として８月と１２月頃に説明会を行いますので希望者は両方の説明会に必ず出席してください。この説明会では，免許状取得に必要な科目の履修方法，各種手続きに関する重要な説明を行います。説明会に出席しない場合には，免許状取得希望者としての登録ができなくなる場合がありますので注意してください。

（2）免許状取得希望者の募集は１年次生を対象に２月に行います。この手続きによって，免許種ごとに免許状取得希望者として登録され，２年次以後の教職関連科目の履修が許可されます。一人が複数の教科の免許状取得を希望することも可能です。

（3）免許状取得については，受入れ人数に制限があります。それぞれの免許状教科の取得希望者が制限人数を超過した場合，試験・面接等により選考します。

（4）免許状取得登録後，免許状取得を放棄することになった場合は，その時点で速やかに教務課の担当窓口に申し出て，「放棄届」を提出してください。

（5）受入れ人数に余裕があり，修業年限（４年）内での取得が非常に困難であることを了解している場合に限って，２年次以上で免許状取得を希望する者にも免許状取得登録を認めることがあります。

３．教職関係の各種行事・手続き日程について

原則として下記の日程で行う予定です。詳細は後日掲示によりお知らせします。

対象学年	期　　間	内　　容
１年	８月頃 １２月頃 ２月初旬	免許状取得に関する説明会（第１回） 免許状取得に関する説明会（第２回） 免許状取得希望登録
２年	４月中旬 １月 ３月	免許状取得希望登録者説明会 教育実習参加希望者への説明会 教職担当教員との面談
３年	４月 ３月 ３月	出身校実習内諾報告書の提出 介護等体験参加（中学校免許種のみ） 教職担当教員との面談 実習希望者が実習参加資格確認
４年	４月～５月 ５月頃又は９月頃 ７月～１２月 １０月～１月 ２月～３月 学位記授与式	教育実習事前指導 介護等体験参加（中学校免許種のみ） 教育実習 教育実習事後指導 教職実践演習 教職担当教員との面談 教員免許状授与

４．「教職履修カルテ」の活用について

免許状取得を希望する学生は，「教職履修カルテ」を使用することとなります（ファイルを生協で購入すること。）。このカルテは，免許状を取得するために必要な科目の履修状況を教職関連科目の単位取得後に確認したり，教育実習等の事前事後指導に活用して免許状取得のために活用するものです。

免許状取得を希望する学生は，年度末にその年度の履修内容を「教職履修カルテ」に記入して，学類および総合教育研究センターの教職担当教員と面談し，アドバイスをいただき，所見を記入してもらいます。

また，個人面談を受けていなければ，４年次後期に開講される「教職実践演習」を履修できません。なお，自己評価シートは，ふりかえりを目的としており，学生が記入した自己評価は，「教職実践演習」等の評価と連動することはありません。

「教職履修カルテ」は記入後，教務課へ提出してもらいますが，次の学期の始めには学生に返却します。４年間使用するものなので大切に保管してください。（カルテの活用等については，ガイダンス等で説明します。）

５．必修科目「教職実践演習」の受講について

免許状取得のためには８セメスター（４年次後期）に，教職関連の必修科目「教職実践演習」を受講しなければなりません。この授業では，４年次前期までに履修してきた免許状取得に必要な授業や実習等で習得した内容を踏まえ，教員として学校現場で必要とされるさまざまな項目を実践的に学びます。

就職活動等での欠席も原則として認められません。この授業の単位を取得できないと，たとえ教員採用試験に合格しても免許状取得ができない場合もありますので，しっかりとした目的をもってこの授業に臨んでください。

６．教育実習について

（１）免許状を取得するためには，各種免許状の種類に応じた教育実習に参加し，所定の単位を修得しなければなりません。なお，教育実習に必要な費用に関しては，履修者が負担するので，説明会での諸指示等に注意してください。

（２）教育実習は，免許状取得登録者で教育実習参加資格等の条件を満たした者に対して履修を許可しますが，その場合，以下の点に留意してください。

① 教育実習への参加は，原則として教員になる意思のある者に限り認めるものです。

② 教育実習に際しては，教員にふさわしい人格的資質，言動が要求されます。そのためには，日頃の心がけ，努力が必要です。

③ 教育実習の単位は，事前・事後指導（４年次）を含めて５単位（高等学校免許種は３単位）として認定されます。したがって，実習校での教育実習の他に，「事前指導」及び「事後指導」への参加が義務付けられています。「事前指導」及び「事後指導」を無断欠席した場合，教育実習の単位が修得できなくなることもありますので，そのようなことがないよう十分注意してください。

④ 指示事項はすべて掲示によりますので，十分注意してください。

⑤ 「事前・事後指導」及び「教育実習」の履修登録も忘れずに行ってください。

（３）教育実習校及び教育実習期間

中学校免許種の教育実習については，４年次に，原則として附属中学校又は出身中学校で行われます。また，高等学校免許種の教育実習については，４年次に，原則として出身高等学校で行われます。なお，期間は中学校１種免許の教科は４週間，高等学校１種免許のみの教科は２週間となっています。

７．教育実習参加資格について

教育実習に参加するには，教育実習参加の前年度までに，以下に示す条件をすべて満たしていることが必要です。

（1）「教職入門」，「教育と社会」，教育実習を行う教科の教育法，教育学Ｉ（中学校免許種のみ），及び各教科の授業研究の単位を修得していること。

（2）教育実習を行う教科の「教科に関する科目」の必修科目の内，３分の２を超える科目を修得していること。

※「数学」免許種で教育実習を受ける場合は，人間発達文化学類の学習案内も参照してください。

※「事前・事後指導」及び「教育実習」の履修登録も忘れずに行ってください。

８．介護等体験について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が公布され，平成１０年４月に施行されたことに伴い，平成１０年度から，小学校及び中学校の免許状取得を希望する者については，特別支援学校及び社会福祉施設等での７日間の介護等体験が義務付けられました。これらのいずれの体験にあたっても，中学校の免許状取得を希望する者は，本学類において事前指導を受け，体験希望者名簿に登録されることが必要になります。以下に示す（1），（2）の両方の介護等体験を行ってください。

（1）社会福祉施設等での介護等体験：３年次に福島県下の社会福祉施設等において実施します。

（2）特別支援学校での介護等体験：４年次に福島県下の特別支援学校において実施します。

なお，詳しくは事前にガイダンスを行いますので，掲示に注意してください。

９．「公欠」について

教育実習又は介護等体験のため，それぞれの期間中に開講されている授業科目を欠席する場合，単位認定要件に係る欠席扱いにせず「公欠」とすることができます。

「公欠」扱いとするためには，欠席する授業科目の担当教員へ所定の届を提出しなければなりません。教務課に「公欠申請書」がありますので，必要事項を記入し，教務課で承認印を受け，所属研究室の指導教員に申告のうえ，各授業科目の担当者へ提出してください。

表１

中学校教諭１種免許状（理科・技術），高等学校教諭１種免許状（理科・工業・情報）
取得のための教職に関する科目の履修方法の基準

	免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	履修年次	中学校１種		高等学校１種		
						理科	技術	理科	工業	情報
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	教職入門	2	2	必修	必修	必修	必修	必修
	教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	人間と教育	2	2	必修	必修	必修	必修	必修
		・幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	教育発達心理学	2	2	必修	必修	必修	必修	必修
		・教育に関する社会的，制度的又は経営的事項	教育と社会	2	3	必修	必修	必修	必修	必修
	教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法	2	2	必修	必修	必修	必修	必修
		・各教科の指導法	理科教育法	2	2	必修	×	必修	×	×
			理科教育学Ⅰ	2	3	必修	×	※１	×	×
			理科教育学Ⅱ	2	3	必修	×	※１	×	×
			理科授業研究	2	2	必修	×	必修	×	×
			技術科教育法	2	2	×	必修	×	×	×
			技術科教育学Ⅰ	2	2	×	必修	×	×	×
			技術科教育学Ⅱ	2	2	×	必修	×	×	×
			技術科授業研究	2	2	×	必修	×	×	×
			工業科教育法	2	2	×	×	×	必修	×
			工業科授業研究	2	2	×	×	×	必修	×
			情報教育学	2	3	×	×	×	×	必修
			情報授業研究	2	3	×	×	×	×	必修
		・道徳の指導法	道徳指導論	2	3	必修	必修	※２	※２	※２
		・特別活動の指導法	特別活動	2	3	必修	必修	必修	必修	必修
	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	子ども理解と指導援助	2	3	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
			学校カウンセリング論	2	3					
		・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	生活指導論	2	3	必修	必修	必修	必修	必修
	教育実習		事前及び事後指導	1	4	必修	必修	必修	必修	必修
			教育実習（４週間）	4	4	必修	必修	2単位※３	2単位※３	2単位※３
			教育実習（２週間）	2	4	×	×			
	教職実践演習		教職実践演習（中・高）	2	4	必修	必修	必修	必修	必修
合計単位数						33	33	25	25	25

×印…指定の免許以外には使えない科目

※１　高校１種免許（理科）の場合のみ「各教科の指導法」の単位にあてることができる。

※２　高校１種免許「教科又は教職に関する科目」の単位にあてることができる。

※３　高等学校免許種のみ取得の場合は，教育実習（２週間）が必修。中学校免許種と高等学校免許種の両方を取得する場合は，教育実習（４週間）を取得し，２単位を高等学校免許種の教育実習の単位にあてることができる。

表２

中学校教諭１種免許状（理科），高等学校教諭１種免許状（理科）取得のための
教科に関する科目の履修方法の基準

	施行規則科目	授業科目	単位数	履修年次	中学校１種（数字は必要単位数）		高等学校１種（数字は必要単位数）	
教科に関する科目	物理学	物理学Ⅰ（力学）	2	1	必修	4	必修	4
		物理学Ⅱ（電磁気学）	2	1	必修		必修	
		物理学Ⅲ（熱力学）	2	2			必修	
		量子力学	2	2				
		流体力学	2	3				
		統計力学	2	3				
	物理学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	物理学実験	2	2	必修		必修	
	化学	化学Ⅰ（基礎化学）	2	1	必修		必修	
		化学Ⅱ（物理化学）	2	1	必修		必修	
		有機化学概論	2	2			必修	
		無機化学概論	2	2				
		分析化学概論	2	2				
	化学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	化学実験	2	2	必修		必修	
	生物学	生物学	2	1	必修		必修	
		生態学概論	2	2	必修		必修	
		生物多様性概論	2	3			必修	
		森林生態学	2	3				
		★ 生命環境の科学Ⅰ	2	3				
		★ 生命環境の科学Ⅱ	2	3				
	生物学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	保全生物学実験	2	3	必修		必修	
		自然環境調査法	1	2				
		生物多様性保全実習	1	3				
		森林調査法	1	2				
	地学	地質学概論	2	2	必修		必修	
		環境モニタリング	2	2	必修		必修	
		水循環システム概論	2	2			必修	
		地球科学	2	1				
		★ 地球惑星の科学Ⅰ	2	2				
		★ 地球惑星の科学Ⅱ	2	3				
	地学実験（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ活用を含む。）	地球環境科学実験	2	2又は3	必修		必修	
		地球環境調査法	1	3				
合計単位数					28		36	

※１　中学校１種免許状（理科）…必修２４単位，選択必修４単位，合計２８単位修得
※２　高等学校１種免許状（理科）…必修３２単位，選択必修４単位，合計３６単位修得
※３　★印の科目は，人間発達文化学類の開放科目

表３

中学校教諭１種免許状（技術），高等学校教諭１種免許状（工業）取得のための
教科に関する科目の履修方法の基準

	施行規則科目（技術）	施行規則科目（工業）	授業科目	単位数	履修年次	中学校１種	高等学校１種（数字は必要単位数）	
教科に関する科目	木材加工（製図及び実習を含む。）	工業の関係科目	木材加工学概論及び実習（実習を含む。）	2	2	必修	必修	
			ＣＡＤ／ＣＡＭ演習（製図及び実習を含む。）	2	3	必修	必修	
	金属加工（製図及び実習を含む。）		材料工学概論	2	2	必修	必修	
			機械材料・加工学（製図及び実習を含む。）	2	2	必修	必修	
	機械（実習を含む。）		機構学	2	2	必修	必修	
			創造工房ゼミ（実習を含む。）	2	2	必修	必修	
			人間工学	2	2	必修		14
	電気（実習を含む。）		電気工学	2	2	必修	必修	
			電子回路	2	2	必修		
			パワーエレクトロニクス（実習を含む。）	2	3	必修	必修	
	栽培（実習を含む。）		栽培学概論及び実習（実習を含む。）	2	1	必修	×	
	情報とコンピュータ（実習を含む。）	工業の関係科目	メカトロニクス	2	3	必修		
			支援システム実験（実習を含む。）	2	2	必修	必修	
			生物資源開発	2	3	×		
			機能性材料概論	2	3	×		
			応用物性	2	2	×		
			エネルギーシステム工学	2	3	×		
			製造技術概論	2	2	×		
			循環型産業論	2	3	×		
			生産システム	2	3	×		
			衛生工学概論	2	2	×		
		職業指導	職業指導	2	2	×	必修	
合計単位数						26	34	

※１　×印…該当欄の免許には使えない科目

※２　中学校１種免許状（技術）…合計２６単位修得

※３　高等学校１種免許状（工業）…必修２０単位，選択必修１４単位，合計３４単位修得

表４

Ⅰ．高等学校教諭１種免許状（情報）取得のための教科に関する科目の履修方法の基準

	施行規則科目	授業科目	単位数	履修年次	高等学校１種（数字は必要単位数）	
教科に関する科目	情報社会及び情報倫理	情報社会と情報倫理	2	2	必修	必修以外の科目から１８単位選択
		知的財産権論	2	4		
	コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	情報科学概論（実習を含む。）	2	2	必修	
		プログラミング基礎（実習を含む。）	2	1	必修	
		プログラミングⅠ（実習を含む。）	1	2		
		プログラミングⅡ（実習を含む。）	1	2		
		アルゴリズムとデータ構造（実習を含む。）	2	2		
		形式言語とコンパイラ（実習を含む。）	2	3		
	情報システム（実習を含む。）	ソフトウェア設計開発論（実習を含む。）	2	2	必修	
		プログラミング言語論（実習を含む。）	2	2		
		データベースシステム（実習を含む。）	2	2		
		人工知能と知識処理（実習を含む。）	2	3		
		経営情報システム（実習を含む。）	2	4		
	情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸ（実習を含む。）	ネットワークシステム（実習を含む。）	2	3	必修	
		情報理論	2	3		
		デジタル信号処理（実習を含む。）	2	2		
	マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	マルチメディアシステム論（実習を含む。）	2	3	必修	
		サウンドスケープ	2	3		
		ヒューマンインターフェイス（実習を含む。）	2	3		
	情報と職業	情報と職業	2	3	必修	
合計単位数					32	

※高等学校１種免許状（情報）…必修１４単位，選択必修１８単位，合計３２単位修得

Ⅱ．高等学校教諭１種免許状（情報）取得のための教科又は教職に関する科目（上記の合計３２単位の他に修得する科目）の履修方法の基準

以下の①もしくは②の科目から２単位修得すること。

①教職に関する科目の履修方法の基準（表１）の授業科目のうち，選択必修として修得していない授業科目

②教科に関する科目の履修方法の基準（表４－Ⅰ）の授業科目のうち，選択必修として修得していない授業科目

XⅣ 大学間交流協定に基づく学生派遣について

本学では大学間交流協定に基づき海外の４８大学と学術交流協定を締結しています。また、以下の31 大学と学生交流協定を締結しており、交換留学をはじめとした学生の派遣・受入れによる交流を行っています。以下の海外協定大学への交換留学を希望する学生は以下により応募してください。

「留学」というと不安を感じる方もいるかもしれません。また、生活費はどれくらいかかるのか、語学力はどの程度必要なのか、などの疑問がある方もいるかと思います。これらの疑問については、春と秋に開催する「留学フェア」にて詳しく説明します。また、国際交流センターで留学に関する相談をいつでも受け付けています。

◇学生交流協定締結大学　18 ヵ国・地域 31 大学 ※1

国名・地域	協定先	URL
中国	華東師範大学	http://www.ecnu.edu.cn/
	河北大学	http://www.hbu.edu.cn/
	重慶理工大学	http://english.cqut.edu.cn/
韓国	韓国外国語大学校	http://foreign.hufs.ac.kr/foreign/jap/index.jsp http://international.hufs.ac.kr（留学生用）
	ソウル市立大学校	http://english.uos.ac.kr/
	中央大学	http://neweng.cau.ac.kr/01_about/welcome01.php
台湾	文藻外語大学	http://www.wzu.edu.tw/
フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	http://www.ateneo.edu/
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学	http://www.ussh.edu.vn/
	トゥイロイ大学	http://en.tlu.edu.vn/
オーストラリア	クィーンズランド大学	http://www.uq.edu.au/
アメリカ合衆国	ニューヨーク州立大学アルバニー校	http://www.albany.edu/
	コロラド州立大学	http://www.colostate.edu/
	オザークス大学	http://www.ozarks.edu/
	サンフランシスコ州立大学	http://www.sfsu.edu/
英国	グラスゴー大学	https://www.gla.ac.uk/
	ノーサンブリア大学	https://www.northumbria.ac.uk/
ドイツ	ルール大学ボーフム	http://www.ruhr-uni-bochum.de/index_en.htm
	ハノーファー大学	https://www.uni-hannover.de/en
	ルードヴィヒスハーフェン経済大学	http://www.hs-lu.de/en.html
オランダ	ハンザUAS・フローニンゲン大学	https://www.hanze.nl/nld
スペイン	サラゴサ大学	https://www.unizar.es/
セルビア	ベオグラード大学	http://www.bg.ac.rs/en/
ルーマニア	ブカレスト大学	http://www.unibuc.ro/e/
ハンガリー	カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学	http://www.kre.hu/english/
スロベニア	リュブリャナ大学	http://www.uni-lj.si/
ベラルーシ	ベラルーシ国立大学	http://www.bsu.by/
ロシア	極東国立交通大学	http://en.dvgups.ru/
トルコ	アンカラ大学	http://www.ankara.edu.tr/
	中東工科大学	http://www.metu.edu.tr/
	エーゲ大学	http://www.ege.edu.tr/

※1　学生交流協定を締結している大学については、留学先大学への入学料、検定料、授業料の納入は免除されます。ただし、留学期間中、福島大学に授業料を納入する必要があります。その他、渡航費、

生活費など、留学に関わる費用は原則自己負担となります（一部の渡航先については、奨学金があります）。

１．派遣人数および対象学類等（全学類、研究科対象）

協定先	人数
河北大学	１０名以内
その他の協定校	原則２名以内

※受入れの状況により、年度毎の派遣人数は調整される場合があります。

２．応募資格等

協定先	応募資格
河北大学、華東師範大学、重慶理工大学	中国語初級を履修中又は履修済みであること。
韓国外国語大学校、ソウル市立大学校、中央大学	授業科目「韓国朝鮮語初級」、「朝鮮語コミュニケーション(～H27)」、「朝鮮の言語と文化（～H27 開講）」を履修中又は履修済みの者、韓国に勉学上の関心のある者
ルール大学ボーフム、ハノーファー大学	ドイツ語初級を履修中または、履修済みであること。
ベラルーシ国立大学、極東国立交通大学	ロシア語初級を履修中、または履修済みであること。
文藻外語大学、クィーンズランド大学、 コロラド州立大学 ニューヨーク州立大学アルバニー校、 オザークス大学、サンフランシスコ州立大学、 アテネオ・デ・マニラ大学、グラスゴー大学、 ノーサンブリア大学、ハンザ UAS・フローニンゲン大学、リュブリャナ大学、サラゴサ大学、 ベオグラード大学、 ルードヴィヒスハーフェン経済大学、 カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学	各協定校が求める語学条件を備えていること。
ブカレスト大学	語学要件なし

※その他の大学及び詳細については国際交流センターへお問い合わせください。

３．留学期間

協定先	期間
クィーンズランド大学	原則として１年（７月）
その他の大学	原則として１年（８月～１０月）

※詳細については国際交流センターへお問い合わせください。

４．派遣までの日程

平成 30 年度は、下記のとおり募集を行います。募集は、国際交流センターの掲示版やホームページにて行います。なお、日程については、変更になる可能性もあります。

平成３０年１１月上旬～平成３１年1月３１日	募集
平成３１年２月上旬～中旬	面接選考
平成３１年２月下旬	派遣内定
平成３１年３月～７月	交換留学に向けての準備期間 （ビザの取得、航空券の手配）
平成３１年７月下旬	危機管理、奨学金手続き等の説明会
平成３１年８月～１０月	派遣先大学へ出発

※派遣先大学から受入許可がおりて正式に派遣決定となります。選考により派遣内定を得た場合であっても、受入許可がおりない場合は派遣が取り消されます。

※派遣学生は、日本学生支援機構又は福島大学学生教育支援基金から給付型奨学金を受給する可能性があります。給付金額は、地域によって異なりますが、１ヶ月あたり３～１０万円となります。

５．その他

「トビタテ！留学 JAPAN」による留学を考えている方は、下記のホームページを参照してください。なお、申請時期や申請方法に関する質問については、国際交流センターにお問い合わせください。

http://www.tobitate.mext.go.jp/

その他、留学に関する問い合わせは国際交流センター（TEL:024-503-3066）までお願いします。

ＸＶ　諸手続きについて

１．学生への連絡方法等

休講や授業、資格などに関する諸連絡は、共通講義棟（S 棟）２階の共生システム理工学類掲示板および LiveCampus 上に掲示します。毎日掲示板を見る習慣を身に付け、見落としによる過誤が生じないようにしてください。

なお、共通領域科目及び他学類の授業科目に関しての連絡等は、当該学類等の掲示板に掲示されますので見落とさないよう留意してください。

掲示物には履修や成績に関わる重要な内容が記載されていますので、絶対にはがしたり、汚損したりしないようにしてください。

２．諸証明書の発行について

⑴ 証明書自動発行機で発行するもの

在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書、JR の学割証及び通学定期券購入証明書は、共通講義棟（M 棟）１階に設置の自動発行機により、交付を受けることが出来ます。利用できる時間は８：30～20：30 ですが、日・祝日・年末年始の休業日及び大学行事により講義棟への出入りの出来ない日は利用できないので、必要日から余裕を持って手続きをしてください。

請求には情報処理センターから発行される、ＩＤとパスワードが必要です。発行機にトラブルが生じた時は教務担当窓口まで申し出てください。

卒業後の証明書申請手続きは本学のＨＰに掲載されています。発行まで時間のかかる場合もありますので、余裕を持って申請してください。

なお、成績証明書等の厳封を必要とする場合は、証明書自動発行機で交付された証明書を窓口に持参のうえ申し込んでください。

自動発行機で取得できる証明書

学割証	最大、１日３枚まで発行できます。
在学証明書	－
ＪＲ通学定期券購入証明書	LiveCampus に学籍情報を登録していて、定期券が必要な地域に在住の学生のみ発行できます。
成績証明書	－
卒業見込証明書･修了見込証明書	LiveCampus の就職システムに志望調査登録をした最高学年の学類生、大学院生を対象に発行します。
教育職員免許状取得見込証明書	教員免許の資格希望を出している最高学年の学類生、大学院生を対象に発行します。
身体検査証明書	保健管理センターで定期検診を受けた学類生、大学院生のみ。 また、異常が認められた学生には発行されません。

⑵ 窓口で発行するもの

上記（1）以外の証明書については、担当窓口で交付します。教務担当事務室にある申請書に必要事項を記入の上、教務担当窓口に申請してください。なお、申し込みの翌日以降の発行となりますので、余裕をもって申し込んでください。

３．休退学の願出

休学、退学を希望する事態が生じた場合は所定の手続きが必要となるので、速やかに教務担当窓口に相談してください。休学や退学の異動の場合は授業料の納入期と関わりが生じ、手続きの遅れが多大な経済的負担を生じる場合がありますので、次のことに留意ください。

⑴ 授業料は年間２回に分け（前期・後期）その納入期限を前期は４月に、後期は１０月に納入することになっています。納入方法は入学時に届け出た銀行等の口座より引き落しとなるので期日までに所定額を入金しておいてください。

⑵ 休学や退学の事由が生じた場合、在籍している学期分の授業料は納入しなければならなくなるので留意してください。

このため、９月及び３月時の学期末に生じた異動は速やかに教務担当窓口まで申し出る必要があります。

４．改姓の届出

改姓をした場合は、教務担当窓口に申し出てください。

５．窓口受付時間

窓口受付時間は、原則として下記の曜日・時間です。

曜日	月～金
受付時間	9：00～12：30 13：30～17：00

【注意事項等】

特別の場合を除き、窓口時間外の受け付けは一切行いません。また、土曜・日曜・祝日、入学試験当日及びその準備期間など、別途掲示した期間においても窓口業務を行いません。

電話による質問や問合せは誤解や間違いを生じる可能性があるので一切応じられません。受付時間内に直接窓口に来てください。また、外部からの学生呼び出し等連絡を依頼されても、放送設備等の手段がないため応じられません。

掲示やLiveCampus等について不明な点がある場合は窓口で確認するようにしてください。

福島大学共生システム理工学類規程

制定　平成１７年４月１日

改正　平成 18 年 3 月 31 日　平成 20 年 3 月 31 日　平成 21 年 3 月 31 日　平成 21 年 7 月 8 日
平成 22 年 3 月 31 日　平成 22 年 5 月 24 日

第１章　総則

（趣旨）

第１条　福島大学共生システム理工学類（以下「本学類」という。）学生の履修等に関する事項は、福島大学学則（昭和２４年６月１日制定。以下「学則」という。）及び福島大学学群規則（平成１７年１月１１日制定）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

（趣旨）

第１条の２　本学類は、人―産業―環境に関わる課題を共生のシステム科学の視点で学び、自ら課題を発見し解決できる能力と文理融合型の思考力を有し、個性に応じた実践型キャリアを身に付けた人材を養成することを目的とする。

２　本学類の各専攻の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

一　人間支援システム専攻　心理学や生体システム科学、情報科学や機械・電気・電子工学など基礎・専門科目を学び、人理解を基礎とする人間支援のシステム科学に関わる人材を養成する。

二　産業システム工学専攻　化学工学、材料工学、情報工学、経営工学などの基礎・専門科目を学び、環境負荷の少ないものづくりや省資源・循環社会システムの構築に関わる人材を養成する。

三　環境システムマネジメント専攻　環境分析化学、浄化化学、生態学や地域計画、流域管理計画などの基礎・専門科目を学び、環境をシステム科学として捉え、環境保全や環境管理計画に関わる人材を養成する。

第２章　入学

（入学者の選考）

第２条　学則第１９条第２項に規定する入学者の選考は、学力試験等の結果に基づき、学類教員会議（以下「教員会議」という。）の議を経て学類長が行う。

２　前項に規定するもののほか、入学定員の一部については、推薦等による選考を行うことができる。

（所属専攻）

第３条　学生は、各専攻のいずれかに所属しなければならない。

２　専攻の所属は、２年次前期の始めに決定する。

３　専攻所属後、他の専攻への変更を希望する者に対しては、選考のうえ学類長がこれを許可することができる。

第３章　再入学、編入学、学士入学及び転入学類

（再入学）

第４条　学則第２０条の規定に基づく再入学の選考は、退学理由等を審査し、教員会議の議を経て学類長が行う。

２　再入学できる専攻は、当該希望者が退学時に所属していた専攻とする。

（編入学）
第５条　学則第２１条の規定に基づく編入学の選考は、学力検査等の結果に基づき、教員会議の議を経て学類長が行う。
２　編入学できる年次は３年次とする。
（学士入学）
第６条　学則第２１条の２の規定に基づく学士入学の選考は、学力検査等の結果に基づき、教員会議の議を経て学類長が行う。
（転入学類）
第７条　学則第２４条の規定に基づく転入学類の選考は、面接等の結果に基づき、教員会議の議を経て学類長が行う。

第４章　履修基準及び教育職員免許状

（単位修得の基準）
第８条　単位修得の基準は、学生の所属する専攻に応じ別表１に定める単位数以上とする。ただし、外国人留学生にあっては、別表２に定める単位数以上とする。
２　第５条から第７条までの規定に基づき入学等をした者の単位修得基準は、既に修得した授業科目の単位及び成績等を審査のうえ、教員会議の議を経て学類長が定める単位数とする。
（履修方法の基準等）
第９条　開設授業科目、単位数及び履修方法の基準等は、自己デザイン領域、共通領域、専門領域及び自由選択領域ごとに、それぞれ学生の所属する専攻に応じ、教員会議の議を経て学類長が別に定める。
（授業科目の履修）
第１０条　学生は、前２条に規定する基準に基づき、授業科目を履修し、単位を修得しなければならない。
（教育職員免許状の取得のための履修方法の基準）
第１１条　学則第１３条の４第２項に規定する教員の免許状授与の所要資格の取得のための履修方法の基準は、別表３に定めるとおりとする。
（履修登録）
第１２条　学生が授業科目を履修しようとするときは、所定の期日までに履修登録をしなければならない。
（履修登録の上限）
第１３条　学期ごとに履修登録できる単位数の上限は、教員会議の議を経て学類長が別に定める。
（他の大学又は短期大学における授業科目の履修）
第１４条　学則第１３条の５の規定に基づき、他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとする学生は、学類長に願い出なければならない。
２　学類長は、前項に規定する願い出について、当該他の大学又は短期大学と協議のうえ、授業科目の履修を許可することができる。
３　前項の規定により修得した単位は、本学類において修得したものとみなす。
（大学以外の教育施設等における学修）
第１５条　学則第１３条の６の規定に基づき、大学以外の教育施設等において学修しようとする学生は、学類長に願い出なければならない。
２　学類長は、前項に規定する願い出について審査及び当該教育施設等と協議のうえ、学

修を許可することができる。
３　前項に規定する学修は、本学類の授業科目を履修したものとみなし、単位を与えることができる。
（入学前の既修得単位等の認定）
第１６条　学則第１３条の７第１項の規定に基づき、単位の認定を受けようとする学生は、単位修得証明書及び成績証明書を添え学類長に願い出なければならない。
２　学則第１３条の７第２項の規定に基づき、単位の認定を受けようとする学生は、本学類の指定する書類を添え、学類長に願い出なければならない。
３　学類長は、前２項に規定する願い出について審査のうえ、本学類の授業科目を履修したものとみなし、単位を与えることができる。
（他学類の授業科目の履修）
第１７条　他学類の授業科目を履修しようとする学生は、当該他学類が認める授業科目の中から履修することができる。
２　前項の規定により修得した単位は、前３条により本学類において修得したものとみなす単位数と合わせて６０単位を超えない範囲で本学類において修得したものとみなす。

第５章　成績の評価及び単位の授与

（成績の評価及び単位の授与）
第１８条　履修した授業科目の成績の評価は、当該授業を担当した教員が行い、単位は、学則第１５条の規定に基づき、学類長が授与する。

第６章　留学及び転学類

（留学）
第１９条　学則第２４条の２の規定に基づき留学した期間は、本学類に在学したものとみなす。
（転学類）
第２０条　学則第２４条の規定に基づき、他の学類に転出しようとする学生は、学類長に願い出なければならない。

第７章　卒業

（卒業の要件）
第２１条　学類長は、次の各号の一に掲げる者を本学類所定の課程を修めたものと認めるものとする。
一　本学類に４年以上在学し、別表１（外国人留学生にあっては別表２）に定める単位数以上の単位を修得した者
二　第５条から第７条までの規定に基づき入学等をした者で本学類に所定の期間在学し、第８条第２項に規定する単位数以上の単位を修得した者
（卒業の時期）
第２２条　卒業の時期は、３月又は９月とする。

第８章　特別聴講学生等

（特別聴講学生）
第２３条　学類長は、学則第３７条の２の規定に基づき他の大学又は短期大学若しくは高等専門学校の学生が本学類の授業科目を履修したい旨願い出たときは、教員会議の議及

び当該他の大学又は短期大学若しくは高等専門学校との協議を経て許可することができる。

（本学研究科学生の履修）

第２４条　本学研究科の学生が、本学類の授業科目を履修しようとするときは、学類長に願い出なければならない。

２　学類長は、前項に規定する願い出について、教員会議の議を経て授業科目の履修を許可することができる。

第９章　雑則

（規程の改正）

第２５条　この規程を改正しようとするときは、教員会議の議を経なければならない。

（補則）

第２６条　この規程に定めるもののほか、本学類に関し必要な事項は、教員会議の議を経て学類長が定める。

附　則

この規程は、平成１７年４月１日から施行し、平成１７年度の入学に係る者から適用する。

附　則

この規程は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則

１　この規程は、平成２１年４月１日から施行する。

２　平成２０年度以前の入学者については、この規程による改正後の福島大学共生システム理工学類規程（以下「改正理工学類規程」という。）第３条第２項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

３　改正理工学類規程別表第１・別表第２（第８条）及び別表３（第１１条）の規定は、平成２１年度入学生から適用し、平成２１年３月３１日から引き続き在学する者にあっては、なお、従前の例による。

附　則

１　この規程は、平成２１年７月８日から施行し、平成２１年４月１日から適用する。

２　この規程による改正後の福島大学共生システム理工学類規程別表３（第１１条）の規定は、平成２１年度入学生から適用し、平成２１年３月３１日から引き続き在学する者にあっては、なお、従前の例による。

附　則

１　この規程は、平成２２年４月１日から施行する。

２　この規程による改正後の福島大学共生システム理工学類規程別表３（第１１条）の規定は、平成２２年度入学生から適用し、平成２２年３月３１日から引き続き在学する者にあっては、なお、従前の例による。

附　則

１　この規程は、平成２２年５月２４日から施行し、平成２２年４月１日から適用する。

２　この規程による改正後の福島大学共生システム理工学類規程別表３（第１１条）の規定は、平成２１年度入学生から適用し、平成２１年３月３１日から引き続き在学する者にあっては、なお、従前の例による。

福島大学試験規則

制定　昭和 44 年３月 18 日

改正　昭和 61 年 4 月 1 日　平成 11 年 3 月 16 日　平成 14 年 2 月 19 日
平成 16 年 4 月 1 日　平成 17 年 2 月 15 日　平成 17 年 11 月 15 日
平成 18 年 3 月 7 日

（趣旨）

第１条　この規則は、福島大学学則（昭和２４年６月１日制定。以下「学則」という。）第１５条第２項の規定に基づき、福島大学の試験に関し、必要な事項を定める。

（試験の方法）

第２条　単位の認定は、試験によって行う。試験は、原則として筆記試験とするが、科目によっては、レポート又は実技等によることができる。

２　前項の規定にかかわらず平常の成績をもって試験に代えることができる。

（試験の期間）

第３条　試験は次のとおりとする。

一　正規試験

二　平常試験

２　正規試験は正規試験期間及び補講期間（以下「試験期間」という。）に行う試験で第７条及び第１０条の規定が適用される試験をいい、平常試験は授業期間または補講期間等に行う試験で第７条及び第１０条の規定が適用されない試験をいう。

３　正規試験の科目は試験期間開始日の２週間前までに、試験日程は試験期間開始日の１週間前までに発表する。

４　教育実習及び学則第２４条の２に定める留学等の特別の理由により正規試験を受験できない場合は、前項の日程とは別に正規試験の受験を認めることがある。この場合の試験日程については、別に発表する。

５　前項の試験を受験しようとする者は、各学類等が指定した期日までにその旨を願い出なければならない。

（受験資格等）

第４条　試験を受けることができる科目は、あらかじめ履修登録を行っている科目とする。この場合において、試験の科目によっては、出席時数を受験資格の条件とすることがある。

２　正規試験（前条第４項に規定する試験を含む。以下「正規試験」という。）を受験しなかった場合は、第７条の規定により追試験を認められた場合及び福島大学単位認定規程（平成１７年２月１７日制定）第２条第３項の規定により未完了の手続きが認められた場合を除き、試験期間終了の翌日で不合格とみなす。

（不合格科目の受験）

第５条　不合格科目を再び受験しようとする場合には、改めて履修登録をしなければならないものとする。

第６条　削　除

（追試験）

第７条　病気その他やむを得ない事情により正規試験を受験できなかった者については、追試験を認めることがある。この場合において、追試験を受験しようとする者は、試験期間及び当該期間終了の翌日（土曜日に当たる時は翌々日、日曜日に当たるときは翌日）までに、追試験受験願（病気の場合は医師の診断書を、その他の場合はその証明書等を添付）を提出しなければならない。

２　追試験は、当該学期末の各学類等が指定した期日に行う。

第８条　削　除

（単位の認定）

第９条　単位の認定に関する規程は、別に定める。

（不正行為）

第１０条　正規試験において受験者が不正行為をした場合は、その学期における当人の総ての履修登録を取り消し、学則に基づき懲戒を行うものとする。

附　則

１　この規程は、昭和 44 年３月 18 日から施行し、昭和 44 年４月１日から適用する。

２　福島大学教育学部試験規程及び福島大学経済学部試験規程は、この規程適用の日から廃止する。

附　則

この規程は、昭和 61 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 11 年３月 16 日から施行する。

附　則

この規程は、平成 14 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 16 年４月１日から施行する。

附　則

１　この規則は、平成１７年４月１日から施行する。

２　平成１７年３月３１日から引き続き在学する者及び福島大学学則（昭和２４年６月１日制定）第２０条から第２１の２の規定に基づき教育学部，行政社会学部または経済学部に入学した者に係る第４条，第６条及び第８条から第１０条の規定は、この規則による改正後の福島大学試験規則にかかわらず、なお、従前の例による。この場合において，第４条の規定に基づき出席時数の不足により受験資格を失ったとき及び正規試験を受験できなかった者で第７条の規定に基づく追試験の手続きを行わなかったときは，当該科目を無効とし，また，不正行為をした場合は，その学期における当人の全ての履修登録科目を無効とし，学則に基づき懲戒を行うものとする。

附　則

この規則は、平成 17 年 11 月 15 日から施行し、平成 17 年 10 月１日から適用する。

附　則

この規則は、平成 18 年４月１日から施行する。

福島大学試験規則に基づき「病気その他やむを得ない事情」として
認めることがある場合の運用について

平成１７年３月３日　　専門教育委員会
平成１８年９月１２日　教 務 協 議 会
平成２１年７月２７日　教 務 協 議 会
平成２４年３月２１日　教 務 協 議 会
平成２５年２月２１日　教 務 協 議 会

１．福島大学試験規則第７条第１項にいう「病気その他やむを得ない事情」として審査を行う場合は，この運用により行うものとする。
２．「病気その他やむを得ない事情」とは，次の事項をいう。追試験受験を希望する者は，所定の追試験受験願に欠席の理由を証明できる証明書等を添えて学類が指定する期間に提出しなければならない。なお，追試験の受験を願い出てきた者の審査は，副学長が行う。

一　本人の病気や怪我
（世帯主もしくは配偶者のある者にあっては，一親等内の病気や怪我を含む。）
二　配偶者又は三親等内の親族の病気又は怪我で，看護を要するとき。
三　配偶者又は三親等内の親族の死亡による忌引き
四　天災その他の非常災害
五　交通機関の突発事故
（電車，バス等の公的機関に限る。）
（ただし証明書を取得することが困難な事情にあった者で，審査者が面談等により当該交通機関を利用していたものと認めた者を含む。）
六　会社説明会及び就職試験出席（試験地への移動日を含む。）
七　社会人については，やむを得ない残業又は出張
八　妊娠・出産
九　大学が単位認定を行う学外の研修に参加する場合
十　公的機関が行う海外派遣事業に，部局長の承認を得て参加した場合
十一　日本学生陸上競技対校選手権大会等，国民体育大会以上の大会に出場した場合
十二　裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
十三　その他適当と認められる特別の理由

学生受験心得

（入室時間）

１．毎試験開始５分前までに試験室に入ること。

（遅　　刻）

２．３０分以上遅刻した者は、原則として入室を認めない。

（試 験 室）

３．指定された試験室で受験しなければならない。

（学生証の携帯）

４．必ず学生証を携帯して入室し、机上の見やすいところに置くこと。学生証を携帯しない者は、受験することができない。なお、身分証明書をもって学生証に代えることはできない。

（不用品の携帯禁止）

５．別段の指示のない限り、受験に不用の品を携帯してはならない。なお、携帯電話等は電源を切って指定の場所に置くこと。

（受験者の外出）

６．受験中は監督者の許可がなければ試験室外に出てはならない。

（退室時間）

７．試験開始後３０分以上経過しなければ退室してはならない。

（試験時間終了前の答案提出）

８．試験時間終了前に、答案を作成し終わったときは、答案を所定の場所に提出して退室すること。

（試験時間終了時の答案提出）

９．試験時間が終了した時は、ただちに答案作成の作業をやめて答案を所定の場所に提出すること。受験者はいかなる場合も答案を試験室外に持ち出してはならない。

（不正行為）

１０.試験室内で不正と思われる行為があったと認められたときは、監督者の指示に従うこと。

（そ の 他）

１１．その他一切の疑問に関しては監督者の指示に従うこと。

１２．試験の妨げになるので、退室後の私語は慎むこと。

不正行為に該当する行為について

次の行為は不正行為となります。留意してください。

１．カンニング（カンニングペーパーや参考書、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わること　等）をすること。

２．持込みが許可されていない教科書、参考書、ノート、プリント、辞書、その他の資料等をポケット等に所持すること、又は机の中に入れておくこと。

３．他人の代わりに受験すること、又は他人に自分の身代りとして受験させること。

４．使用が許可された参考書等を試験中に貸借する行為。

５．机や壁、身体等に不正な書き込みをすること。

６．試験時間中に答えを教えるなどの他の受験者を利するような行為をすること。

７．他人の答案用紙と交換すること。

８．私語や動作等によって不正な連絡をすること。

９．携帯電話、パソコン、電子辞書、その他情報通信機器を使用すること。

１０.試験室において､試験監督者等の指示に従わず他の受験者の迷惑となる行為をすること。

１１．その他、試験の公平性を損なう行為。

不正行為と認定された場合は、不正行為のあった日から１か月以内の停学処分となり、その学期における総ての履修登録科目が取り消されます。

福島大学単位認定規程

平成１７年２月１７日
改正　平成２９年３月１７日
改正　平成３１年１月２２日

(趣旨)

第１条　この規程は、福島大学試験規則(昭和４４年３月１８日制定。以下「試験規則」という。)第９条の規定に基づき、単位の認定に関し、必要な事項を定める。

(履修登録)

第２条　学生は、受講する科目について、所定の期間に履修登録の手続を行わなければならない。

２　履修登録を撤回しようとする時は、所定の期間に履修登録撤回の手続を行わなければならない。

３　前項に規定する期間を過ぎてから、病気や事故などやむを得ない理由及び休学や留学などで受講を継続することが困難になった場合については、所定の期間に同項の手続を行うことがある。

(単位の認定)

第３条　単位の認定は、各科目について次の５段階で評価し、ＳからＣを合格とする。

評語	学修成果	評点
S	単位認定基準を満たし、かつ、全ての項目で優秀な学修成果をあげた	90点～100点
A	単位認定基準を満たし、かつ、多くの項目で優秀な学修成果をあげた	80点～89点
B	単位認定基準を満たし、かつ、いくつかの項目で優秀な学修成果をあげた	70点～79点
C	単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた	60点～69点
F	単位認定基準の学修成果をあげられなかった	59点以下

２　評価は、筆記試験、論文、報告書、実技又は平常の成績等によって行う。

３　受講する科目の欠席時数が当該科目の総授業時数の３分の１を超えた場合は、原則として当該科目の単位認定は行わない。

４　第１項に規定する評価以外に、教育実習等に合格した場合は「G」で、他大学等で修得した科目等を認定された場合は「N」で評価する。

(授業料未納期間の単位認定)

第４条　福島大学学則(昭和２４年６月１日制定。以下「学則」という。)第２６条第１項の規定により除籍された者のうち、授業料未納期間にかかる単位の認定はしないものとする。ただし、学則第２６条第１項第５号により除籍された者で再入学を許可された者が、当該未納期間の授業料に相当する額を納入した場合は、その期間にかかる単位を認定するものとする。

附　則

１　この規程は、平成１７年４月１日から施行する。

２　平成１７年３月３１日から引き続き在学する者及び福島大学学則(昭和２４年６月１日制定。)第２０条から第２１条の２の規定により教育学部、行政社会学部及び経済学部に入学を許可される者に係わる単位認定の評価基準は、第３条の規定にかかわらず、次のとおりとし、可以上を合格とし、不可を不合格とする。また、改正前の試験規則第６条に基づく試験及び再試験に合格した者の成績は、５０点とし、出席時数の不足により受験資格を失った場合または正規試験を受験しなかった場合で試験期間終了の翌日までに追試験の手続きを行わなかった場合は、当該科目を無効とし、不正行為をした場合は、その学期における当人の全ての履修登録科目を無効とするものとする。

評価	基準
優	１００点を満点として８０点から１００点まで
良	１００点を満点として６０点から７９点まで
可	１００点を満点として５０点から５９点まで
不可	１００点を満点として５０点未満

附　則

この規程は、平成２９年４月１日から施行する。

附　則

１　この規程は、平成３１年４月１日から施行する。

２　平成３１年３月３１日から引き続き在学する者及び福島大学学則(昭和２４年６月１日制定。)第２０条から第２１条の２の規定により、平成３２年度までに人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類及び共生システム理工学類に入学を許可される者に係わる単位認定の評価基準は、第３条の規定にかかわらず、次のとおり５段階で評価し、AからDを合格とする。また、改正前の本規程第２条第３項に基づく未完了の手続きについても引き続き適用する。

評価	基準
A	きわめて優秀
B	優秀
C	望ましい水準に達している
D	望ましい水準に達していないが不合格ではない
F	不合格

「未完了」手続きの許可に関する運用について

平成１７年２月１７日　　専門教育委員会

１．福島大学単位認定規程（平成１７年２月１７日制定）第２条第３項の規定に基づく「未完了」手続きの許可は，この運用により行うものとする。

２．「未完了」の手続きは，次の各号の一に該当する場合について許可することができる。

一　本人の疾病や事故
（医師の診断書等その事実を証明する書類を必要とする。）

二　外国の大学等で学習するとき
（入学許可書等の証明書を必要とする。）

三　社会人の学生で勤務又は家庭の事情によって修学が困難であるとき
（勤務先の証明書又は理由書を必要とする。）

四　休学により受講を継続することが困難になったとき
（休学願の写及び証明書類の写を必要とする。）

五　その他適当と認めたとき

授業の欠席に関する取り扱い

平成３１年1月２２日　教務協議会

１．次の各号の理由により授業を欠席する場合は、一定の様式に基づく届けを提出することにより福島大学単位認定規程第３条第３項に規定する欠席時数として算入しないこととする（但し、集中講義を除く）。

（１）教育職員免許法上の必修科目である「教育実習」、「介護等体験」、児童福祉法上の必修科目である「保育実習」及び公認心理師法上の必修科目である「心理実習」に参加する場合

（２）学校保健安全法の規定に基づく学長による出席停止の指示に従う場合

（３）裁判員制度による裁判員及び裁判員候補者に選任された場合

（４）親族が死亡した場合で、葬儀その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事等のために通学ができないとき（＊）

２．上記の他に欠席時数として算入しない取り扱いとする場合は、全学教務協議会でこれを認定する。

３．上記の理由により欠席した学生については、当該科目担当教員は単位の認定上不利益とならないよう代替措置を講じるものとする。

４．この取り扱いは平成３１年度から適用する。

５．この取り扱いの制定に伴い、「『公欠』についての申し合わせ」は廃止する。

（＊）１（４）の親族の範囲は、①配偶者、②一親等（父母、子）、③二親等（祖父母、兄弟姉妹、孫）とし、その期間は、親族の範囲が①、②の場合、連続７日間（休日を含む）の範囲内の期間、③の場合、連続３日間（休日を含む）の範囲内の期間とする。

共生システム理工学類の卒業研究に関する取扱要項

制定　平成１７年1月２６日
改正　平成２１年2月１８日

第１条　学生は卒業研究を行わなければならない。卒業研究の実施に当たっては，１年６ヶ月にわたり同一の指導教員の指導及び審査を受けなければならない。ただし，関係委員会で必要と認めた場合には，この限りではない。

第２条　卒業研究の実施資格は，指導と審査を受けることを希望する教員の研究室に配属し，その指導教員の開講する「演習Ⅰ（２単位）」の単位を取得した者に与えられる。

第３条　卒業研究の実施資格を得た者は，指導教員の開講する「演習Ⅱ（２単位）」，「卒業研究Ⅰ（２単位）」，「卒業研究Ⅱ（２単位）」をすべて受講しなければならない。
２　「卒業研究Ⅱ（２単位）」の単位を取得するためには，卒業論文を提出しなければならない。

第４条　前第２条及び第３条によりがたい場合は，「演習Ⅰ」，「演習Ⅱ」のいずれかを２度取得することにより「演習Ⅰ」及び「演習Ⅱ」を取得したものとする。卒業研究についても同様とする。
２　前項により「演習」あるいは「卒業研究」の単位を取得した場合，先に取得したほうを「演習Ⅰ」あるいは「卒業研究Ⅰ」と読み替えるものとする。

第５条　卒業論文は所定の期日までに卒業論文題目等を記入した「卒業論文提出カード」とともに担当係に提出しなければならない。
２　卒業論文題目は，所属する専攻の専門分野に関するものでなければならない。ただし，所属する専攻以外の指導教員の指導及び審査を受ける場合は，その指導教員の専門分野に関するものを含めることができる。

第６条　卒業論文の審査にあっては，論文に関する口述試験を行うことがある。

附　則
この要項は，平成１７年４月１日から施行する。

附　則
この要項は，平成２１年４月１日から施行する。

平成 31 年 4 月 1 日更新

２０１８年度入学生までの
英語に係る技能審査の単位認定に関する要項

制定　平成１７年２月１７日　専門教育委員会
改正　平成１９年３月５日
改正　平成２３年２月２２日　教務協議会
改正　平成２４年２月２９日　教務協議会
改正　平成２８年７月２０日　教務協議会
改正　平成３１年３月２０日　教務協議会

（趣旨）

第１条　この要項は、福島大学学則（以下「学則」という。）第１３条の６第３項の規定に基づき、英語に係る技能審査の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（単位を認定する技能審査）

第２条　本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する技能審査は、次のとおりとする。

一　実用英語技能検定
二　ＴＯＥＩＣ
三　ＴＯＥＦＬ（ｉＢＴ）
四　ＩＥＬＴＳ
五　国際連合公用語英語検定試験

（単位を認定する授業科目及び単位数等）

第３条　在学中に当該試験に合格又は規定以上のスコアを取得した学生は、申請により、単位認定を受けることができる。単位を認定する級及びスコア並びに認定できる単位数については別表のとおりとする。

２　前項により与えることのできる単位のうち自由選択領域４単位を限度として卒業に必要な単位に含めることができる。

３　前２項により与えることのできる単位数は、学則第１３条の５第１項及び第２項並びに同第１３条の７第１項及び第２項の規定により本学において修得したものとみなすことのできる単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

４　単位は、福島大学単位認定規程（平成１７年２月１７日制定）に基づき、「Ｎ」で評価する。

（単位認定の申請期間）

第４条　単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に合格証明書等の書類を添えて次の期日までに提出しなければならない。

一　申請時期が前期　８月１日より１週間（１日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）
二　申請時期が後期　１月１０日より１週間（１０日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

（単位の認定方法）

第５条　単位の認定可否は、教務委員が判定する。

（単位の通知）
第６条　単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

附　則
この要項は、平成１７年４月１日から施行し、平成１７年度の入学に係る者から適用する。
附　則
この要項は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則
この要項は、平成２３年４月１日から施行する。
附　則
この要項は、平成２４年４月１日から施行する。
附　則
この要項は、平成２８年７月２０日から施行する。
附　則
この要項は、平成３１年４月１日から施行し、２０１８年度までの入学に係る者までの適用とする。（２０２０年度編入学生までを含む）

別表

資格試験名	級・点数	科目区分	認定単位数
実用英語技能検定 （日本英語検定協会）	準１級以上	自由選択 領域科目	４単位
ＴＯＥＩＣ （Educational Testing Service）	600 点以上	自由選択 領域科目	４単位
ＴＯＥＦＬ（ｉＢＴ） （Educational Testing Service）	62 点以上	自由選択 領域科目	４単位
ＩＥＬＴＳ （International English Language Testing System）	5.5 点以上	自由選択 領域科目	４単位
国際連合公用語英語検定試験 （日本国際連合協会）	Ｂ級以上	自由選択 領域科目	４単位

平成 31 年 4 月 1 日更新

２０１８年度入学生までの
英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関する要項

制定　平成１７年２月１７日専門教育委員会
改正　平成１８年４月１日
改正　平成２３年２月２２日教務協議会
改正　平成２６年３月２０日教務協議会
改正　平成３１年２月２０日教務協議会

（趣旨）

第１条　この要項は，福島大学学則（以下「学則」という。）第１３条の６第３項の規定に基づき，英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関し，必要な事項を定めるものとする。

（単位を認定する技能審査）

第２条　本学における授業科目の履修とみなし，単位を認定する技能審査は，次のとおりとする。

一　ドイツ語技能検定試験
二　共通ヨーロッパ語学証明書―ドイツ語
三　実用フランス語技能検定試験
四　フランス文部省認定フランス語資格試験
五　中国語検定試験
六　ＨＳＫ漢語水準考試
七　ロシア語能力検定公開試験
八　スペイン語技能検定
九　韓国語能力試験
十　日本語能力試験

（単位を認定する級，授業科目及び単位数等）

第３条　当該試験に合格した学生は，申請により，単位認定を受けることができる。単位を認定する級及び授業科目並びに認定できる単位数は，別表のとおりとする。

２　前項により与えることのできる単位数は，学則第１３条の５第１項及び第２項並びに同第１３条の７第１項及び第２項の規定により本学において修得したものとみなすことのできる単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

３　単位は，福島大学単位認定規程（平成１７年２月１７日制定）に基づき，「N」で評価する。

（単位認定の申請期間）

第４条　単位の認定を申請する者は，所定の単位認定願に合格証明書等学修の成果を明らかにする書類を添えて次の期日までに提出しなければならない。

一　入学前の申請　入学前年度の３月３１日まで（３１日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）
二　入学後の申請
　①　申請時期が前期　８月１日より１週間（１日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）
　②　申請時期が後期　１月１０日より１週間（１０日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

（単位の認定方法）

第５条　単位の認定可否は，当該言語の責任教員が判定する。

（単位の通知）

第６条　単位の認定結果は，成績通知書により通知する。

附　則

この要項は，平成１７年４月１日から施行し，平成１７年度の入学に係る者から適用する。

附　則

この要項は，平成１８年４月１日から施行し，平成１７年度の入学に係る者から適用する。

附　則

この要項は，平成２３年４月１日から施行し，平成１７年度の入学に係る者から適用する。

附　則

この要項は，平成２６年４月１日から施行し，平成１７年度の入学に係る者から適用する。

附　則

この要項は，平成３１年４月１日から施行し，平成１７年度の入学に係る者から適用する。

別表

資格試験名	級	科目名	認定単位数
ドイツ語技能検定試験 （ドイツ語学文学振興会）	４級	初級Ⅰ・Ⅱ	４単位
	３級	中級	４単位
共通ヨーロッパ語学証明書－ドイツ語 （欧州理事会文化協調会議教育委員会）	Ａ１※	初級Ⅰ・Ⅱ	４単位
	Ａ２※	中級	４単位
実用フランス語技能検定試験 （フランス語教育振興協会）	５級	初級Ⅰ	２単位
	４級	初級Ⅱ	２単位
	３級	中級	４単位
フランス文部省認定フランス語資格試験 DELF・DALF（DELF・DALF 委員会）	Ａ１	初級Ⅰ・Ⅱ	４単位
	Ａ２	中級	４単位
中国語検定試験 （日本中国語検定協会）	準４級	初級Ⅰ	２単位
	４級	初級Ⅱ	２単位
	３級	中級	４単位
ＨＳＫ漢語水準考試 （孔子学院総部／国家漢弁）	１級	初級Ⅰ	２単位
	２級	初級Ⅱ	２単位
	３級	中級	４単位
ロシア語能力検定公開試験 （東京ロシア語学院）	４級	初級Ⅰ・Ⅱ	４単位
	３級	中級	４単位
スペイン語技能検定 （日本スペイン協会）	６級	初級Ⅰ	２単位
	５級	初級Ⅱ	２単位
	４級	中級	４単位
韓国語能力試験 （韓国教育財団）	１級	初級Ⅰ	２単位
	２級	初級Ⅱ	２単位
	３級	中級	４単位
日本語能力試験（注２） （日本国際教育支援協会）	Ｎ１	日本語Ⅰ	２単位

※Ａ１(Start Deutsch 1 または Fit in Deutsch 1)、※Ａ２(Start Deutsch 2)

注）１　単位を認定された授業科目の級以下の授業についても合わせて単位を認定する。
また、別表記載の資格試験の級より上位の級に合格したものについても、同様に単位を認定する。
ただし，本学ですでに単位を修得した授業科目及び単位認定を受けた授業科目について，重ねて単位認定は行わない。

２　日本語は外国人留学生に限る。

平成 31 年 4 月 1 日更新

英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項

制定　平成１７年２月１７日　専門教育委員会
改正　平成２９年６月２７日　教務協議会
改正　平成３１年３月２０日　教務協議会

（趣旨）
第１条　この要項は，英語の語学研修に係る学修の単位認定に関し，必要な事項を定めるものとする。

（単位を認定する語学研修）
第２条　本学における授業科目の履修とみなし，単位を認定する語学研修は，次のとおりとする。
一　本学が実施する短期語学研修
二　その他前号に準ずる短期語学研修

（単位を認定する授業科目及び単位数等）
第３条　当該研修を修了した学生は，申請により，単位認定を受けることができる。
２　前項により与えることのできる単位のうち自由選択領域科目または自由選択２単位を限度として卒業に必要な単位に含めることができる。
３　単位は，福島大学単位認定規程（平成１７年２月１７日制定）に基づき，「N」で評価する。

（単位認定の申請期間）
第４条　単位の認定を申請する者は，所定の単位認定願に講座実施機関発行の修了書またはそれに代わるものを添えて次の期日までに提出しなければならない。
一　申請時期が前期　８月１日より１週間（１日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）
二　申請時期が後期　１月１０日より１週間（１０日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

（単位の認定方法）
第５条　本学の教務委員は，次に掲げる条件を満たす場合において，単位を認定する。
一　事前・事後指導が行われていること
二　出発以前に所定の計画書を教務委員に提出し，承認を得ること

（単位の通知）
第６条　単位の認定結果は，成績通知書により通知する。

附　則
この要項は，平成１７年４月１日から施行し，平成１７年度の入学に係る者から適用する。
附　則
この要項は，平成２９年６月２７日から施行する。
附　則
この要項は，平成３１年４月１日から施行する。

平成 31 年 4 月 1 日更新

２０１８年度入学生までの

英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項

制定　平成１７年２月１７日専門教育委員会
改正　平成２１年２月１７日教 務 協 議 会
改正　平成３１年２月２０日教 務 協 議 会

（趣旨）

第１条　この要項は，英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関し，必要な事項を定めるものとする。

（単位を認定する外国語の語学研修）

第２条　本学における授業科目の履修とみなし，単位を認定する研修は，次のとおりとする。

一　当該言語圏の信頼すべき機関が開設する授業時数２０時間以上の外国語講座

二　当該言語圏の信頼すべき機関が開設する授業時数２０時間以上の文化講座

（単位を認定する授業科目及び単位数等）

第３条　当該研修を修了した学生は，申請により，単位認定を受けることができる。

２　前項により与えることのできる単位のうち中級又は上級４単位を限度として卒業に必要な単位に含めることができる。

３　単位は，福島大学単位認定規程（平成１７年２月１７日制定）に基づき，「N」で評価する。

（単位認定の申請期間）

第４条　単位の認定を申請する者は，所定の単位認定願に講座実施機関発行の修了書またはそれに代わるものを添えて次の期日までに提出しなければならない。

一　申請時期が前期　９月２０日より１週間（２０日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

二　申請時期が後期　３月２０日より１週間（２０日が土・日・祝日の場合はその翌日とする）

（単位の認定方法）

第５条　本学の各外国語責任教員は，次に掲げる条件を満たす場合において，単位を認定する。

一　事前指導を受けていること

二　当該外国語初級Ⅱの単位を修得後に行った研修であること，又は当該外国語初級Ⅱを履修中，正規試験期間終了後に行った研修であること。ただし，後者の場合，当該学期に初級Ⅱの単位を修得しなければならない。

三　出発以前に所定の計画書を責任教員に提出し，承認を得ていること

四　研修終了後，レポートを提出し，当該言語の責任教員の指導を受けていること

（単位の通知）

第６条　単位の認定結果は，成績通知書により通知する。

附　則

この要項は，平成１７年４月１日から施行し，平成１７年度の入学に係る者から適用する。

附　則

この要項は，平成２１年２月１７日から施行する。

附　則

この要項は，平成３１年４月１日から施行する。

大学間相互単位互換に関する取扱規則

制定　平成10年4月21日

改正　平成13年5月15日　　平成14年3月5日　平成16年5月11日　平成16年9月21日
平成17年4月1日

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規則は、福島大学学則第13条の５第３項、第13条の６第３項及び第37条の２第２項の規定に基づき、他の大学、短期大学又は高等専門学校（以下「他の大学等」という。）における授業科目の履修及び特別聴講学生の取扱いについて、大学間相互単位互換を行う場合の必要な事項を定めるものとする。

（協議）

第２条　本学の学生が他の大学等における授業科目を履修及び当該他の大学等の学生が本学の授業科目を履修する場合、学類長は学長の承認を得て、あらかじめ当該他の大学等と次の各号に掲げる事項について協議するものとする。

一　履修対象科目及び単位数
二　履修期間
三　対象となる学生数
四　単位の認定方法
五　検定料、入学料及び授業料
六　学生の身分
七　その他必要な事項

（共通教育委員会との協議）

第３条　学類長は、前条第１号に定める履修対象科目が次の各号のいずれかに該当する場合はあらかじめ共通教育委員会との協議を経るものとする。

一　他の大学等から呈示された授業科目を、本学の共通領域の科目として履修対象科目にする場合
二　本学の共通領域の科目を、他の大学等に履修対象科目として呈示する場合

第２章　他の大学等における授業科目の履修

（履修対象科目の位置付け）

第４条　学類教員会議は、他の大学等の履修対象科目を共通領域、専門領域又は自由選択領域の科目及び選択科目又は自由科目に位置付けるものとする。

（履修許可申請手続）

第５条　他の大学等で授業科目を履修しようとする者は、履修願（別紙様式）を学類長に提出しなければならない。

（受入れ依頼）

第６条　学類長は、前条の規定により他の大学等の授業科目の履修願を受理した学生について、選考の上、当該他の大学等へ受入れを依頼するものとする。

（履修の許可）

第７条　他の大学等において授業科目を履修することの許可は、当該他の大学等の承認を得て学類長が行い、学長に報告するものとする。

（履修期間）

第８条　他の大学等の授業科目の履修を許可する期間は、１年以内とする。

（履修許可の取消し）

第９条　他の大学等の授業科目の履修を許可され履修中の者が、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該他の大学等との協議により履修許可を取り消すことがある。

一　成業の見込みがないと認められる場合

二　学生としての本分に反した場合

三　その他履修が困難と認められる事情が生じた場合

２　学類長は、前項の規定により他の大学等の授業科目の履修許可を取り消した場合、学長へ報告するものとする。

（単位の認定）

第１０条　他の大学等において修得した単位の本学での認定は、当該他の大学等との協議に基づき交換する資料等により学類長が行うものとする。

２　学類長は、前項の結果を学長に報告するものとする。

（授業料の納付）

第１１条　他の大学等の授業科目の履修を許可された者は、当該期間中においても本学で規定する授業料を納付しなければならない。

第３章　特別聴講学生

（受入れの許可）

第１２条　特別聴講学生の受入れの許可は、学類教員会議の議を経て学類長が行い、学長に報告するものとする。

（受入れ許可の時期）

第１３条　特別聴講学生の受入れ許可の時期は、原則として学年の始めとする。

（履修許可期間）

第１４条　特別聴講学生の履修を許可する期間は、１年以内とする。

（成績の通知）

第１５条　学類長は、特別聴講学生が履修した授業科目の成績を、当該学生が所属する他の大学等の学類長等へ通知するものとする。

（受入れの取消し）

第１６条　特別聴講学生が履修期間中において本学の諸規程に違反した場合は、当該学生が所属する他の大学等と協議のうえ、受入れを取り消すことがある。

２　学類長は、前項の規定により特別聴講学生の受入れを取り消した場合、学長に報告するものとする。

（準用規定）

第１７条　この規則に定めるもののほか、特別聴講学生については、本学の諸規程のうち学生に関する規定を準用する。

第４章　補則

（規則の改正）

第１８条　この規則を改正しようとするときは、共通教育委員会及び学類教員会議の議を経なければならない。

附　則

１　この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

２　平成 17 年 3 月 31 日から引き続き在学する者及び福島大学学則第 20 条から第 21 条の 2 の規定に基づき教育学部、行政社会学部又は経済学部に入学した者については、改正後の第 3 条及び第 4 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

簿記に係る技能審査の単位認定に関する要項

制定　平成２５年　２月２１日　教務協議会

（趣旨）
第１条　この要項は、福島大学学則（以下「学則」という。）第 13 条の 6 第 3 項及び第 13 条の 7 第 4 項の規定に基づき、簿記に係る技能審査の単位認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（単位を認定する技能審査）
第 2 条　経済経営学類における授業科目の履修とみなし、単位を認定する技能審査は、日本商工会議所簿記検定試験（1 級又は 2 級）又は全国商業高等学校協会簿記実務検定試験（1 級）とする。

（単位を認定する授業科目及び単位数等）
第 3 条　当該試験に合格した者（入学前の合格を含む）は、申請により単位認定を受けることができる。
2　前項により与えることのできる単位は、経済経営学類基礎科目の「企業と簿記会計Ⅰ」２単位、「企業と簿記会計Ⅱ」２単位とし、人間発達文化学類生及び行政政策学類生が対象となる場合には、それぞれ学群共通科目２単位、開放科目２単位として認定する。ただし、共生システム理工学類生が対象となる場合には、「企業と簿記会計Ⅱ」のみ開放科目２単位として認定する。
3　前 2 項により与えることのできる単位数は、学則第 13 条の 5 第 1 項及び第 2 項並びに同第 13 条の 7 第 1 項及び第 2 項の規定により本学において修得したものとみなすことのできる単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。
4　単位は、福島大学単位認定規程（平成 17 年 2 月 17 日制定）に基づき、「N」で評価する。

（単位認定の申請期間）
第 4 条　単位の認定を申請する者は、所定の単位認定願に各検定試験の合格証を添えて所定の期間内に経済経営学類担当窓口に提出しなければならない。

（単位の認定方法）
第 5 条　単位の認定可否は、経済経営学類教務委員が判定する。なお、検定試験合格を単位認定の要件とする。

（単位の通知）
第 6 条　単位の認定結果は、成績通知書により通知する。

附　則
1　この要項は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
2　この要項に関しては、現代教養コースを除く平成 25 年度の入学及び平成 27 年度 3 年次編入学に係る者から適用する。

【共生システム理工学類　ディプロマ・ポリシー】

教育目標

本学類は、従来の理工学的知識だけでは解決できない、現実の複合的な問題に対処できる人材を養成します。このような問題に対処するために、以下の能力を身に付けます。

(1) 基礎的な理工学的知識を修得し、これらを実践できる能力。

(2) 様々な立場の関係者と協同して問題に対処できる能力。

(3) 地域の問題から国際的な問題まで、様々な課題に対し、実践的な問題解決を行える能力。

それぞれの能力について、知識・技能に加えて、自分の知識・技能を客観的に評価し、また熱意をもって取り組む態度を身につけることを目標とします。

(1) 基礎的な理工学的知識については、以下の要素を修得することを目指します。

(1A)「人―産業―環境の共生」に関わるシステムサイエンスについて、講義や演習を通して学ぶ知識・技能。

(1B) 自分の知識・技能を客観的に評価し、足りない部分を自主的、継続的に学習する能力。
また、科学・技術の社会的責任を自覚し、倫理的な行動を選択できる態度。

(1C) 勉学に対する興味や熱意。

(2) 協同して問題に対処できる能力については、以下の要素を修得することを目指します。

(2A) 理系・文系等の専門領域を越えて相手の立場や主張を理解できるための知識。

(2B) 専門領域や国籍を越えて、論理的に自らの主張を述べ、あるいは主張を文書化し、
冷静な討議を通して相手の主張を理解できるコミュニケーション能力。

(2C) 協働する上で立場の違う相手へ共感する能力。

(3) 実践的な問題解決を行える能力については、以下の要素を修得することを目指します。

(3A) 現実の問題を的確に把握するための基礎的知識、様々な視点から問題の原因を解析し
解決策を実践する能力。

(3B) 現実の問題を解決するために、与えられた制約の下で必要な計画を的確に立案し、
解決の障害となる問題点を把握できる能力。

(3C) 現実の問題に積極的に関与し、解決する熱意。困難に直面しても挫けない心。

各専攻が対象とする社会的な問題と、その解決のための専門的力量は以下の通りです。

[人間支援システム専攻]

少子高齢化時代における安全で安心な社会を実現するために、情報工学や機械・電気・電子工学などの基盤的工学分野に加え、人間を理解するための心理学や生理学などを学びます。これにより、人間を支援するための医療福祉工学や、情報通信技術、ロボット技術などを修得した人材を養成します。

[産業システム工学専攻]
省資源、循環型の持続可能な社会を実現するために、化学工学、材料工学、エネルギー工学などを基礎とする環境負荷の少ないものづくり技術や、経営工学、数理科学、産業政策、環境経済などを基礎とする生産システムの構築に関する技術を修得した人材を養成します。

[環境システムマネジメント専攻]
環境に配慮した自然豊かな社会を実現するために、分析化学、生物学・生態学、地域計画などを基礎として、自然資源の確保・保全、環境の浄化、管理に関する技術を習得した人材を養成します。

【共生システム理工学類　カリキュラム・ポリシー】

共生システム理工学類は、学類 DP 達成のため、次の3つを教育の柱とします。
(1) 基礎を重視した教育(基礎科目)
(2) 協働を重視した教育(文理融合科目、自由選択科目)
(3) 実践を重視した教育(実践科目、演習、卒業研究)

これらの具体化のために、「専門領域」を、「基礎科目」、「専攻専門科目(講義科目+文理融合科目＋実践科目)」、「自由選択科目」、「演習」、「卒業研究」の 5 領域に区分します。5 領域それぞれに基礎単位を必修化すると同時に、選択科目を可能な限り拡大し、きめ細やかな修学指導を行うことによって、学生の多様な学習ニーズに対応します。
共生システム理工学類を構成する3つの専攻は、次のような教育を特色とします。
[人間支援システム専攻]
人理解を中心とする人技術の教育を主体とします。
[産業システム工学専攻]
省資源・最適生産による持続循環型産業システムの教育を主体とします。
[環境システムマネジメント専攻]
自然資源の質的・量的確保のための環境保全・浄化・管理計画の教育を主体とします。

すべての専攻の「専門領域」で、理工系の基礎・基本科目と、経営マインド、環境マインドを理解する文理融合科目を設置しています。その上で、理工系の専門科目を配置し、少人数によるきめ細やかな教育支援体制と GPA 等による達成度評価により、学生の基礎学力を保証します。

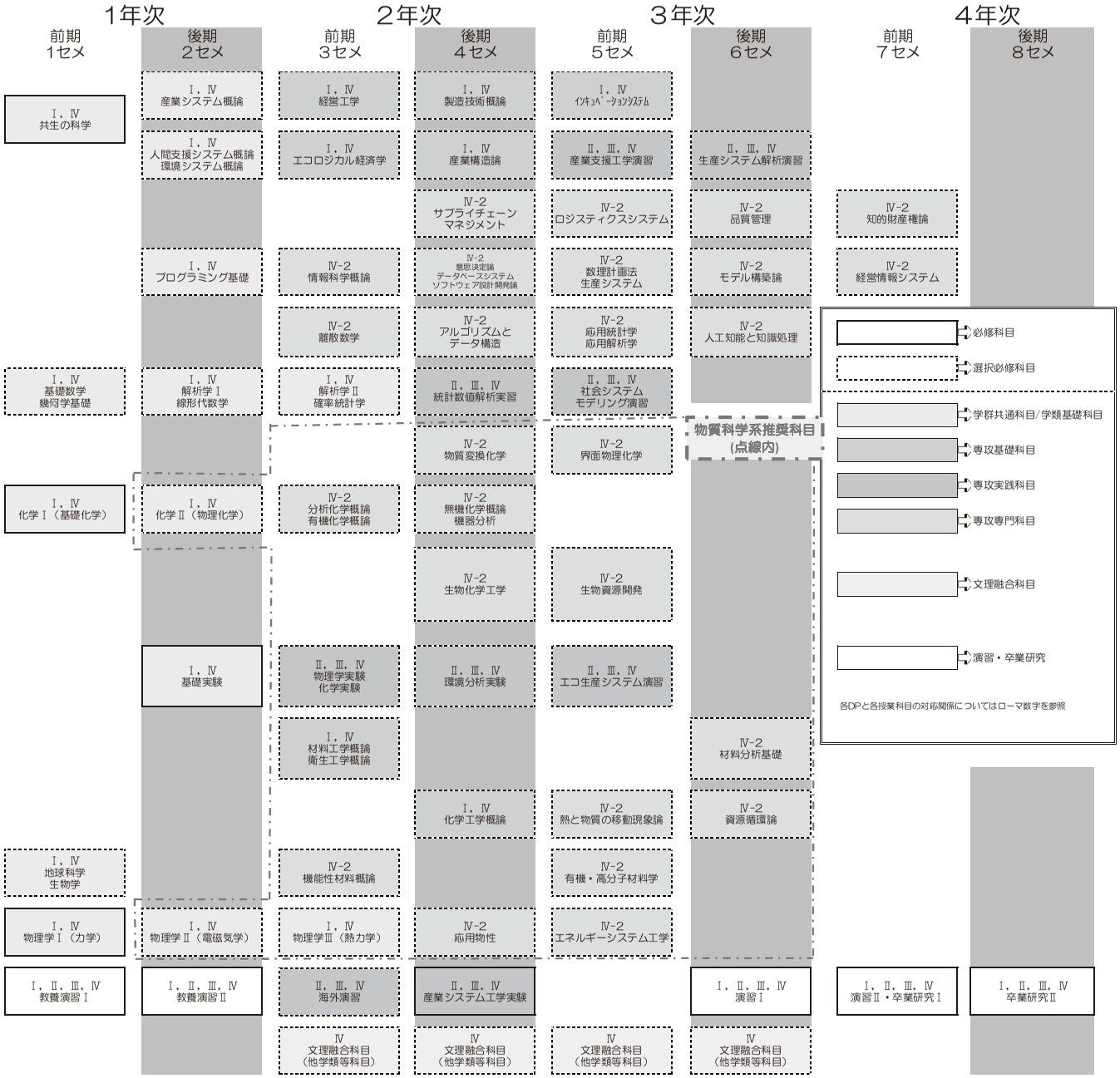
共生システム理工学類　人間支援システム専攻

1年次 前期 1セメ	1年次 後期 2セメ	2年次 前期 3セメ	2年次 後期 4セメ	3年次 前期 5セメ	3年次 後期 6セメ	4年次 前期 7セメ	4年次 後期 8セメ
Ⅰ，Ⅳ 共生の科学	Ⅰ，Ⅳ プログラミング基礎	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ プログラミングⅠ	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ プログラミングⅡ				
		Ⅳ-2 計算機システム論 情報社会と情報倫理	Ⅳ-2 データベースシステム ソフトウェア設計開発論	Ⅳ-2 ネットワークシステム 言語形式とコンパイラ	Ⅳ-2 人工知能と知識処理		
		Ⅰ，Ⅳ 情報科学概論	Ⅳ-2 アルゴリズムとデータ構造 プログラミング言語論	Ⅳ-2 マルチメディアシステム論	Ⅳ-2 情報理論		
	Ⅰ，Ⅳ 人間支援システム概論	Ⅰ，Ⅳ 心理学概論	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 生体システム実験	Ⅳ-2 サウンドスケープ			
		Ⅳ-2 脳神経科学	Ⅳ-2 システム生理学 学習心理学、認知心理学 精神生理学	Ⅳ-2 ﾋｭｰﾏﾝｲﾝﾀｰﾌｪｲｽ	Ⅳ-2 精神物理学	Ⅳ-2 生物学的心理学	
	Ⅰ，Ⅳ 産業システム概論 環境システム概論		Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 支援システム実験	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ CAD/CAM演習			
		Ⅳ-2 デジタル信号処理 電気工学	Ⅰ，Ⅳ 人間工学	Ⅰ，Ⅳ メカトロニクス			
Ⅰ，Ⅳ 物理学Ⅰ（力学）	Ⅰ，Ⅳ 物理学Ⅱ（電磁気学）	Ⅰ，Ⅳ 物理学Ⅲ（熱力学）	Ⅳ-2 電子回路	Ⅳ-2 ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ			
	Ⅰ，Ⅳ 基礎実験	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 物理学実験	Ⅳ-2 機構学	Ⅳ-2 流体力学			
		Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 化学実験	Ⅳ-2 量子力学	Ⅳ-2 統計力学			
Ⅰ，Ⅳ 化学Ⅰ（基礎化学）	Ⅰ，Ⅳ 化学Ⅱ（物理化学）						
		Ⅳ-2 材料工学概論	Ⅳ-2 材料及び固体の力学 機械材料加工学		Ⅳ-2 材料分析基礎		
Ⅰ，Ⅳ 基礎数学 幾何学基礎	Ⅰ，Ⅳ 解析学Ⅰ 線形代数学	Ⅰ，Ⅳ 解析学Ⅱ 確率統計学		Ⅳ-2 応用統計学			
Ⅰ，Ⅳ 地球科学 生物学		Ⅰ，Ⅳ 数理モデリング 離散数学	Ⅳ-2 制御工学	Ⅳ-2 応用解析学 数理計画法			
Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 教養演習Ⅰ	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 教養演習Ⅱ	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 海外演習	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 創造工房ゼミ		Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 演習Ⅰ	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 演習Ⅱ・卒業研究Ⅰ	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 卒業研究Ⅱ
		Ⅳ 文理融合科目（他学類等科目）	Ⅳ 文理融合科目（他学類等科目）	Ⅳ 文理融合科目（他学類等科目）	Ⅳ 文理融合科目（他学類等科目）		

- 必修科目
- 選択必修科目
- 学群共通科目/学類基礎科目
- 専攻基礎科目
- 専攻実践科目
- 専攻専門科目
- 文理融合科目
- 演習・卒業研究

各DPと各授業科目の対応関係についてはローマ数字を参照

共生システム理工学類　産業システム工学専攻



共生システム理工学類　環境システムマネジメント専攻

1年次 前期 1セメ	1年次 後期 2セメ	2年次 前期 3セメ	2年次 後期 4セメ	3年次 前期 5セメ	3年次 後期 6セメ	4年次 前期 7セメ	4年次 後期 8セメ
Ⅰ，Ⅳ 共生の科学	Ⅰ，Ⅳ 基礎実験	Ⅰ，Ⅳ 解析学Ⅱ 確率統計学	【全グループ推奨科目】				
Ⅰ，Ⅳ 化学Ⅰ(基礎化学)	Ⅰ，Ⅳ 環境システム概論	Ⅰ，Ⅳ 物理学Ⅰ(熱力学)	Ⅰ，Ⅳ 水質保全改善学概論				
Ⅰ，Ⅳ 物理学Ⅰ(力学)	Ⅰ，Ⅳ 人間支援システム概論 産業システム概論	Ⅰ，Ⅳ 環境計画論 水循環システム概論 生態学入門	Ⅰ，Ⅳ 流域管理計画概論				
Ⅰ，Ⅳ 地球科学	Ⅰ，Ⅳ プログラミング基礎	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 環境解析演習	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 環境分析実験				
Ⅰ，Ⅳ 生物学	Ⅰ，Ⅳ 解析学Ⅰ 線形代数学	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 物理学実験 化学実験	Ⅳ－2 アルゴリズムとデータ構造		【計画系推奨科目】		
Ⅰ，Ⅳ 基礎数学 幾何学基礎	物理学Ⅱ(電磁気学)	Ⅳ－2 情報科学概論 離散数学	Ⅳ－1 環境文化論	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 地域環境計画演習	Ⅳ－2 循環型産業論		
	Ⅰ，Ⅳ 化学Ⅱ(物理化学)		Ⅳ－2 生活環境論	Ⅳ－2 地域計画論	Ⅳ－2 資源循環論		
		Ⅳ－2 エコロジカル経済学		Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 環境モデリング演習 地球環境調査法			
		Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 流域水循環システム 調査実習	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 衛星データ解析 地球環境科学実験	Ⅳ－2 流体力学	Ⅳ－2 流域管理計画論		
		Ⅳ－2 地質学概論	Ⅳ－2 大気環境科学概論	Ⅳ－2 応用統計学 応用解析学			
		Ⅳ－2 環境モニタリング	Ⅳ－2 地下水盆管理学概論 環境モデリング	Ⅳ－2 水循環システム	【水・地球系推奨科目】		
		Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 森林調査法	Ⅳ－2 土壌化学概論	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 水質保全改善学実験 地下水盆管理調査法			
			Ⅳ－2 生態学概論 環境保全論	Ⅳ－2 森林生態学			
				Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 土壌浄化学実験			
				Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 保全生物学実験 生物多様性保全実習			
				Ⅳ－2 生物多様性概論	【生物系推奨科目】		
		Ⅳ－2 分析化学概論 有機化学概論	Ⅳ－2 生物化学工学 化学工学概論 物質変換化学	Ⅳ－2 生物資源開発 熱と物質の移動現象論 有機・高分子材料学			
		Ⅳ－2 材料工学概論 機能性材料概論	Ⅳ－2 無機化学概論 機器分析				
			Ⅳ－2 材料及び固体の力学		Ⅳ－2 材料分析基礎		
					【化学系推奨科目】		
Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 教養演習Ⅰ	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 教養演習Ⅱ	Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 海外演習			Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 演習Ⅰ	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 演習Ⅱ・卒業研究Ⅰ	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ 卒業研究Ⅱ
		Ⅳ 文理融合科目 (他学類等科目)	Ⅳ 文理融合科目 (他学類等科目)	Ⅳ 文理融合科目 (他学類等科目)	Ⅳ 文理融合科目 (他学類等科目)		

- 必修科目
- 選択必修科目
- 学群共通科目/学類基礎科目
- 専攻基礎科目
- 専攻実践科目
- 専攻専門科目
- 文理融合科目
- 演習・卒業研究

各DPと各授業科目の対応関係についてはローマ数字を参照

《人間発達文化学類 開放科目一覧》

※備考欄について

・「人」、「行」、「経」、「理」はそれぞれの学類との共通開講科目。

科目名称	履修セメスター H26年度以降入学者	履修セメスター H25年度以前入学者	単位	備考
教材開発研究	5～	5～	2	
授業実践研究	4～	6～	2	
授業臨床論Ⅰ	5～	5～	2	
授業臨床論Ⅱ	5～	5～	2	
授業臨床論Ⅲ	6～	6～	2	
子どもとことば	3～	3～	2	
生活の中の数と図形	3or4～	3or4～	2	
子どもを取り巻く社会	4～	4～	2	
子どもの生活と遊び	6～	6～	2	
子どもの造形活動	3or4～	3or4～	2	
生活の科学	3～	3～	2	
総合的な学習の研究	4～	6～	2	
知覚心理学	3～	3～	2	
職業心理学	4～	4～	2	
発達臨床心理学	5～	5～	2	理
認知臨床心理学	5～	5～	2	
中高年の心理学	5～	5～	2	
精神医学	5～	5～	2	
人格心理学	5～	5～	2	
家族支援論	5～	5～	2	
非行臨床論	5～	5～	2	
子どもの歴史	4～	4～	2	
外国の教育	3～	3～	2	
子ども社会と学校	3～	3～	2	
学校の運営	4～	4～	2	
子どもの人権	3～	3～	2	
子どもと学習活動	4～	4～	2	
人間関係の心理学	3～	3～	2	行・理
授業分析法	4～	4～	2	
学校の制度	3～	3～	2	
教育の歴史	4～	4～	2	
教育評価論	3～	3～	2	
児童期の発達心理学	3～	3～	2	
知的障害者の心理・生理・病理	1～	1～	2	
児童福祉概論	6～	6～	2	行
特別支援教育概論	1～	1～	2	
知的障害者教育課程論	3～	3～	2	
病弱者の生理・病理・心理	3～	3～	2	
病弱児・健康障害児の教育	3～	3～	2	
肢体不自由者教育概論	4～	4～	2	
重複障害・軽度発達障害教育総論	4～	4～	2	
知的障害者教育指導法	5～	5～	2	
幼児発達心理学	1～	1～	2	
子どもの文学	3～	3～	2	
幼児臨床心理学	5～	5～	2	
「子育て共同」論	4～	4～	2	
言葉の発達と保育	4～	4～	2	
保育カリキュラム論	6～	6～	2	
家庭教育論	5～	5～	2	
ことばをとらえる		3～	2	
日本語学概論	3～	3～	2	
日本語の構造	4～	4～	2	
日本語の変異	4～	4～	2	
日本語の歴史	5～	5～	2	
日本語教育学概論	3～	3～	2	
日本文学概論	1～	3～	2	
伝統言語文化論	5～	5～	2	
近代文学史	2～	2～	2	
日中比較文学	5～	5～	2	
古代・中世文学史	3～	3～	2	
中国古典学概論	1～	3～	2	
中国文化論	5～	5～	2	
アジア言語文化論Ⅰ	3～		2	
アジア言語文化論Ⅱ	3～		2	
文字文化論		5～	2	
イスラム文化論		5～	2	
異文化理解	3～	3～	2	
日本文学特講Ⅰ	5～	5～	2	
日本文学特講Ⅱ	5～	5～	2	
日本文学特講Ⅲ	5～	5～	2	
中国文化特講	6～	6～	2	

科目名称	履修セメスター H26年度以降入学者	履修セメスター H25年度以前入学者	単位	備考
書道	6～	6～	2	
英語教材研究	4～		2	
英語科教材研究		6～	2	
英語語彙論	4～	6～	2	
英文法	1～	3～	2	
英語史	3～	3～	2	
英語音声学	1～	1～	2	
英語学概論	3～	3～	2	
英詩の韻律	1～	3～	2	
英文学史	1～	3～	2	
米文学史	1～	3～	2	
初期近代英米文学	4～	4～	2	
ヨーロッパ言語文化論	1～	3～	2	
日欧文化交流史	2～	4～	2	
日欧比較文学論	3～	3～	2	
英語意味論	4～	6～	2	
英語構造論	4～	6～	2	
近代英米文学	2～	4～	2	
現代英米文学	2～	4～	2	
ドイツ語圏の言語と文化	4～	4～	2	
地図と地理情報	4～	4～	2	
文化と社会の地理学	3～	3～	2	
地域文化の総合研究	4～	4～	2	
産業社会文化論	3～	3～	2	行
科学理解の哲学	3～	3～	2	
日本古代中世社会史	3or4～	3or4～	2	
日本近世社会史	3or4～	3or4～	2	
日本近代社会史	3or4～	3or4～	2	
東洋古代・中世社会史	3or4～	3or4～	2	
東洋近世社会史	3or4～	3or4～	2	
東洋近現代社会史	3or4～	3or4～	2	
ヨーロッパ古代・中世史	3or4～	3or4～	2	
ヨーロッパ近世・近代史	3or4～	3or4～	2	
ヨーロッパ近・現代史	3or4～	3or4～	2	
地理学概説	3～	3～	2	
産業と経済、地域振興の地理学	4～	4～	2	行
都市とまちづくりの地理学	3～	3～	2	行
自然災害と人間	4～	4～	2	
気候環境と人間	4～	4～	2	
復興教育学	2～	2～	2	
復興教材づくり論	4～	4～	2	
復興のための授業方法論	5～	5～	2	
特別支援教育と学校防災	1～	1～	2	
現代アートマネジメント	2～	2～	2	
未来創造教育論	2～	2～	2	
政治学概説	3～	3～	2	
社会学概説	1～	3～	2	
現代日本の政治	4～	4～	2	行
現代社会と文化	1～	3～	2	
現代日本経済論Ⅰ	3～	3～	2	
現代日本経済論Ⅱ	4～	4～	2	
政治思想史	4～	4～	2	
経済学概説	2～	4～	2	
現代社会と地域計画	2～	4～	2	行
現代社会とコミュニティ	2～	4～	2	
現代の地域経済	1～	3～	2	
社会思想史	5～	5～	2	
自然と人間の哲学	3～	3～	2	
知識の哲学	3～	3～	2	
戦争と平和の倫理学	2～	4～	2	
科学技術と環境の倫理学	2～	4～	2	行
食と健康	1～	3～	2	
家族と家庭	3～	3～	2	
食物学	4～	4～	2	
保育学	3～	3～	2	
暮らしと技術	4～	4～	2	
衣服デザイン実習	4～	4～	2	「衣服学及び実習」を受講済みであることが望ましい。
調理実習	4～	4～	2	「調理学及び基礎実習」を受講済みであることが望ましい。
衣服のデザインと機能	4～	4～	2	
栄養機能科学	5～	5～	2	
住環境学	5～	5～	2	

《人間発達文化学類 開放科目一覧》

※備考欄について

・「人」、「行」、「経」、「理」はそれぞれの学類との共通開講科目。

科目名称	履修セメスター		単位	備　考
	H26年度以降入学者	H25年度以前入学者		
食品加工学概論および実習	6～	6～	2	「調理学及び基礎実習」を受講済みであることが望ましい。
人間と衣服	5～	5～	2	
食生活をとりまく環境	2～	2～	2	
衣服学概論および実習	3～	3～	2	
住生活学	3～	3～	2	
生活経営学	4～	4～	2	
調理学及び基礎実習	3～	3～	2	
数学概論	1～	1～	2	
解析学Ⅰ	2～	2～	2	理
解析学Ⅱ	3～	3～	2	理
解析学Ⅲ	4～	4～	2	
解析学Ⅳ	5～	5～	2	
代数学Ⅱ	3～	3～	2	
代数学Ⅲ	4～	4～	2	
幾何学Ⅱ	4～	4～	2	
幾何学Ⅲ	4～	4～	2	
数をとらえる	3～	3～	2	
数理科学コミュニケーションⅠ	3～		2	
曲線と曲面	3～	3～	2	
グラフ理論	3～	3～	2	
整数論	4～	4～	2	
微分方程式	5～	5～	2	
確率論・統計学	6～	6～	2	
複素関数論	6～	6～	2	
コンピュータ	5～	5～	2	
自然科学と数理Ⅰ		6～	2	
実践数理科学	2～		2	
物理科学入門Ⅰ	4～	4～	2	
生命環境の科学Ⅰ	5～	5～	2	
天体の数理科学Ⅰ	5～	5～	2	
天体の数理科学Ⅱ	4～	4～	2	
多様体の幾何学	4～	4～	2	
トポロジー	4～	4～	2	
体とガロア理論	5～	5～	2	
生命環境の科学Ⅱ	6～	6～	2	
物理科学入門Ⅱ	5～	5～	2	
関数解析	6～	6～	2	
自然科学と数理Ⅱ		5～	2	
合奏	3～	3～	1	
作曲基礎Ⅰ	1～	1～	1	
作曲基礎Ⅱ	2～	2～	1	
指揮法基礎	5～	5～	1	
指揮法研究	6～	6～	1	
形式学基礎	3～	3～	2	
形式学研究	4～	4～	2	
音楽学概論	3～	3～	2	
音楽史Ⅰ	3～	3～	2	
音楽史Ⅱ	4～	4～	2	
対位法研究	3～	3～	2	
音楽美学	3～	3～	2	
合唱Ⅰ	3～	3～	1	
合唱Ⅱ	4～	4～	1	
コンピュータ・ミュージック	3～	3～	2	
ポピュラー音楽論	5～	5～	2	
映像メディア論	3～	3～	2	
彫刻理論	5～	5～	2	
鑑賞教育	5～	5～	2	
美術教育特講	7～	7～	2	
芸術と人間発達	3～	3～	2	
美術解剖学	4～	4～	2	
美術史Ⅰ	4～	4～	2	
美術史Ⅱ	5～	5～	2	
芸術学Ⅰ	5～	5～	2	
芸術学Ⅱ	6～	6～	2	
現代の美術	6～	6～	2	
芸術と環境	5～	5～	2	
解剖学	1～	1～	2	
学校保健（健康論）	3～	3～	2	
運動方法論	4～	4～	2	
衛生学及び公衆衛生学	4～	4～	2	
救急処置及び看護法	4～	4～	2	

科目名称	履修セメスター		単位	備　考
	H26年度以降入学者	H25年度以前入学者		
スポーツ栄養学	5～	5～	2	
障がい者とスポーツ	5～	5～	2	
スポーツ医学	3～	3～	2	
運動の学習と発達	3～	3～	2	
スポーツ心理学	3～	3～	2	行
スポーツと文化（体育原理）	3～	3～	2	
生涯スポーツ論	1～	3～	2	
スポーツ運動学（運動方法学を含む）	4～	4～	2	
運動・芸術療法	5～	5～	2	
スポーツ指導論	5～	5～	2	
メンタルマネジメント	5～	5～	2	
スポーツ文化史	4～	6～	2	
スポーツ政策論	6～	6～	2	行
サービス概論	5～	5～	2	
トレーニングマネジメント	6～	6～	2	
コーチング論	5～	5～	2	
アスレチックリハビリテーション	6～	6～	2	
人間発達と運動表現	6～	6～	2	
運動処方	5～	5～	2	
高齢者とスポーツ	5～	5～	2	
運動学習の心理	5～	5～	2	
社会福祉論	4～	4～	2	
生理学（運動生理学）	2～	2～	2	
日本の地域文化	2～	2～	2	

《行政政策学類 開放科目一覧（平成27年度～入学者用）》

※備考欄について
・「人」、「行」、「経」、「理」はそれぞれの学類との共通開講科目。

科目名称	履修セメスター	単位	備　考
社会と文化の理論	1or2～	2	
法社会学Ⅰ	3or4～	2	
法社会学Ⅱ	3or4～	2	
労働法Ⅰ	5or6～	2	
労働法Ⅱ	5or6～	2	
社会保障法	5or6～	2	
経済法	5or6～	2	経
商法Ⅰ	5or6～	2	経
商法Ⅱ	5or6～	2	経・理
民法（家族）	3or4～	2	
民法（相続）	3or4～	2	
憲法（人権）Ⅰ	3or4～	2	経
憲法（人権）Ⅱ	3or4～	2	経
憲法（統治）Ⅰ	3or4～	2	経
憲法（統治）Ⅱ	3or4～	2	経
行政法総論Ⅰ	3or4～	2	
行政法総論Ⅱ	5or6～	2	
行政救済法Ⅰ	5or6～	2	
行政救済法Ⅱ	5or6～	2	
刑法Ⅰ	3or4～	2	
刑法Ⅱ	5or6～	2	
民事裁判法Ⅰ	5or6～	2	
民事裁判法Ⅱ	5or6～	2	
民法総則	1or2～	2	経
民法（不法行為）	1or2～	2	経
民法（債権総論）	3or4～	2	経
民法（債権各論）	3or4～	2	経
民法（物権）	5or6～	2	
民法（担保物権）	5or6～	2	
国際法Ⅰ	5or6～	2	人・経
国際法Ⅱ	5or6～	2	人・経
刑事裁判法Ⅰ	5or6～	2	
刑事裁判法Ⅱ	5or6～	2	
地方自治法Ⅰ	5or6～	2	
地方自治法Ⅱ	5or6～	2	
環境法	5or6～	2	理
地方行政論	3or4～	2	人
地方政治論Ⅰ	5or6～	2	人
地方政治論Ⅱ	5or6～	2	人
情報社会論	5or6～	2	理
政治思想史Ⅰ	5or6～	2	
政治思想史Ⅱ	5or6～	2	
行政学Ⅰ	3or4～	2	人
行政学Ⅱ	3or4～	2	人
政治過程論Ⅰ	3or4～	2	
政治過程論Ⅱ	3or4～	2	
国際政治論Ⅰ	5or6～	2	
国際政治論Ⅱ	5or6～	2	
公共政策論Ⅰ	3or4～	2	経
公共政策論Ⅱ	3or4～	2	経
社会計画論	3or4～	2	
地域環境論	3or4～	2	
社会調査論	3or4～	2	人
社会福祉論	3or4～	2	人
地域福祉論	5or6～	2	人・理
生活構造論Ⅰ	5or6～	2	人
生活構造論Ⅱ	5or6～	2	人

科目名称	履修セメスター	単位	備　考
地域史Ⅰ	5or6～	2	
地域史Ⅱ	5or6～	2	
文化史	3or4～	2	
考古学Ⅰ	3or4～	2	人
考古学Ⅱ	5or6～	2	人
社会教育論（生涯学習論を含む）Ⅰ	3or4～	2	
社会教育論（生涯学習論を含む）Ⅱ	3or4～	2	
地域社会教育計画論	5or6～	2	
スポーツ文化論Ⅰ	5or6～	2	
スポーツ文化論Ⅱ	5or6～	2	
ジェンダー論Ⅰ	3or4～	2	
ジェンダー論Ⅱ	5or6～	2	
博物館経営論	3or4～	2	人
博物館資料論	3or4～	2	人
博物館資料保存論	3or4～	2	
博物館展示論	3or4～	2	
博物館教育論	3or4～	2	
博物館情報・メディア論	3or4～	2	人
博物館学概論	3or4～	2	人
比較地域文化論Ⅰ	3or4～	2	
比較地域文化論Ⅱ	3or4～	2	
言語文化論Ⅰ	5or6～	2	人
言語文化論Ⅱ	5or6～	2	人
国際文化交流論	5or6～	2	人
欧米文化論Ⅰ	5or6～	2	人
欧米文化論Ⅱ	5or6～	2	人
欧米文化論Ⅲ	5or6～	2	人
英語コミュニケーションAⅠ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションAⅡ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションBⅠ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションBⅡ	5or6～	2	定員5名
英語コミュニケーションCⅠ	5or6～	2	定員5名
English Presentations　Ⅰ	5or6～	2	定員5名
English Presentations　Ⅱ	5or6～	2	定員5名
社会学原論Ⅰ	1or2～	2	
社会学原論Ⅱ	3or4～	2	
社会構造論Ⅰ	3or4～	2	人・経
社会構造論Ⅱ	5or6～	2	人・経
メディア論	5or6～	2	
スポーツ社会学	5or6～	2	
地域社会学	3or4～	2	人・経
コア・アクティブ科目	(3or4～)or(5or6～)	2	
特殊講義	(3or4～)or(5or6～)	2or4	

＊なお、コア・アクティブ科目については、現代教養コースの法政策モデル、もしくはコミュニティ共生モデルに所属する学生に対してのみ開放する。現代教養コースのそれ以外のコースに所属する学生や、行政政策学類以外の学類生は受講することができない。

《経済経営学類 開放科目一覧（平成２５年度～入学者用）》

※備考欄について
・「人」、「行」、「経」、「理」はそれぞれの学類との共通開講科目。該当学類生は開放科目として履修手続きをする必要はありません。

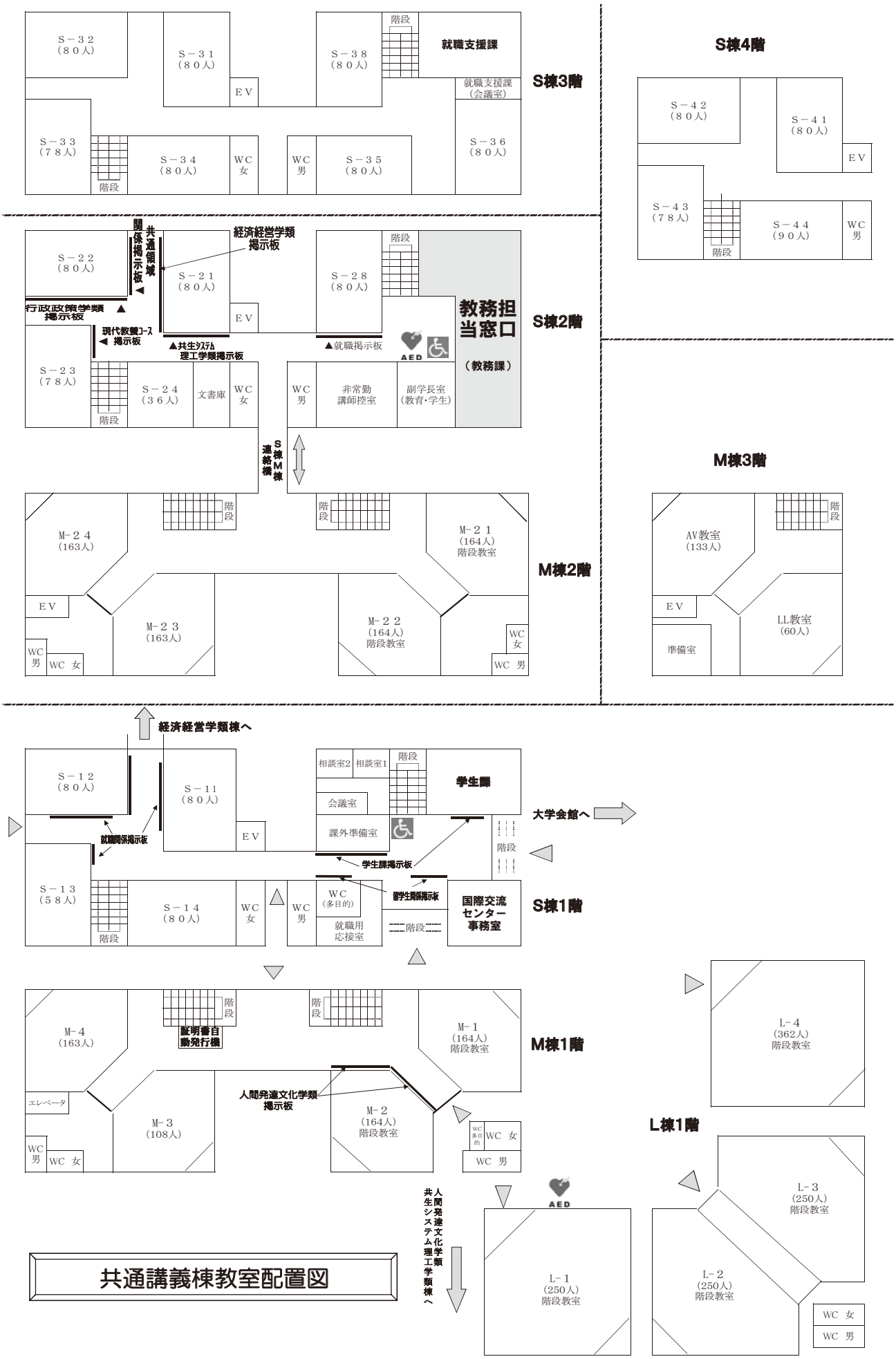
科目名称	履修開始セメスター	単位	備　考
モダンエコノミクス入門Ⅱ	2～	2	
政治経済学入門Ⅱ	2～	2	
経営学入門Ⅱ	2～	2	理
企業と簿記会計Ⅱ	2～	2	
ミクロ経済学Ⅰ	3～	2	行・理
マクロ経済学Ⅰ	3～	2	行・理
統計学入門	3～	2	
歴史と経済	3～	2	
世界経済論Ⅰ	3～	2	人
会計学入門	3～	2	
ビジネス・リサーチⅠ	3～	2	
ミクロ経済学Ⅱ	4～	2	行
マクロ経済学Ⅱ	4～	2	行
金融論入門	4～	2	
公共経済学	4～	2	
数理統計学	4～	2	
地域経済論Ⅰ	4～	2	行・理
経済政策	4～	2	行
国際関係論	4～	2	人・行・理
比較経済史	4～	2	
社会開発論	4～	2	
財務諸表論Ⅰ	4～	2	
原価計算Ⅰ	4～	2	
中小企業経営論	4～	2	理
経営組織論	4～	2	
経営戦略論Ⅰ	4～	2	理
管理会計	4～	2	理
マーケティング論	4～	2	
計量経済学	5～	2	
ミクロ経済学Ⅲ	5～	2	
応用経済分析	5～	2	
国際経済学	5～	2	行
金融経済論	5～	2	
産業組織と規制の経済学	5～	2	理
経済統計論	5～	2	理
国際金融論	5～	2	
環境経済学	5～	2	
都市経済学	5～	2	
地域経済論Ⅱ	5～	2	行
世界経済論Ⅱ	5～	2	人
開発経済学	5～	2	
日本経済論	5～	2	
福祉国家論	5～	2	行
日本経済史	5～	2	
労働経済	5～	2	
地域政策論	5～	2	行・理
地方財政政策論	5～	2	行
経済学史	5～	2	
社会思想史	5～	2	行
地方財政システム論	5～	2	行
経済構造論	5～	2	行
社会政策	5～	2	行・理
工業経済論	5～	2	
農業経済論	5～	2	
財政学	5～	2	行
現代資本主義論	5～	2	人
国際公共政策論	5～	2	行
アメリカ経済論	5～	2	
ラテン・アメリカ経済論	5～	2	
アジア経済論	5～	2	
地域交通まちづくり政策論	5～	2	

科目名称	履修開始セメスター	単位	備　考
ヨーロッパ経済論	5～	2	
比較社会論	5～	2	人
言語コミュニケーション論	5～	2	人
ﾖｰﾛｯﾊﾟの社会と思想（ｲｷﾞﾘｽ）	5～	2	
ﾖｰﾛｯﾊﾟの社会と思想（ﾄﾞｲﾂ）	5～	2	
ﾖｰﾛｯﾊﾟの社会と思想（ﾌﾗﾝｽ）	5～	2	人
ﾖｰﾛｯﾊﾟの社会と思想（ﾛｼｱ）	5～	2	人
アジアの社会と思想（中国）	5～	2	人
アジアの社会と思想（日本）	5～	2	外国人留学生対象
経営情報分析	5～	2	
財務管理論	5～	2	理
財務諸表論Ⅱ	5～	2	
経営史	5～	2	
現代ファイナンス論	5～	2	
財務諸表監査(日本公認会計士協会東北会福島県会寄附講座)	5～	2	
税務会計	5～	2	
租税法Ⅰ	5～	2	
租税法Ⅱ	5～	2	
経営戦略論Ⅱ	5～	2	
ビジネス・リサーチⅡ	5～	2	
組織行動論	5～	2	
国際会計論	5～	2	
人的資源管理論	5～	2	
証券市場論(野村證券提供講義)	5～	2	
コスト・マネジメント	5～	2	
原価計算Ⅱ	5～	2	
国際経営論	5～	2	理
消費者行動論	5～	2	
リスク・マネジメント(日本損害保険協会提供講義)	5～	2	
プロスポーツ経営実践論(楽天野球団提供講義)	5～	2	
地域金融論（東邦銀行提供講義）	5～	2	
外国語応用コミュニケーション（ドイツ語）Ⅰ～Ⅳ	5～	2	当該外国語中級2単位以上の修得が条件
外国語応用コミュニケーション（フランス語）Ⅰ～Ⅳ	5～	2	
外国語応用コミュニケーション（ロシア語）Ⅰ～Ⅳ	5～	2	
外国語応用コミュニケーション（スペイン語）Ⅰ～Ⅳ	5～	2	
外国語応用コミュニケーション（中国語）Ⅰ～Ⅳ	5～	2	
外国語応用コミュニケーション（韓国朝鮮語）Ⅰ～Ⅳ	5～	2	
特別演習　（コーオプ演習：アクセンチェア）	4～	2	平成30年度新規
特別演習　上級簿記Ⅰ	3～	2	
特別演習　中級簿記	3～	2	
特別演習　上級簿記Ⅱ	4～	2	
特別演習　実践ドイツ語演習Ⅰ	4～	2	当該外国語初級4単位の修得が条件
特別演習　実践ロシア語演習Ⅰ	4～	2	
特別演習　実践ドイツ語演習Ⅱ	5～	2	対応する「実践●●演習Ⅰ」の修得が条件
特別演習　実践ロシア語演習Ⅱ	5～	2	
特別演習　Japan　Study　Program Ⅰ～Ⅳ	2～	2	
特別演習　Japan　Study　ProgramⅥ	4～	2	
特別演習　実践英語演習	3～	2	
特別演習　Work Experience Abroad　Ⅰ	3～	2	
特別演習　Work Experience Abroad　Ⅱ	4～	2	
租税法概論(東北税理士会福島支部連携講義)	4～	2	平成30年度新規

《教職開放科目一覧》

・以下の科目は、教職登録者のみ履修可能な開放科目です。

科目名称	開講学類	履修セメスター	単位	備　考
代数学Ⅰ	人間	2～	2	
幾何学Ⅰ	人間	3～	2	
子ども理解と指導援助	人間	6～	2	
学校カウンセリング論	人間	5～	2	
数学科教育学Ⅰ	人間	5～	2	
数学科教育学Ⅱ	人間	6～	2	
数学科授業研究	人間	5～	2	
数学科教育法	人間	4～	2	


S－32（80人）
S－31（80人）
S－38（80人）
階段
就職支援課
就職支援課（会議室）
EV
S－33（78人）
S－34（80人）
WC女
WC男
S－35（80人）
S－36（80人）
S棟3階
S棟4階
S－42（80人）
S－41（80人）
S－43（78人）
S－44（90人）
WC男
S－22（80人）
S－21（80人）
S－28（80人）
共通領域
関係掲示板
経済経営学類掲示板
行政政策学類掲示板
現代教養コース掲示板
▲共生システム理工学類掲示板
▲就職掲示板
AED
教務担当窓口（教務課）
S棟2階
S－23（78人）
S－24（36人）
文書庫
非常勤講師控室
副学長室（教育・学生）
S棟M棟連絡棟
M－24（163人）
M－21（164人）階段教室
M－23（163人）
M－22（164人）階段教室
M棟2階
M棟3階
AV教室（133人）
LL教室（60人）
準備室
経済経営学類棟へ
S－12（80人）
S－11（80人）
相談室2
相談室1
会議室
課外準備室
学生課
大学会館へ
就職関係掲示板
学生課掲示板
留学生関係掲示板
S－13（58人）
S－14（80人）
WC（多目的）
就職用応接室
国際交流センター事務室
S棟1階
M－4（163人）
証明書自動発行機
M－1（164人）階段教室
M－3（108人）
人間発達文化学類掲示板
M－2（164人）階段教室
エレベータ
M棟1階
L－4（362人）階段教室
L棟1階
L－3（250人）階段教室
L－2（250人）階段教室
L－1（250人）階段教室
人間発達文化学類棟へ
共生システム理工学類棟へ
共通講義棟教室配置図

共生システム理工学類棟

9階

天文台
理 901

8階

気象観測室 801
EV機械室 802
階段

7階

階段 | 学類共通実験室 701 | 持地隆一研究室 702 | 学類実験室(1) 703 | 学類実験室(2) 704 | 野崎修司研究室 705 | WC / WC / エレベーター

階段 | プロジェクト室 706 | プロジェクト室 707 | 都市計画演習室 708 | 川崎興太研究室 709 | 杉森大助研究室 710 | 筧 宗徳研究室 711 | 生産・サービスシステム研究室1 712 | 階段

安部郁子研究室 713 | 渡辺 隆研究室 714 | 理科教育学実験室 715 | 理科教育学演習室 716 | 平中宏典研究室 717 | 実験室 718 | 生産・サービスシステム研究室2 719

植物生態学演習室 720 | 水澤玲子研究室 721 | 植物生態学実験室 722 | 都市計画研究室 723 724 | 生物工学研究室 725

6階

階段 | 心理学第2実験室 601 | 実験心理学研究室 602 | 地質学第1研究室 603 | 生物圏環境解析第1研究室 604 | 塘 忠顕研究室 605 | 生物圏環境解析第3研究室 606 | WC / WC / エレベーター

階段 | 兼子伸吾研究室 607 | プロジェクト室 608 | 内海哲史研究室 609 | 研究室 610 | 精神生理学研究室1 611 | 精神生理学研究室2 612 | 精神生理学実験室 613 | 階段

筒井雄二研究室 614 | 長橋良隆研究室 615 | 電子顕微鏡・蛍光X線分析室 616 | 地質学第2研究室 617 | 透過型電子顕微鏡室 618-3・618-4 | 生物圏環境解析第2研究室 618-1・618-2

保全生態学実験室 619 | ネットワーク工学実験室 620 | 高原 円研究室 621 | 理622演習室 622

5階

階段 | 数理・産業システム第2研究室 501 | 中川和重研究室 502 | 藤本勝成研究室 503 | 笠井博則研究室 504 | 中山 明研究室 505 | WC / WC / エレベーター

階段 | 石川友保研究室 506 | 物流システム研究室 507 | 物流システム演習室 508 | 三浦一之研究室 509 | 篠田伸夫研究室 510 | 神長裕明研究室 511 | 中村勝一研究室 512 | 階段

数理・産業システム第1研究室 513

情報科学研究室 514 | 情報科学研究室 515 | 情報工学研究室 516 | 情報工学研究室 517

4階

階段 | 生田博将研究室 401 | 理402演習室 402 | 理403演習室 403 | 研究室 404 | WC / WC / エレベーター

階段 | 電気工学第2研究室 405 | 技術経営戦略演習室 406 | システムシュミレーション研究室1 407 | システムシュミレーション研究室2 408 | システムシュミレーション研究室3 409 | 階段

生田博将実験室 410 | 山口克彦研究室 411 | 物性物理学研究室 412 | 物質科学研究室 413

岡沼信一研究室 414 | 電気工学第1研究室 415 | 石岡 賢研究室 / 技術経営戦略研究室 416 | 樋口良之研究室 417

3階

階段 | プロジェクト室 301 | 高貝慶隆研究室 302-1 | 薬品保管庫 303 | 表面反応化学測定室 304 | 大橋弘範研究室 305 | WC / WC / エレベーター

階段 | 表面反応化学研究室 306 | 研究室 307 | 有機・高分子材料研究室 308 | 階段

理工後援会・きびたき会 309 | 大山 大研究室 310 | 分析化学研究室 311 | 物質創成・分析化学実験室 312 | 物質創成研究室 313

測定室 314 | リフレッシュルーム 315 | 無機化学研究室 316 | 猪俣慎二研究室 317 | 高安 徹研究室 318-1・2 | 有機化学研究室 319

2階 ◁ 人文棟へ

階段 | 共生システム理工学類学類長室 201 | 島田邦雄研究室 202 | エネルギーシステム工学第1研究室 203 | エネルギーシステム工学第2研究室 204 | WC / WC / エレベーター

階段 | エネルギーシステム工学第3研究室 205 | 馬場一晴研究室 206 | 理工小会議室 207 | インキュベーションルーム 208 | インキュベーションルーム 209 | プロジェクト室 210 | プロジェクト室 211 | 階段

理工大会議室 212 | 董 彦文研究室 213 | 産学連携研究室 214

素粒子的宇宙論・重力理論研究室1 215 | 素粒子的宇宙論・重力理論研究室2 216 | メカトロニクス研究室 217-1 | 高橋隆行研究室 217-2

▽

階段 | 理101演習室 101 | 理102演習室 102 | 理103演習室 103 | WC / WC / エレベーター

階段

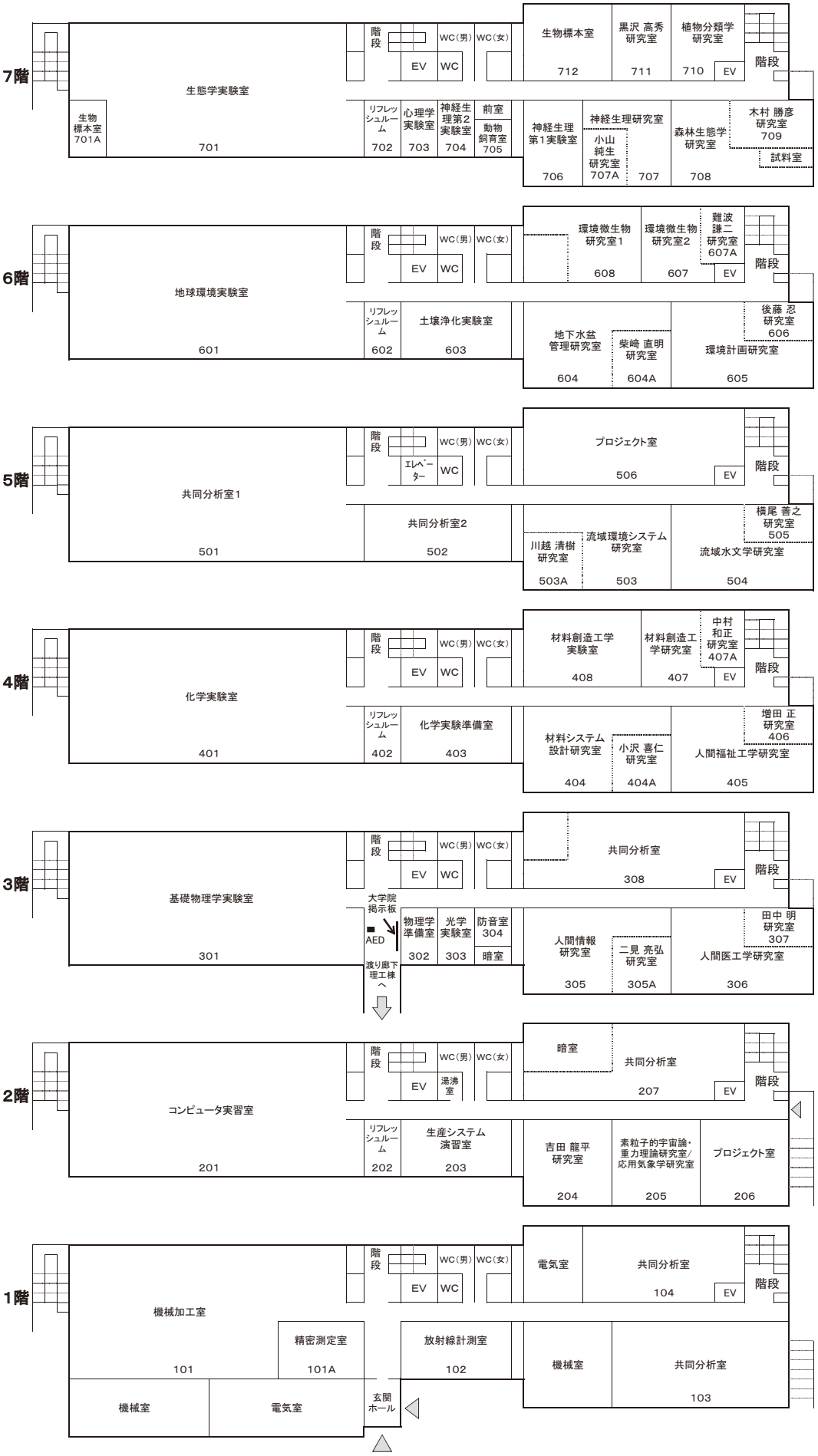
1階 ◁ 人文棟へ

教員控室 104 | 印刷室 105 | 人間発達文化学類後援会室 106 | 人間発達文化学類非常勤講師控室 107 | リフレッシュルーム 108 | 倉庫 111 / 女子職員休憩室 109 | サーバー室 112 / 男子職員休憩室 110

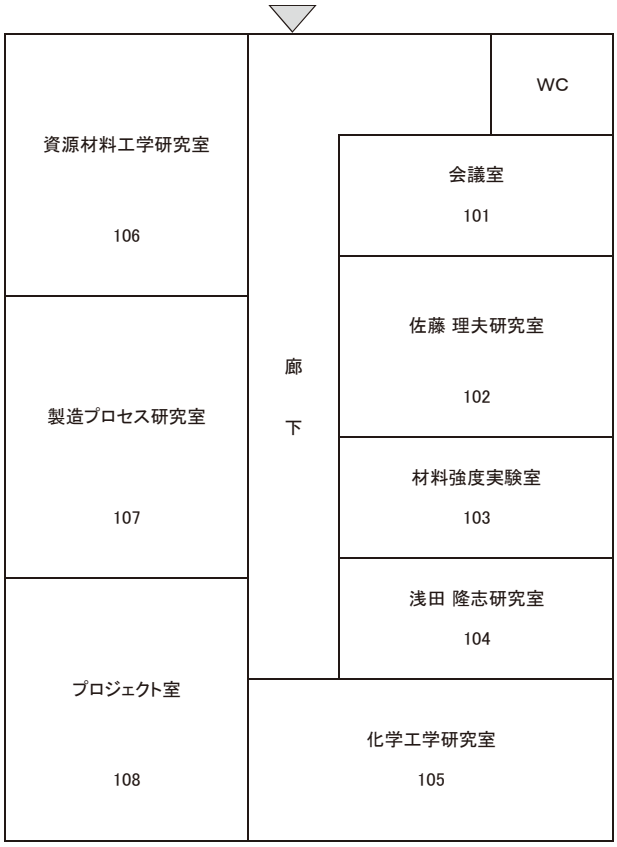
△

院生室 113

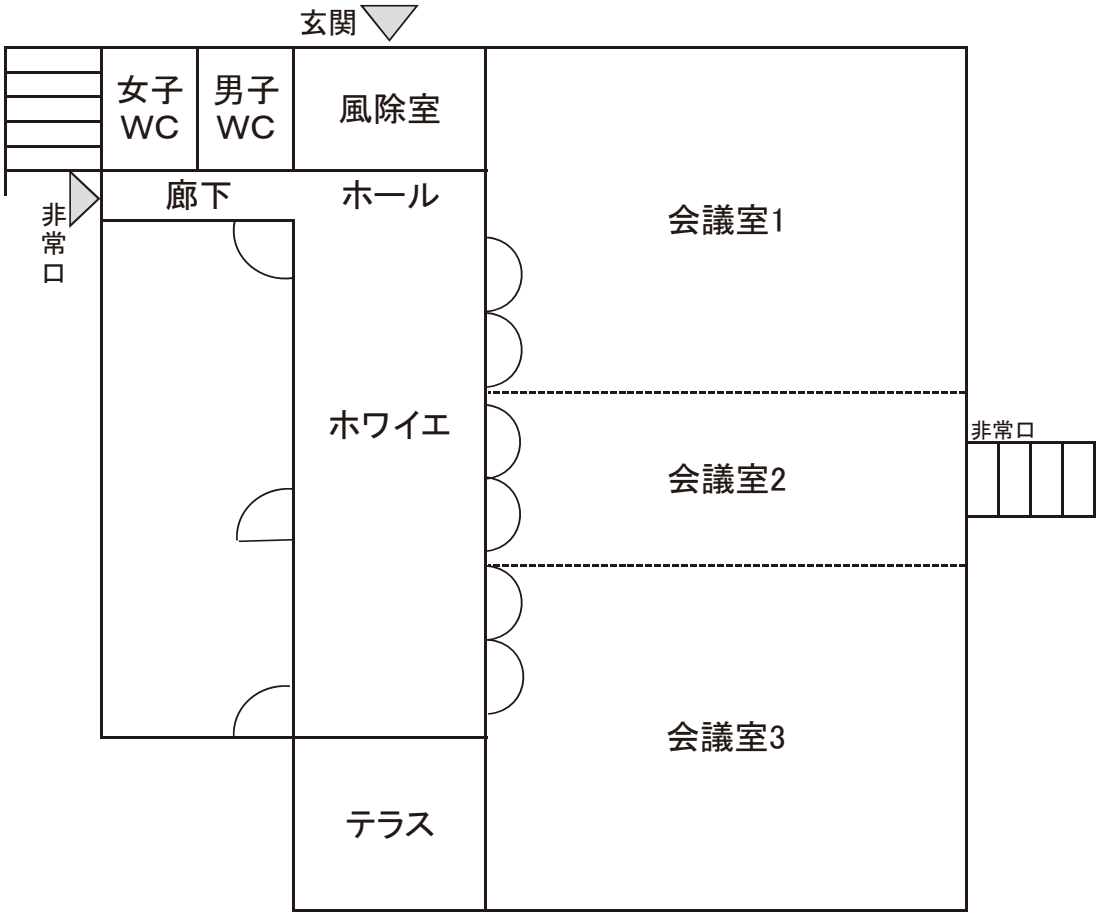
共生システム理工学類　研究実験棟



理工共通棟


WC
資源材料工学研究室
106
会議室
101
佐藤 理夫研究室
102
廊
下
製造プロセス研究室
107
材料強度実験室
103
浅田 隆志研究室
104
プロジェクト室
108
化学工学研究室
105

募金記念棟



経済経営学類棟配置図

8階

非常口	井上 研究室 801	研究室 802	研究室 803	井本 研究室 804	沼田 研究室 805	合同研究室 806	藤原 研究室 807	合同 研究室 808	非常口	吉高神 研究室 809	研究室 810	プロジェクト室 811	研究室 812	奥本 研究室 813	〈国セ〉隈本 814
	プロジェクト室 815	プロジェクト室 816	研究室 817	佐藤(英) 研究室 818	岩井 研究室 819	遠藤 研究室 820	野口 研究室 821	階段		エレベーター 便所 女 便所 男	〈理〉永幡 研究室 822	則藤 研究室 823	ユン 研究室 824	マクマイケル 研究室 825	階段

7階

非常口	菊池(智) 研究室 701	研究室 702	岩本 研究室 703	十河 研究室 704	貴田岡 研究室 705	佐藤(寿) 研究室 706	平野 研究室 707	松浦 研究室 708	非常口	奥山 研究室 709	伊藤(宏) 研究室 710	研究室 711	研究室 712	研究室 713	荒 研究室 714
	研究室 715	福冨 研究室 716	研究室 717	真田 研究室 718	根建 研究室 719	合同研究室 720	階段			エレベーター 便所 女 便所 男	クズネツォーワ 研究室 721	合同研究室 722	稲村 研究室 723	研究室 724	階段

6階

非常口	朱 研究室 601	研究室 602	吉田 研究室 603	熊沢 研究室 604	林 研究室 605	菊池(壮) 研究室 606	研究室 607	コピー室 608	非常口	合同研究室 609	〈総教セ〉高森 研究室 611	マッカーズランド 研究室 612	吉川 研究室 613	池澤 研究室 614
	小山 研究室 615	大川 研究室 616	末吉 研究室 617	後藤 研究室 618	佐野(孝) 研究室 619	合同研究室 620	階段			エレベーター 便所 女 便所 男	ゲンスケフォンケルン 研究室 621	佐々木 研究室 622	手代木 研究室 623	伊藤(俊) 研究室 624	階段

5階

非常口	演習室 501	演習室 502	合同研究室 503	非常口	院生 研究室 504	院生 談話室 505	院生 研究室 506
	演習室 507	演習室 508	演習室 509	プロジェクト室 510	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	院生 研究室 511	院生 研究室 512	院生 研究室 513	院生 研究室 514	階段

4階 ◀ 行政政策学類棟へ

非常口	演習室 401	演習室 402	演習室 403	演習室 404	非常口	演習室 405	演習室 406	演習室 407
	特別演習室 408	演習室 409	演習室 410	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	演習室 411	演習室 412	階段

3階 ◀ 行政政策学類棟へ

非常口	研究室 301	CERA 大越 研究室 302	会議室 303	CERA 木暮 研究室 304	松川 資料 準備室 305	地域創造支援センター長室 306	非常口	〈総教セ〉丹野 研究室 307	食農プロジェクト事務室 308	食農プロジェクト室 309	〈総教セ〉五十嵐 資料室 310	〈総教セ〉五十嵐 研究室 311
	地域連携課・研究振興課・ACF 事務室 312	地連 研振 資料室 313	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	研究室 314	農学系 生源寺 研究室 315	農学系 荒井 研究室 316	食農 服部・北村 研究室 317	階段

2階 ◀ 行政政策学類棟へ

非常口	学生談話室（リフレッシュルーム） 201	学類スタッフ室 202	第2会議室 203	教員控室 204	非常口	非常勤講師控室 205	応接室 206	学類長室 207	第1会議室 208	準備室 209	大会議室 210	非常口
	信陵自習室 211	行政・経済学類支援室 212	印刷室 213	階段	エレベーター 便所 女 便所 男	文書庫 214	高商・学部資料室 215	文書庫 216	階段	機械室 217

▼ 共通講義棟へ

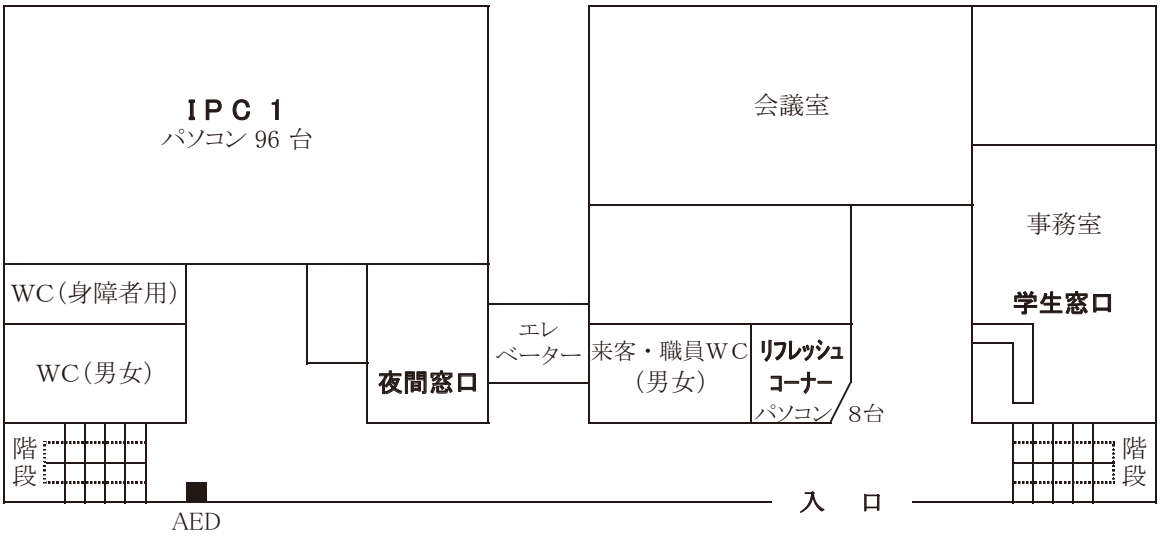
1階

	保存書庫 101	プロジェクト室 102	プロジェクト室 103	玄関	演習室 104	プロジェクト室 105	演習室 106	プロジェクト室 107	プロジェクト室 108
非常口									非常口
	機械室 109	電気室 110	経済学会室 111	女子休養室 112	男子休養室	階段	エレベーター 身障者用便所 便所 男	演習室 113	演習室 114	階段	グローバル人材育成プロジェクト室 115	〈理〉サウンドスケープ研究室 116

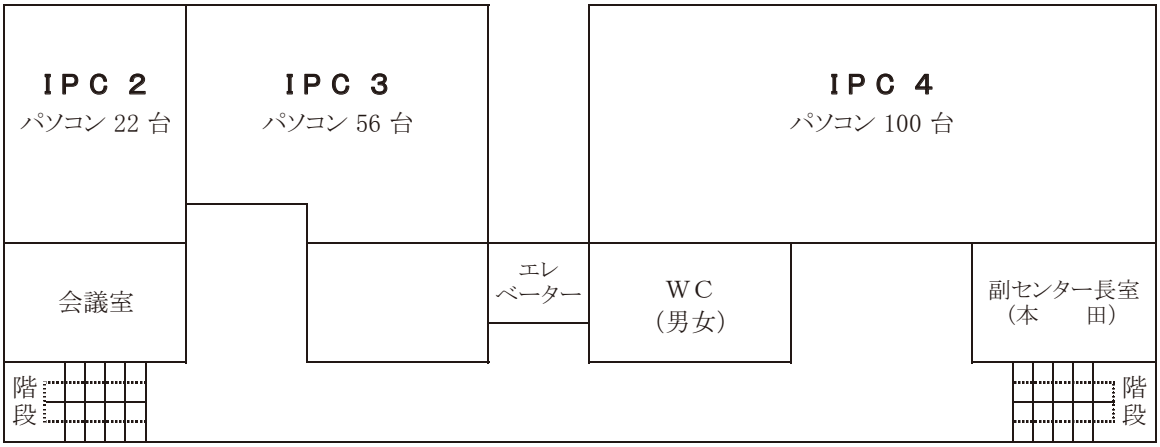
総合情報処理センター配置図

※各教室ＰＣ台数には教員用は含まない

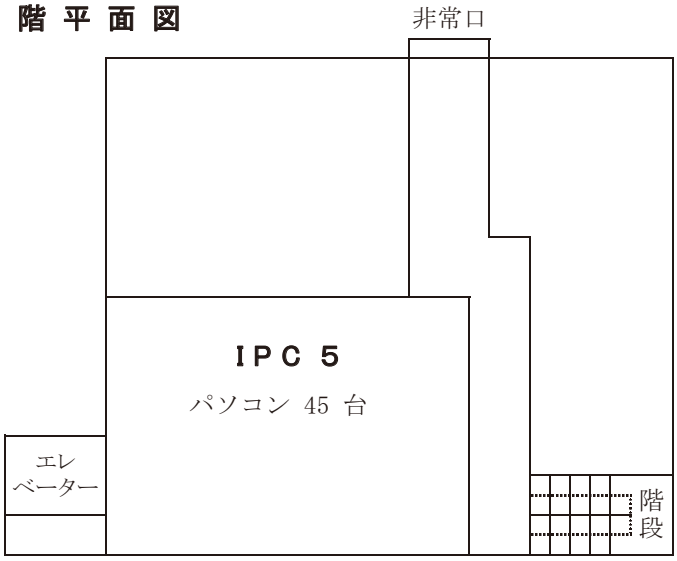
１ 階 平 面 図



２ 階 平 面 図

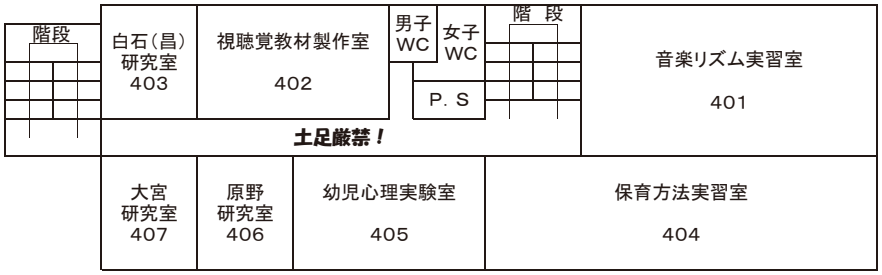


３ 階 平 面 図



総合教育研究センター棟

4 階



※総合教育研究センター棟以外のセンター教員研究室等

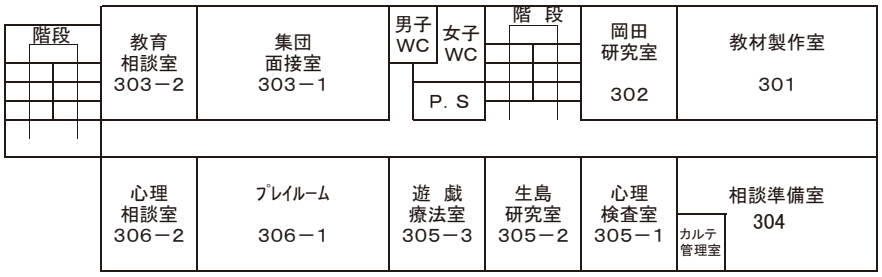
経済経営学類棟3階
307研究室
現職研修部門
丹野研究室

経済経営学類棟3階
311研究室
キャリア研究部門
五十嵐研究室

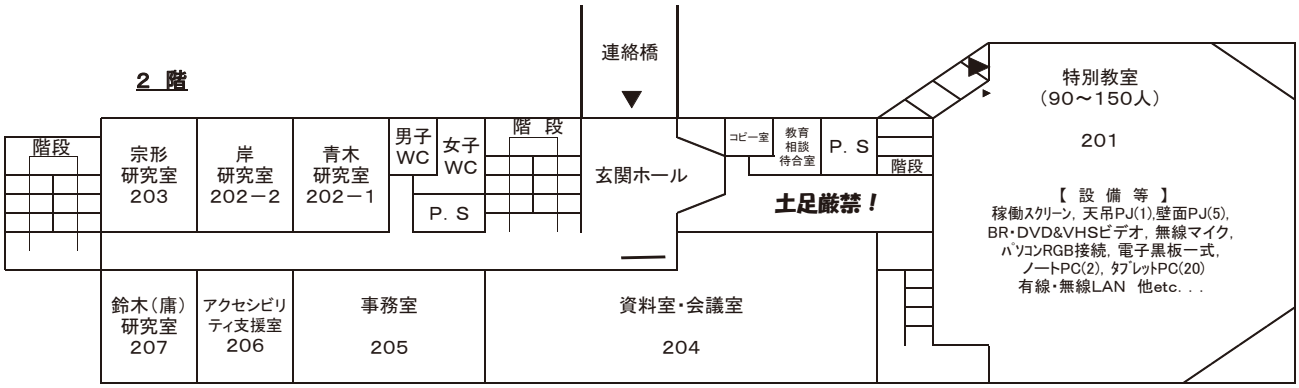
経済経営学類棟3階
310資料室
キャリア研究部門資料室

経済経営学類棟6階
611研究室
高等教育開発部門
高森研究室

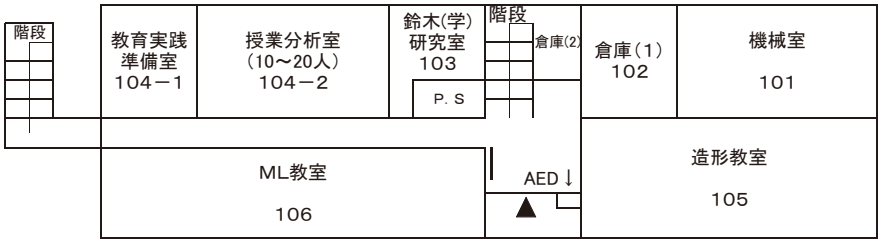
3 階



2 階



1 階

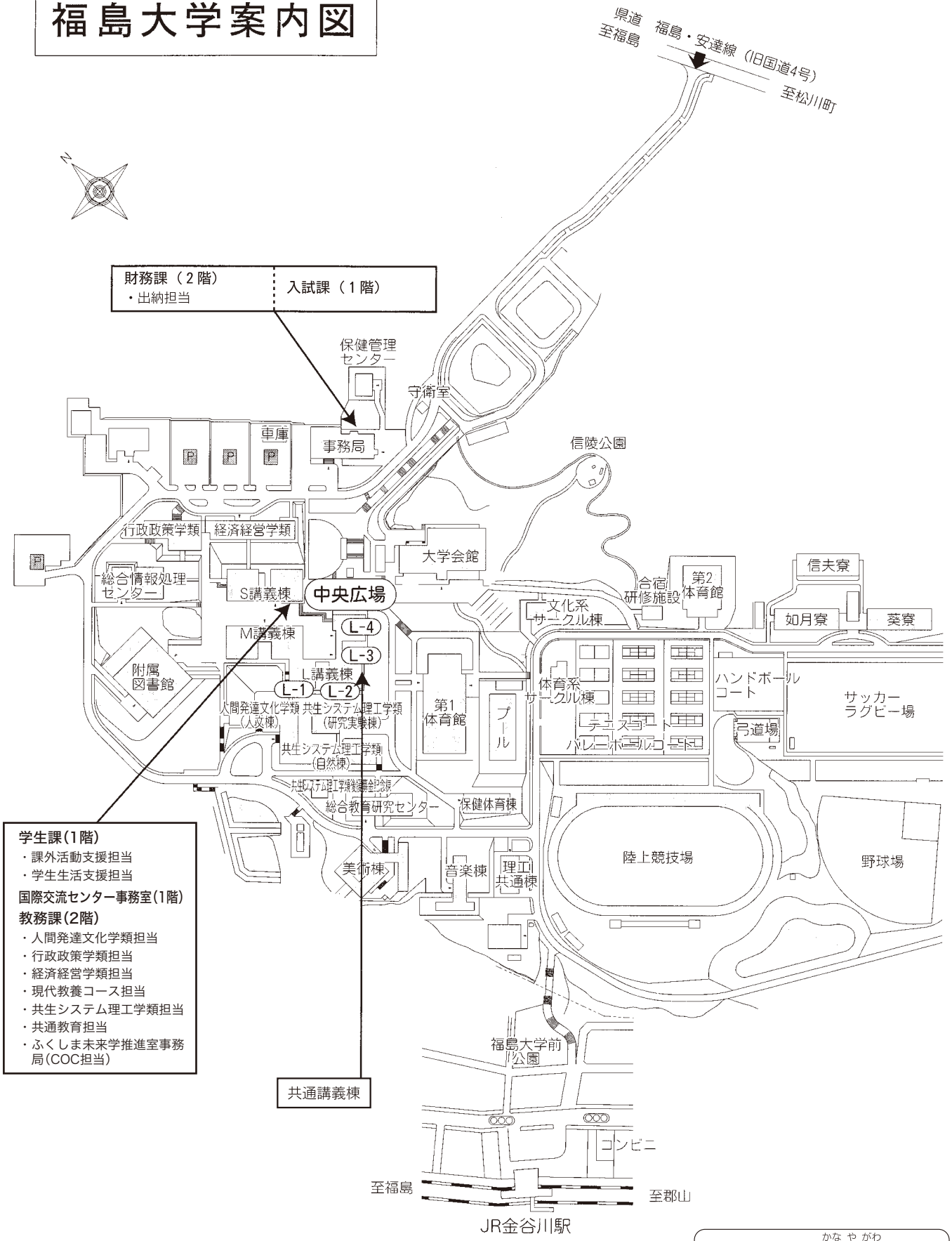


問い合わせ窓口一覧

		担当窓口
学生の身上関係	学生証の紛失，破損	教務課 教務情報担当： TEL　024-548-4070
	休学，退学，改姓・改名，転学類の手続きについて	教務課 人間発達文化学類担当： TEL　024-548-8106 行政政策学類担当： TEL　024-548-8255 経済経営学類担当： TEL　024-548-8356 現代教養コース担当： TEL　024-548-4070 共生システム理工学類担当： TEL　024-548-8357
教務関係	学習案内の見方を確認したい，授業について相談がある場合 （専門領域科目）	
	試験について	
	教員免許状について	
	教育職員免許状取得見込証明書・英文の証明書等	
	COC（ふくしま未来学）について	
	ライブキャンパス（LC）について （学籍情報の登録や住所・電話番号の変更，履修登録の方法等）	教務課 教務情報担当： TEL　024-548-4070
	学習案内の見方を確認したい，授業について相談がある場合 （共通領域科目＆自己デザイン領域）	教務課 共通領域担当： TEL　024-548-8057
	S棟・M棟・L棟の教室を借りたい場合	
	教育実習，介護等体験，保育実習について	教務課 実習担当： TEL　024-549-0061
	インターンシップについて	
	科目等履修生，研究生等について	教務課 教務企画担当： TEL　024-548-8053
	単位互換について	
福利厚生関係・その他	就職・進路（企業求人，公務員・教員採用試験等）について相談がある場合	就職支援課 TEL　024-548-8108
	アルバイトに関すること	
	学内での忘れ物，落し物	学生課 TEL　024-548-8054
	サークル活動で施設を借りたい場合	
	奨学生及び奨学金について質問したい時	学生課 TEL　024-548-8060
	入学料・授業料の免除・徴収猶予について	
	授業料の納入について	財務課 TEL　024-548-8015
	健康についての相談，健康診断書が欲しい場合	保健管理センター TEL　024-548-8068
	相談したいことや悩み事がある場合 （学生生活はもちろん，生活問題まで幅広く）	学生総合相談室 TEL　024-548-5156
	教育研究災害傷害保険等について	福大生協 TEL　024-548-5141
留学生・国際交流関係	留学や国際交流活動について相談したい時 外国人留学生が生活全般や在留資格等について相談したい時	国際交流センター TEL 024-503-3066 024-503-3067

※　教務課はS棟2F，就職支援課はS棟3F，学生課・国際交流センターはS棟1F，財務課は事務局棟2F，保健管理センターは事務局棟裏，学生総合相談室は大学会館2F，福大生協は大学会館1Fにあります。

福島大学案内図



ＪＲ東北本線金谷川（かなやがわ）駅下車
中央広場まで徒歩約10分